



聖詠經

正教會
明治十八年七月

明治二十年二月七日

2689

凡例二則

一 聖詠一百五十篇正教會禱課ニ之ヲ用ル_{トモ}最

多シ故ニ古ヨリ別テ二十「カフズマ」_{譯スレバ}坐誦經

トナシ「カフズマ」又別テ三段トナシ以テ誦讀

ニ便ニス每段ノ後附スルニ光榮讚詞ヲ以ス

一 光榮讚詞左ノ如シ

光榮ハ父ト子ト聖神ニ歸ス今モ何時モ世々ニ

「アミン」

「アリルイヤ」アリルイヤ」アリルイヤ」神ヤ光榮
 ハ爾ニ歸ス 三次
 主憐メヨ 三次
 光榮ハ父ト子ト聖神ニ歸ス今モ何時モ世々ニ
 「アミン」

目錄

第一「カネズマ」	一葉
第二「カネズマ」	十二葉
第三「カネズマ」	廿六葉
第四「カネズマ」	四十三葉
第五「カネズマ」	五十九葉
第六「カネズマ」	七十三葉
第七「カネズマ」	九十二葉
第八「カネズマ」	百十葉
第九「カネズマ」	百廿六葉

第十「カネズマ」	百四十一葉
第十一「カネズマ」	百五十八葉
第十二「カネズマ」	百七十九葉
第十三「カネズマ」	百九十四葉
第十四「カネズマ」	二百九葉
第十五「カネズマ」	二百廿三葉
第十六「カネズマ」	二百卅七葉
第十七「カネズマ」	二百五十葉
第十八「カネズマ」	二百六十七葉
第十九「カネズマ」	二百八十二葉

第二十「カネズマ」	二百九十九葉
續聖詠	三百十葉
附錄	三百十三葉

聖王預言者ダロド



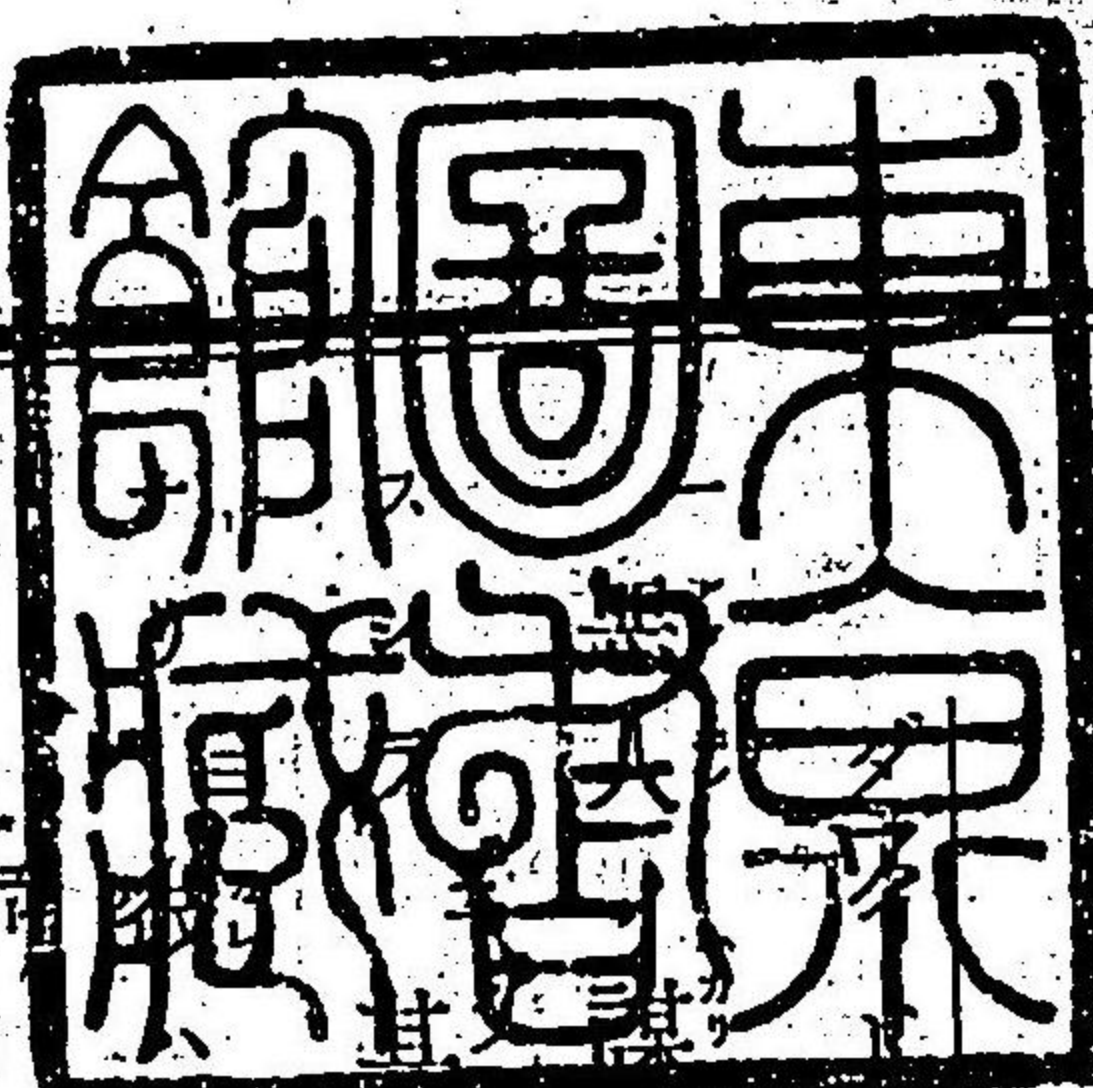
聖詠經

第一「カイズマ」

第一 聖詠

ノ詠

行カズ罪人ノ途ニ立タズ敗壞者ノ位ニ坐セ
 心ヲ主ノ法ニ置キ晝夜此法ヲ思念スル人ハ福
 水邊ニ植ル木ノ時ニ及ンデ果ヲ結ビ其葉萎マ
 ザルガ如シ凡ソ行フ所皆遂ゲザルナシ 四 惡人ハ否ズ乃塵
 ノ地面ヨリ風ニ吹上ゲラル、ガ如シ 五 故ニ惡人ハ審判ニ



聖詠經 第一聖詠

立ツヲ得ズ罪人ハ義人ノ會ニ立ツヲ得ザラン 蓋主ハ義人ノ道ヲ知ル惡人ノ途ハ滅ビシ

第一聖詠

ダワドノ詠

諸民何爲ゾ騷ギ諸族何爲ゾ徒ニ謀ルヤ 地ノ諸王興リ諸侯相議リ主ヲ攻メ其膏ツケラレシ者ヲ攻ム 曰ク我等其繩ヲ斷テ其鎖ヲ棄ント 天ニ居ル者ハ之ヲ晒ヒ主ハ彼等ヲ辱メン 其時憤リテ彼等ニ言ヒ其怒ヲ以テ彼等ヲ擾サン 曰ク我膏ヲ以テ我が王ヲシオン 我ノ聖山ニ膏セリト 我命ヲ宣ベン主我ニ謂ヘリ爾ハ我ノ子我今爾ヲ生メ

リ 我ニ求メヨ我諸民ヲ予ヘテ爾ノ業トナシ地ノ極ヲ予ヘテ爾ノ領トナサン 爾鐵杖ヲ以テ彼等ヲ擊チ陶器ノ如ク彼等ヲ碎カント 故ニ諸王ヤ悟レヨ地ノ士師ヤ學ベヨ 畏レテ主ニ勤メヨ戰テ其前ニ喜ベヨ 子ヲ恭ヘヨ恐ハ彼怒リテ爾等途ニ亡ビシ 蓋其怒速ニ起ラン凡彼ヲ恃ム者ハ福ナリ

第三聖詠

ダワドノ詠其子アワサロムヲ避クル時作ル所ニ主ヤ我が敵ハ何ゾ多キヤ多クノ者ハ我ヲ攻ム 然レドモ主者ハ我が靈ヲ指シテ彼救ヲ神ニ得ズト云フ

ヨ爾ハ我ヲ衛ルノ盾ナリ我ノ榮ナリ爾ハ我が首ヲ舉グ五
 我が聲ヲ以テ主ニ呼ブニ主ハ其聖山ヨリ我ニ聽キ給フ六
 我臥シ眠リ又覺ム蓋主ハ我ヲ扞衛レバナリ七環リテ我ヲ
 攻ルノ萬民ハ我懼ル、ナシ八主ヤ起テヨ吾ガ神ヤ我ヲ救
 ヒ給ヘ蓋爾ハ我が諸敵ノ頰ヲ批チ惡人ノ齒ヲ折ケリ九救
 ハ主ニ依ル爾ノ降福ハ爾ノ民ニ在リ

光榮讚詞

第四聖詠

一 ダラドノ詠伶長ニ琴ヲ彈テ之ヲ歌ハシム
 二 吾ガ義ノ神ヤ我が籟ア時我ニ聽キ給ヘ我が狹ニ在ル時

爾我ニ廣キヲ與ヘリ我ヲ憐ミ我ノ禱ヲ聽キ給ヘ三人ノ子
 ヤ我が榮ノ辱メラル、何ノ時ニ至ルヤ爾等虚ヲ好ミ詭
 ナ求ムル何ノ時ニ至ルヤ爾等主ガ其聖人ヲ析チテ已
 ニ屬セシヲ知レヨ我籲ヘバ主ハ之ヲ聽ク五忿ルモ罪ヲ犯
 ス勿レ榻ニ在ルキ爾等ノ心中ニ謀リテ已ヲ鎮メヨ六義ノ
 祭ヲ獻ゲテ主ヲ恃メヨ七多ノ者ハ言フ誰カ我等ニ善ヲ示
 スヤ主ヤ爾ノ顔ノ光ヲ我等ニ顯シ給ヘ八爾ノ我が心ニ樂
 ナ満タスハ彼等ガ餅ト酒ト油ニ豊ナル時ヨリ勝レリ九我
 安然トシテ偃シ寢ヌ蓋主ヤ獨爾我ニ無難ニシテ世ヲ渡ル
 ナ得セシメ給フ

第五聖詠

一 ダヴドノ詠伶長ニ箏ヲ以テ之ヲ和セシム
 二 主ヤ我が言ヲ聽キ我が思ヲ悟レヨ 三 吾ガ王我が神ヤ我
 ガ呼ブ聲ヲ聽納レ給ヘ我爾ニ祈レバナリ 四 主ヤ晨ニ我が
 聲ヲ聽キ給ヘ我晨ニ爾ノ前ニ立チテ待タン 五 蓋シ爾ハ不
 法ヲ喜バザル神ナリ惡人ハ爾ニ居ルヲ得ズ 六 不虔ノ者ハ
 爾ガ目ノ前ニ止マラザラン爾ハ凡ソ不法ヲ行フ者ヲ憎ム
 七 爾ハ誑ヲ言フ者ヲ亡サン殘忍詭譎ノ者ハ主之ヲ惡ム 八
 唯我爾ガ隣ノ多ニ倚テ爾ノ家ニ入り爾ヲ畏レテ爾ガ聖堂
 ニ伏拜セン 九 主ヤ我が敵ノ爲ニ我ヲ爾ノ義ニ導ギ我が前

ニ爾ノ道ヲ平ニセヨ 十 蓋シ彼等ノ口ニハ眞實ナク彼等ノ
 心ハ惡逆彼等ノ喉ハ開ケシ枢其舌ニテ媚譎フ 十一 神ヤ彼等
 ノ罪ヲ定メ彼等ニ其謀ヲ以テ自敗レシメ彼等ガ不虔ノ甚
 キニ依テ之ヲ逐ヒ給ヘ彼等爾ニ逆ラヘバナリ 十二 凡ソ爾ヲ
 頼ム者ハ喜ビテ永ク樂ミ爾ハ彼等ヲ庇護ラン爾ノ名ヲ愛
 スル者ハ爾ヲ以テ自詡ラントス 十三 蓋主ヤ爾ハ義人ニ福ヲ
 降シ惠ヲ以テ盾ノ如ク之ヲ環ラシ衛レバナリ

第六聖詠

一 ダヴドノ詠伶長ニ八絃ノ琴ヲ以テ之ヲ歌ハ
 シム

主ヤ爾ノ憤ヲ以テ我ヲ責ル勿レ爾ノ怒ヲ以テ我ヲ罰ス
 ル勿レ 三 主ヤ我ヲ隣ミ給ヘ我弱ケレバナリ主ヤ我ヲ醫シ
 給ヘ我ガ骸ハ慄キ 四 我ガ靈モ甚慄ケバナリ爾主ヤ何ノ時
 ニ至ルヤ 五 主ヤ面ヲ轉シ我ガ靈ヲ免レシメ爾ノ隣ニ由テ
 我ヲ救ヒ給ヘ 六 蓋死ノ中ニハ爾ヲ記憶スルナシ墓ノ中ニ
 ハ誰カ爾ヲ讚揚センヤ 七 我嘆テ憊レタリ毎夜我ガ榻ヲ滌
 ヒ我ガ涙ニテ我ノ褥ヲ濡ス 八 我ガ眼ハ憂ニ因テ枯レ我ガ
 諸ノ敵ニ由テ衰老ヘタリ 九 凡ソ不法ヲ行フ者ハ我ヲ離レ
 ヨ 蓋主ハ我ガ泣ク聲ヲ聞ケリ 十 主ハ我ガ願ヲ聽キ給ヘリ
 主ハ我ガ禱ヲ納レントス 十一 願ハ我ガ諸ノ敵ハ辱メラレテ

痛ク撃タレン願ハ退テ俄ニ愧ヲ得ン

光榮讚詞

第七聖詠

一 悲哀ノ詠ダワイドガヱニアミンノ族フスノ事

ニ 因テ主ニ謳歌セシ所

主我ガ神ヤ我爾ヲ頼ム我ヲ悉ノ窘逐者ヨリ救フテ我ヲ
 援ケ給ヘ 三 願ハ彼ハ獅ノ如ク我ガ靈ヲ拔キ援ケ救フ者ナ
 キ時ノ如ク之ヲ壁カザラン 四 主我ガ神ヤ若我何事ヲカ爲
 シ若我ガ手ニ不義アリ 五 若我故ナク我ガ敵トナリシ人ヲ
 モ救ヒシニ我ト親アル者ニ惡ヲ報ユレバ 六 願ハ敵ハ我ガ

靈ヲ追フテ之ヲ執ヘ我が生命ヲ地ニ蹂リ我が榮ヲ塵ニ擲
 ダン 七 主ヤ怒ヲ發シテ興キ我が敵ノ暴虐ニ向ヘヨ我が爲
 ニ起テ爾ガ定メシ審判ヲ行ヒ給ヘ 八 萬民爾ヲ環ラン爾其
 上ノ高ニ升リ給ヘ 九 主ハ衆民ヲ審判ス主ヤ我ノ義ト我ノ
 玷ナキニ循フテ我ヲ審判セヨ 十 願ハ惡者ノ殘害ハ絶ダレ
 ン義人ハ爾之ヲ固メヨ義ナル神ヤ爾ハ人ノ心腹ヲ試ムレ
 バナリ 十一 我ノ盾ハ心正キ者ヲ救フノ神ニアリ 十二 神ハ義且
 勇毅ニシテ寬忍ナル審判者ナリ 十三 又神ハ人若反正セザレ
 バ日々ニ嚴ク糾ス者ナリ彼ハ其劍ヲ礪ギ其弓ヲ張りテ之
 ヲ向ケ 十四 是ガ爲ニ死ノ器ヲ備ヘ其矢ヲ以テ火箭ト爲ス 十五

夫レ惡者ハ不義ヲ宿シ殘害ヲ孕ミ己ノ爲ニ詐僞ヲ生メリ
 十六 阱ヲ掘リ之ヲ掘竣リテ自設ケシ穴ニ陷レリ 十七 其殘害ハ
 其首ニ歸リ其暴虐ハ其頂ニ落ン 十八 我主ノ義ニ因テ之ヲ崇
 讚メ至上ナル主ノ名ヲ讚歌フ

第八聖詠

一
 ダウイドノ詠伶長ニゲフノ樂器ヲ以テ之ヲ歌
 ハシム

ニ主我ガ神ヤ爾ノ名ハ何ゾ全地ニ大ナルヤ爾ノ光榮ハ諸
 天ニ超ユ 三 爾ハ爾ガ敵ノ故ヲ以テ嬰兒ト哺乳者ノ口ヨリ
 讚美ヲ備ヘ敵ト仇ヲ報ユル者トニ言ナカラシメ給ヘ 四

我爾ガ指ノ所爲ナル諸天ヲ觀爾ノ建テシ月ト星ヲ觀レバ
 五 則人ハ何物タル爾之ヲ憶フヤ人ノ子ハ何物タル爾之ヲ
 顧ルヤ 爾彼ヲ神使ヨリ少ク降ラシメ彼ニ光榮ト尊敬ヲ
 冠ラセ 彼ヲ立テ爾ガ手ノ作りシ物ノ宰トナシ萬物ヲ其
 足下ニ置ケリ 即悉ノ羊ト牛又野ノ獸 天ノ鳥海ノ魚一
 切海ニ游グ者ナリ 主我が神ヤ爾ノ名ハ何ゾ全地ニ大ナ
 ルヤ

光榮讚詞

第二「カフィズマ」

第九聖詠

一 ダウトノ詠伶長ニ之ヲ歌ハシムラベン死ス
 二 後作ル所

ニ 主ヤ我心ヲ盡シテ爾ヲ讚揚ゲ爾ガ悉ノ奇迹ヲ傳ヘン
 至上者ヤ我爾ノ爲ニ慶ビ祝ヒ爾ノ名ニ歌ハン 我が敵ハ
 退ケラル、時蹟テ爾ガ顔ノ前ニ亡ビン 蓋爾ハ我が判ヲ
 行ヒ我が訟ヲ理メタリ義ナル審判者ヤ爾ハ寶座ニ坐セリ
 六 爾ハ諸民ヲ憤リ惡者ヲ亡シ其名ヲ永遠ニ抹セリ 敵ニ
 ハ武器悉ク盡キ城邑ハ爾之ヲ毀テ其記憶ハ是ト偕ニ滅ビ
 タリ 唯主ハ永遠ニ存ス彼ハ審判ノ爲ニ其寶座ヲ備ヘリ
 九 彼ハ義ヲ以テ世界ヲ審判シ直ヲ以テ審判ヲ諸民ニ行ハ

ン 主ハ苦メラル、者ノ爲ニ避所トナリ憂ノ時ニ於テ避
 所トナラン 爾ノ名ヲ知ル者ハ爾ヲ頼マン主ヤ爾ハ尋ル
 者ヲ棄テザレバナリ シオンニ居ルノ主ニ歌ヘヨ彼ノ行
 フヲ諸民ノ中ニ傳ヘヨ 蓋彼ハ血ノ爲ニ報イ之ヲ記憶
 シテ苦ラル、者ノ呼ブヲ忘レズ 主ヤ我ヲ憐メヨ我ヲ
 死ノ門ヨリ升シテ爾ガ悉ノ讚美ヲシオンノ女ノ門ニ傳ヘ
 シムル者ヤ我ヲ疾ム者ガ我ニ加フルノ苦ヲ見ヨ我爾ガ救
 ノ爲ニ喜バン 諸民ハ其掘ル所ノ阱ニ陥リ其藏セシ所ノ
 網ニ己ノ足ヲ繫ヘリ 主ハ其行ヒシ審判ニ依テ知ラレ惡
 者ハ己ガ手ノ所爲ニテ執ラレタリ 願ハ惡者凡神ヲ忘ル

、ノ民ハ地獄ニ赴カシ 蓋貧キ者ハ永ク忘レラレズ乏キ
 者ノ望ハ永ク絶タレザラン 主ヤ起キヨ人ニ勝タシムル
 勿レ願ハ諸民ハ爾ガ顔ノ前ニ審判セラレン 主ヤ彼等ヲ
 懼レシメヨ願ハ諸民ハ己ガ人タルヲ知ラン 主ヤ何ゾ遠
 ク立テ憂ノ時ニ己ヲ隱スヤ 惡者ハ誇ニ依テ貧キ者ヲ凌
 グ願ハ彼等自設ル所ノ謀ニ陥ラン 蓋惡者ハ其靈ノ慾ヲ
 以テ自誇リ利ヲ貪ル者ハ己ヲ讚ム 惡者ハ其驕ヲ以テ主
 ナ輕シテ糺サマラント云フ其悉ノ思ノ中ニ神ヲシトス 彼
 ノ道ハ恒ニ害アリ爾ノ定ハ彼ニ遠カル彼ハ其悉ノ敵ヲ藐
 視ル 其心ニ謂フ我動カザラン代々禍ニ遭ハザラン 其

口ニハ詛呪ト欺詐ト詭計ヲ滿テ其舌ノ下ニハ窘迫ト殘害
 アリ 彼ハ垣ノ後埋伏所ニ坐シ罪ヲキ者ヲ隱タル所ニ殺
 シ目ヲ以テ貧キ者ヲ窺フ 隱タル所ニ伏シ狙フヲ獅ノ窟
 ニ在ルガ如シ埋伏所ニ伏シ狙ヒ貧キ者ヲ執ヘントス貧キ
 者ヲ執ヘ牽テ己ノ網ニ入ル 彼ハ踰リ伏シ貧キ者ハ其勁
 キ爪ニ落ツ 彼ハ其心ニ謂フ神ハ忘レ己ノ面ヲ匿シ永ク
 見ザラン 主我が神ヤ起キテ爾ノ手ヲ舉ゲヨ苦ム者ヲ永
 ク忘ル、勿レ 惡者ハ何ゾ神ヲ輕シテ其心ニ爾ハ糺サザ
 ラント云フヤ 爾之ヲ見ル蓋爾ハ陵ト虐ヲ鑿ミ爾ノ手ヲ
 以テ之ニ報イントス貧キ者ハ爾ニ頼ル 孤ヲ扶クル者ハ爾

ナリ 求ム惡者ト罪者ノ臂ヲ折テ其惡事ヲ尋ルモ得ルナ
 キニ至ラシメヨ 主ハ王トナリテ世々ニ終ナカラシ異邦
 民ハ其地ヨリ絶タレントス 主ヤ爾ハ謙遜ノ者ノ望ヲ聞
 ク 彼等ノ心ヲ固メヨ爾ノ耳ヲ開キテ 孤ト苦メラル、者
 ノ爲ニ審判ヲ行ヒ人ニ復地上ニ於テ恐嚇サメラシメ給ヘ
 第十聖詠
 ダavidノ詠伶長ニ之ヲ歌ハシム
 一 我主ヲ恃ム爾等何ゾ我が靈ニ向フテ云フ鳥ノ如飛デ爾
 ノ山ニ至レニ 蓋惡人弓ヲ張り其矢ヲ弦ニ備ヘ暗ニ在テ心
 ノ義ナル者ヲ射ント欲ス 基壞ラルレバ義人何ヲ爲サン

ヤト 四 主ハ其聖堂ニアリ主ノ寶座ハ天ニ在リ其目ハ貧キ
 者ヲ見其險ハ人ノ子ヲ試ム 五 主ハ義者ヲ試ミ其心ハ惡人
 ト暴虐ヲ好ム者ヲ疾ム 六 彼ハ熱炭烈火硫磺ヲ雨ノ如ク惡
 人ニ注ガン炎風ハ彼等ガ杯ノ分ナリ 七 盖主ハ義ニシテ義
 ヲ愛シ其顔ハ義人ヲ視ル

光榮讚詞

第十一聖詠

一 ダウイドノ詠伶長ニ八絃ノ樂器ヲ以テ之ヲ歌
 ハシム

二 主ヤ我ヲ救ヒ給ヘ盖義人ハ絶エ人ノ子ノ中ニ忠信ノ者

ナシ 三 人各其隣ニ譎ヲ言ヒ媚諂フ口ニテ貳心ヨリ言フ 四
 主ハ悉クノ媚諂フ口ト誇高ブル舌ヲ絶テ 五 彼ノ我が舌ニ
 テ勝タン我ガ口ハ我等ト共ニアリ誰カ我が主タランヤト
 言フ者ヲ絶タン 六 主曰ク貧キ者ノ苦ト乏キ者ノ嘆ニ因リ
 我今興キ執ヘテレントスル者ヲ危カラザル處ニ置カン 七
 主ノ言ハ淨キ言ナリ爐ニ於テ土ヨリ淨メラレテ七次鍊ラ
 レタルノ銀ナリ 八 主ヤ爾ハ我等ヲ保テ我等ヲ護リテ斯世
 ヨリ永遠ニ至ラン 九 人ノ子ノ中小人高ニ在レバ惡者四方
 ニ環ル

第十二聖詠

一 ダウイドノ詠伶長ニ之ヲ歌ハシム
 二 主ヤ我ヲ全ク忘ル、何ノ時ニ至ルヤ爾ノ面ヲ我ニ隠
 ス、何ノ時ニ至ルヤ我ガ靈ノ中ニ謀リ心ノ中ニ日夜憂
 ナ懷ク、何ノ時ニ至ルヤ我ガ敵ノ我ニ高ブル、何ノ時ニ
 至ルヤ主我ガ神ヤ顧テ我ニ聽キ給ヘ我ガ目ヲ明ニシテ
 我ヲ死ノ寐ニ寐ザラシメ給ヘ我ガ敵ニ我ハ彼ニ勝テリ
 ト曰ハザラシメ給ヘ我ヲ攻ル者ニ我ガ撼ク時ニ喜ブ、ナ
 カラシメ給ヘ我爾ノ憐ヲ恃ミ我ガ心爾ノ救ヲ喜バン我
 恩ヲ施スノ主ヲ讚頌ヒ至上ナル主ノ名ヲ崇歌ハン

第十三聖詠

一 ダウイドノ詠伶長ニ之ヲ歌ハシム
 一 愚ナル者ハ其心ニ云ヘリ神ナシト彼等ハ自壞レ憎ムベ
 キ、行ヘリ善ヲナス者ナシ、主ハ天ヨリ人ノ子ヲ臨ミ
 或ハ智明ニシテ神ヲ求ル者アルヤ否ヲ見ント欲ス、皆迷
 ヒ均ク朽敗レタリ善ヲ行フ者ナシ、一モ亦ナシ、凡ソ不法
 ナ行ヒ餅ヲ食フガ如ク我ガ民ヲ食ヒ及主ヲ呼バザル者豈
 悟ラズヤ、彼等ハ懼ナキ處ニ懼レン、蓋神ハ義人ノ族ニア
 リ、爾等ハ貧者ノ意ニ主ハ彼ノ恃ト謂フヲ嘲リタリ、誰
 カシオンヨリ救ヲイズライリニ與ヘンヤト主ガ其民ノ虜
 ナ返サン、イヤコフハ喜ビイズライリハ樂マン

光榮讚詞

第十四聖詠

ダウイドノ詠

一 主ヤ孰カ爾ノ住所ニ居ルヲ得ルヤ孰カ爾ノ聖山ニ在ル
 ナ得ルヤ 二 玷ナキヲ行ヒ義ヲナシ其心ニ眞實ヲ言フ者
 其舌ニテ讒言セズ其親キ者ニ惡ヲナサズ其隣ヲ誹ルノ謗
 ナ受ケズ 四 神ニ棄テラレシ者ヲ輕シ主ヲ畏ル、者ヲ讚揚
 ゲ誓ヲ發スレハ惡人ノ前ト雖モ變ズ 五 銀ヲ貸シテ利ヲ取
 ラズ賂ヲ受ケテ辜ナキ者ヲ責メズ此ノ如ク行フ者ハ永ク
 搖撼カザラン

第十五聖詠

ダウイドノ歌

一 神ヤ我ヲ護リ給ヘ我爾ヲ恃メバナリニ我主ニ云ヘリ爾
 ハ我が主ナリ我ノ福ハ爾之ヲ要セズ 三 地上ノ聖人ト爾ノ
 奇異ナル者トハ我專之ヲ悦ブ 四 趨テ他ノ神ニ向フ者ハ願
 ハ其憂益多カラシ其灌奠ルノ血ハ我之ヲ灌ガズ其名ハ我
 ガ口ヲ以テ之ヲ稱ヘザラン 五 主ハ我が嗣業ト我が爵ノ分
 ナリ爾ハ我ノ閥ヲ執ル 六 我ノ界ハ美ナル地ヲ繞ル我ノ嗣
 業ハ我が喜ブ所ナリ 七 我我ガ悟ヲ啓キシ主ヲ讚揚ゲン夜
 ニ至テモ我が中心我ヲ誨フ 八 我恒ニ主ヲ我が前ニ見タリ

蓋彼我が右ニアリ我動カザラン 九 此ニ因テ我が心ハ喜ビ
 我が舌ハ樂メリ我が身ニ至テモ望ニ安ンゼン 十 蓋爾我靈
 ナ地獄ニ遺サズ爾ノ聖者ニ朽ルヲ見セシメザラン 十一 爾我
 ニ生命ノ道ヲ示サン爾ガ顔ノ前ニ充滿ノ喜アリ爾ガ右ノ
 手ニ世々ノ福樂アリ

第十六聖詠

ダウイドノ祈禱

一 主ヤ我ノ直ヲ聽キ我ノ呼ヲ聆納レ偽ラザル口ヨリ出ル
 禱ヲ受ケ給ヘ 二 願ハ我ヲ判クノ判ハ爾ノ顔ヨリ出デ爾ノ
 目ハ義ニ注ガシ 三 爾ハ已ニ我が心ヲ驗シ夜中ニ臨ミ我ヲ

試ミテ得ル所ナシ我が口ハ我ノ思ニ離レズ 四 人ノ行フ所
 ニ於テハ我爾ガ口ノ言ニ循フテ迫害者ノ途ヲ慎メリ 五 我
 ガ歩テ爾ノ路ニ固メヨ我が足ノ蹶カザルガ爲ナリ 六 神ヤ
 我爾ニ籲ブ蓋爾我ニ聽カン爾ノ耳ヲ我ニ傾ケテ我が言ヲ
 聆キ給ヘ 七 爾ヲ頼ム者ヲ爾ノ右ノ手ニ敵スル者ヨリ救フ
 ノ主ヤ爾ノ妙ナル憐ヲ顯シ給ヘ 八 我ヲ眸子ノ如ク護レヨ
 爾ガ翼ノ蔭ニテ 九 我ヲ攻ル不虔者ノ面我ヲ環ル我が靈ノ
 敵ヨリ我ヲ覆ヒ給ヘ 十 彼等ハ已ノ脂ニ包マレ己ノ口ニテ
 高ブリ言フ 十一 今我が歩ム度ニ我等ヲ環リ目狙フテ地ニ顛
 サント欲ス 十二 彼等ハ獲物ヲ貪ル獅ノ如ク隠ナル處ニ躡ル

小獅ノ如シ 十三 主ヤ起キヨ彼等ニ先チテ彼等ヲ殲シ爾ノ劍
 ナ以テ我ガ靈ヲ不虔者ヨリ救ヘ 十四 主ヤ爾ノ手ヲ以テ人即
 世ノ人ヨリ救ヒ給ヘ彼等ノ業ハ今生ニアリ爾ハ爾ノ寶藏
 ヨリ其腹ヲ充タシ彼等ノ子モ壓キテ餘ヲ其裔ニ殘スニ至
 ラン 十五 惟我ハ義ヲ以テ爾ノ顔ヲ見ントス覺起キテ爾ノ容
 ナ以テ自壓足ラン

光榮讚詞

第三「カニスマ」

第十七聖詠

主ノ僕ダウダ之ヲ作りテ伶長ニ之ヲ歌ハシ

ム主ダウダ其諸敵ノ手及サウルノ手ヨリ
 救ヒシ時彼此歌ノ詞ヲ述ベテ云ヘリ

ニ主我ノ力ヤ我爾ヲ愛セン 三 主ハ我ノ防固我ノ避所ナリ
 我ヲ救フ者我ノ神我ノ磐ナリ我彼ヲ恃ム彼ハ我ノ盾我ガ
 救ノ角我ノ遁ル、所ナリ 四 我拜ムベキ主ヲ籲ベバ我ガ敵
 ヨリ救ハレン 五 死ヲ致スノ苦ハ我ヲ圍ミ不法ノ流ハ我ヲ
 嚇セリ 六 地獄ノ鎖ハ我ヲ環リ死ノ網ハ我ヲ纏ヘリ 七 我患
 難ノ中ニ主ヲ籲ビ我ガ神ニ呼ベリ彼其聖殿ヨリ我ガ聲ヲ
 聽キ我ガ呼聲ハ其耳ニ至レリ 八 地ハ震ヒ且動キ山ノ基ハ
 揺テ移レリ神怒ヲ發スレバナリ 九 其怒ニ因テ烟起リ其口

ヨリ嚼ムノ火出デ靱炭ハ彼ヨリ散テ落ツ 彼ハ天ヲ傾ケ
 テ降レリ其足下ハ闇冥ナリ 十一 ヘルヲムニ騎テ飛ビ風ノ翼
 ニテ翔リ 闇冥ヲ己ノ蔽トナシ水ノ闇冥天雲ノ闇冥ヲ己
 ナ繞ルノ影トセリ 十三 輝ニ依テ彼ノ前ニ其雲ト電ト紅炭ハ
 馳セタリ 十四 主ハ天ニ轟キ至上者ハ己ノ聲ト電ト紅炭ヲ予
 へ 十五 己ノ矢ヲ射テ之ヲ散ラシ衆ノ電ヲ發シテ之ヲ散セリ
 十六 主ヤ爾ガ威嚴ノ聲ニ因テ爾ガ怒ノ氣ノ吹ニ因テ水ノ泉
 現レ世界ノ基顯レタリ 十七 彼ハ高ヨリ手ヲ伸ベ我ヲ取りテ
 多ノ水ヨリ出セリ 十八 我ヲ我ガ勁キ敵ト我ヲ疾ム我ヨリ強
 キ者ヨリ救ヘリ 十九 彼等ハ我ガ患難ノ日ニ於テ起ツテ我ヲ

攻ムレモ主ハ我ガ依ル所トナレリ 廿 彼我ヲ廣キ處ニ引出
 シテ我ヲ救ヘリ其我ヲ悦ブニ縁ル 廿一 主ハ我ノ義ニ循フテ
 我ニ報イ我ガ手ノ潔ニ循フテ我ヲ賞セリ 廿二 蓋我曾テ主ノ
 道ヲ守リ我ガ神ノ前ニ惡者タラズ 廿三 蓋其誠ハ悉ク我ガ前
 ニアリ我未ダ其律ヲ離レズ 廿四 我彼ノ前ニ玷ナシ謹テ罪ニ
 陷ラシコナ防ゲリ 廿五 故ニ主ハ我ノ義ニ循ヒ我ガ手ノ其目
 前ニ潔ニ循フテ我ニ報エリ 廿六 矜恤アル者ニハ爾矜恤ヲ以
 テ之ニ施シ正直ノ者ニハ爾正直ヲ以テ之ニ施シ 廿七 潔キ者
 ニハ爾潔ヲ以テ之ニ施シ邪ナル者ニハ爾其邪ニ循フテ之
 ニ施ス 廿八 蓋爾ハ迫害セラレシ者ヲ救ヒ高アレル目ヲ卑ウ

ス 主廿九ヤ爾ナシテハ我ワガ燈トモヲ然トモシ我ワガ神カミハ我ワノ闇冥クラヤミヲ照サスス 我ワ
 爾ナシテト偕トモニ軍ツヲ敗ヤリ我ワガ神カミト偕トモニ城垣シキウチニ升ノボル 嗚乎ト神カミヤ其ソノ
 道ミチハ玷キスナシ主ツノ言コトハ潔イキヤクシ彼カレハ凡ホトソ彼カレヲ恃タシム者モノノ盾タテナリ
 蓋カサシ主ツノ外ホカ孰タレカ神カミタル我ワガ神カミノ外ホカ孰タレカ護マモタルヤ 神カミハ力チカラヲ
 以モツテ我ワニ束ツテ我ワガ爲タメニ正タシキ路ミチヲ備ツフ 我ワガ足アシヲ鹿シカノ如トシク
 ニシ我ワヲ高タカキ處トコロニ立タシム 我ワガ手テニ戰タケヲ教シフ我ワガ臂ヒラハ銅アウシ
 ノ弓ユミヲ擢ツク 爾ハ我ワニ爾ノ盾タテヲ賜タマヒ爾ハ右ミキノ手テハ我ワ
 ナ扶タケ爾ノ隣ナリハ我ワヲ大オホトナス 爾ハ我ワノ下ソトニ我ワガ步アヒヲ寬ヒロ
 ウシ我ワガ足アシハ搖ウ撼カズ 我ワガ敵テキヲ追オフテ之コニ及オビ之コヲ
 滅ホトサレバ返クラズ 彼等カレヲ擊ウテバ彼等カレ起タツ能アハズ我ワガ足アシ

ノ下ソトニ顛タラ 蓋カサ爾ノ力チカラヲ以モツテ我ワニ束ツテ戰タケニ備ツヘ起タテ我ワヲ
 攻キル者モノヲ我ワガ足アシノ下ソトニ降シセリ 爾ハ我ワガ敵テキノ背セヲ我ワニ向ムケ
 我ワヲ疾ハム者モノハ我ワ之コヲ滅ホトス 彼等カレハ呼コベドモ救タフ者モノナシ主ツ
 ニ籲コブモ彼カレハ聽キカス 我ワ彼等カレヲ散チラスコト風前フゼノ塵チノ如トシ
 ク彼等カレヲ踏フムコト途ミチノ泥ヒヤクノ如トシ 爾ハ我ワヲ民タミノ爭ウ乱ランヨリ救タ
 ヒ我ワヲ立タテ、異邦イハツノ首カシラトナセリ我ワガ曾ソコテ識シラザルノ民タミ我ワ
 ニ勤ツム 彼等カレ一ヒトタビ我ワガ事コトヲ聞キケバ我ワニ服フス異邦イハツ人ヒトハ我ワ
 ガ前マニ諂ヘフ 異邦イハツ人ヒト色シヲ變ハシテ其ソノ固塞ツツノ中ナカニ戰ウク 主ツハ
 生キ活カナリ我ワヲ護マモル者モノハ崇讚アガサホメラル 願ネガクハ我ワガ救タメノ神カミ我ワ
 ガ爲タメニ仇アタヲ復カヘシ我ワニ諸民ソノヲ從ツハシムルノ神カミ我ワヲ諸敵ソノヲ

リ救シ者ハ崇讚メラレン四九ナシ 爾我ヲ起ツテ我ヲ攻ル者ノ上
 ニ擧ゲ殘忍ノ人ヨリ我ヲ救ヘリ五十ソユ 主ヤ故ニ我爾ヲ異邦ノ
 中ニ讚揚ゲン五一ホキ 大ナル救ヲ王ニ施シホキ 憐ヲ爾ノ膏傳ケラレ
 シ者ダゾド及ビ其裔ニ世々ニ垂ル、者ヤ我爾ノ名ニ歌ハ
 ン

光榮讚詞

第十八聖詠

一 ダゾドノ詠伶長ニ之ヲ歌ハシム
 ニ天ハ神ノ光榮ヲ傳ヘ穹蒼ハ其手ノ作ル所ヲ誥グ三 日ハ
 日ニ言ヲ宣ベ夜ハ夜ニ智ヲ施ス四 其聲ノ聞エザル言語ナ

ク方言ナシ五 其聲ハ全地ニ傳ハリ其言ハ地ヲ極ニ至ル神
 ハ其中ニ日ノ住所ヲ建テリ六 日ハ出ル七 新郎ガ婚宴ノ宮
 ナ出ルガ如ク喜ンデ途ヲ驅ル七 勇士ノ如シ七 天ノ涯ヨリ
 出テ行テ天ノ涯ニ至ル物トシテ其溫ヲ蒙ラザルナシ八 主
 ノ法律ハ全備ニシテ靈ヲ固メ主ノ啓示ハ正クシテ蒙者ヲ
 慧カラシム九 主ノ命ハ義ニシテ心ヲ樂マセ主ノ誠ハ明ニ
 シテ目ヲ明ス十 主ヲ畏ル、ノ畏ハ淨クシテ世々ニ存ス主
 ノ諸ノ定ハ眞實ニシテ皆義ナリ十一 之ヲ金ニ較ベ多ノ純金
 ニ較ルモ尙慕フベシ甘キ十二 蜜ニ愈リ房ヨリ滴ルノ蜜ニ愈
 ル十二 爾ノ僕ハ此ニ籍テ衛ラレ之ヲ守ル者ハ大ナル賚ヲ得

十三 孰カ己ノ過ヲ認メンヤ我が隠ナル咎ヨリ我ヲ淨メ給
 十四 爾ノ僕ヲ故犯ヨリ止メテ之ニ我ヲ制セシムル母レ然
 セバ我玷ナクシテ大ナル罪ヨリ潔クナラン 十五 主我が防固
 ト我ヲ救フ者ヤ願ハ我が口ノ言ト我が心ノ思ハ爾ニ悦バ
 レン

第十九聖詠

一 ダウイドノ詠伶長ニ之ヲ歌ハシム

二 願ハ主ハ憂ノ日ニ於テ爾ニ聽キイヤコフノ神ノ名ハ爾
 ナ扞ギ衛ラン 三 願ハ聖所ヨリ助テ爾ニ施シシオンヨリ爾
 ナ固メン 四 願ハ爾ガ悉ノ献物ヲ記憶シ爾ノ燔祭ヲ肥エタ

五 物トセン 願ハ主ハ爾ノ心ニ循テ爾ニ與ヘ爾ガ都ノ謀
 ル所ヲ成サン 六 我等ハ爾ノ救ヲ喜ビ吾ガ神ノ名ニ依テ旌
 ナ揚ゲン 願ハ主ハ爾ガ都ノ願ヲ成サン 七 今我主ガ其膏傅
 ケラレシ者ヲ救フヲ知レリ彼ハ聖天ヨリ其救ノ右ノ手ノ
 カヲ以テ之ニ對フ 八 或ハ車ヲ以テ或ハ馬ヲ以テ誇ル者ア
 リ唯我等ハ主吾ガ神ノ名ヲ以テ誇ル 九 彼等ハ動テ顛レ唯
 我等ハ起キテ直ク立ツ 十 主ヤ王ヲ救ヘ又我等ガ爾ニ呼バ
 ン時我等ニ聽キ給ヘ

第二十聖詠

一 ダウイドノ詠伶長ニ之ヲ歌ハシム

主ヤ王ハ爾ノ力ヲ樂ミ爾ノ救ヲ歡ブ極リナシ 其心
 ニ望ム所ハ爾之ヲ與ヘ其口ニ求ムル所ハ爾之ヲ辭マズ
 蓋爾ハ仁慈ノ降福ヲ以テ之ヲ迂ヘ純金ノ冠ヲ其首ニ冠ラ
 セリ 彼生命ヲ爾ニ願ヒシニ爾之ニ世々ノ壽ヲ賜ヘリ
 彼ノ榮ハ爾ノ救ヲ以テ大ナリ爾ハ尊榮ト威嚴ヲ之ニ被ラ
 セリ 爾ハ彼ニ幸福ヲ世々ニ賜ヒ爾ガ顔ノ歡ニテ彼ヲ樂
 マセリ 蓋王ハ主ヲ頼ミ至上者ノ仁慈ニ因テ動カザラン
 爾ノ手ハ爾ガ悉ノ敵ヲ尋子出シ爾ノ右ノ手ハ凡ソ爾ヲ
 憾ム者ヲ尋子出サントス 爾怒ル時彼等ヲ火爐ノ如クナ
 サン主ハ其怒ニ於テ彼等ヲ滅シ火ハ彼等ヲ醫ントス 爾

ハ彼等ノ果チ地ヨリ絶テ彼等ノ種チ人ノ子ノ中ヨリ絶
 トス 蓋彼等ハ爾ニ向フテ惡事ヲ企テ謀ヲ設レ之ヲ遂
 グル能ハズ 爾彼等ヲ立テ、的トナシ爾ノ弓ヲ以テ矢
 チ其面ニ發タントス 主ヤ爾ノ力ヲ以テ自舉レヨ我等ハ
 爾ノ權能ヲ頌讚ン

光榮讚詞

第廿一聖詠

一 ダavidノ詠曉ニ伶長ニ之ヲ歌ハシム
 我ガ神ヤ我ガ神ヤ我ニ聽キ給ヘ何ゾ我ヲ棄テシヤ我ガ
 呼ブノ言ハ我ガ救ヨリ遠シ 我ガ神ヤ我晝ニ呼ベヒ爾耳

ナ傾ケズ夜ニ呼ブモ我安ヲ得ズ 然レモ爾聖者ハイズラ
 イリノ讚榮ノ中ニ居ル 我ガ列祖ハ爾ヲ恃メリ恃メバ爾
 彼等ヲ援ケリ 彼等ハ爾ニ呼デ救ハレタリ爾ヲ恃ミテ羞
 ナ承ケズ 我ハ蟲ニシテ人ニ非ズ人ノ辱ル所ノ者民ノ貌
 ズル所ノ者ナリ 我ヲ見ル者皆我ヲ嘲リ首ヲ搖シテ口ニ
 云フ 彼ハ主ヲ恃メリ彼苟モ其愛ヲ獲バ主ハ彼ヲ援クベ
 シ救フベシ 然レモ爾我ヲ腹ヨリ出セリ我母ノ懷ニ在ル
 片爾我ガ中ニ恃ヲ置ケリ 我腹ヲ出シヨリ爾ニ託ス我ガ
 母ノ腹ニ在ルキヨリ爾ハ吾ガ神ナリ 我ヲ離ル、母レ蓋
 憂邇ヅケモ佑クル者ナシ 多ノ牡牛ハ我ヲ環リワサンノ

肥タル者ハ我ヲ圍メリ 彼等ハ口ヲ啓テ我ヲ攻ム獲ニ饑
 テ吼ルノ獅ノ如シ 我注ガレシ水ノ如ク我ガ骨皆散シ
 我ガ心ハ蠟ノ如クナリテ我ガ腹ノ中ニ鎔ケリ 我ガ力ハ
 枯レシ瓦ノ片ノ如ク我ガ舌ハ齧ニ貼ク爾我ヲ死ノ塵ニ
 降セリ 蓋犬ノ群ハ我ヲ環リ惡者ノ黨ハ我ヲ圍ミ我ガ手
 我ガ足ヲ刺穿ケリ 我ガ骨皆數フベシ 彼等目ヲ注デ我ヲ
 戲レ視ル 共ニ我ガ外衣ヲ分テ我ガ裏衣ヲ闔ス 主ヤ我
 ナ離ル、母レ我ガ力ヤ速ニ我ヲ佑ケヨ 我ガ靈ヲ劍ヨリ
 援ケ我ガ獨者ヲ犬ヨリ援ケ給ヘ 我ヲ獅ノ口ヨリ救ヒ我
 ニ聆テ我ヲ兕ノ角ヨリ救ヒ給ヘ 我爾ノ名ヲ我ガ兄弟ニ

傳へ爾ヲ會中ニ讚揚ゲントス 主ヲ畏ル、者ヤ彼ヲ讚揚
 ゲヨイヤコフノ裔ヤ咸彼ヲ讚榮セヨイズライリノ裔ヤ咸
 彼ノ前ニ敬ムベシ 蓋彼ハ苦ム者ノ憂ヲ輕ゼズ厭ハズ其
 顔ヲ彼ニ隠サズ則彼ガ呼ブキ之ヲ聆ケリ 我ガ大會中ニ
 讚揚グルハ爾ニ歸ス我ガ誓ヲ彼ヲ畏ル、者ノ前ニ償ハン
 願ハ貧窮ノ者ハ食フテ飲キ主ヲ尋ル者ハ彼ヲ讚揚ゲン
 願ハ爾等ノ心ハ永ク活キン 地ノ極ハ皆記念シテ主ニ歸
 シ異邦ノ諸族ハ皆爾ノ前ニ伏拜セン 蓋國權ハ主ニ屬ス
 彼ハ萬民ノ主宰ナリ 地上ノ豊ナル者ハ皆食フテ伏拜セ
 ン塵ニ歸スル者己ノ生命ヲ護ル能ハザル者ハ皆彼ノ前ニ

叩拜セン 我ガ子孫ハ彼ニ事ヘテ永ク主ノ者ト稱ヘラレ
 ン 人々來リテ主ノ義主ノ行ヲヒシヲ後生ノ人ニ傳ヘ
 シトス

第廿二聖詠

ダウトノ詠

主ハ我ノ牧者ナリ我萬事ニ乏カラザラン 彼ハ我ヲ茂
 キ草場ニ休ハシ我ヲ穩ナル水ニ導ク 我ガ靈ヲ固メ己ガ
 名ノ爲ニ我ヲ義ノ路ニ赴カシム 倘我死ノ蔭ノ谷ヲ往ク
 凡惡ヲ懼レザラン 蓋爾ハ我ト偕ニス爾ノ杖ト爾ノ挺ハ我
 ナ安ズ 爾ハ我ガ敵ノ目前ニ於テ我ガ爲ニ筵ヲ設ケ我ガ

首ニ油ヲ潤シ我ガ爵ハ滿テ溢ル 願ハ此ク爾ノ仁慈ト慈
 憐ハ我ガ生命アルノ日我ニ伴ハン然セバ我多ノ日主ノ家
 ニ居ラン

第廿三聖詠

ダウドノ詠(七日ノ首日)

一 地ト之ニ滿ル者世界ト凡ソ之ニ居ル者ハ皆主ニ屬スニ
 盖彼ハ之ヲ海ニ基ケ之ヲ河ニ固メリ 孰カ能ク主ノ山ニ
 陟ルヤ孰カ能ク其聖所ニ立ツヤ 唯罪ナキノ手ト潔キ心
 アル者曾テ己ノ靈ヲ以テ虚ク矢ハズ己ノ隣ニ偽入誓ヲナ
 サベリシ者ナリ 彼ハ主ヨリ降福ヲ受テ神其救者ヨリ矜

恤ヲ受ケントス 主ヲ尋ルノ族イヤコフノ神ヤ爾ノ顔ヲ
 尋ヌルノ族ハ此ノ如シ 門ヤ爾ノ首ヲ舉ゲヨ世々ノ戸ヤ
 舉レヨ光榮ノ王入ラントス 此ノ光榮ノ王ハ誰ゾ勇毅能
 カノ主戰ニ能力アルノ主是ナリ 門ヤ爾ノ首ヲ舉ゲヨ世
 々ノ戸ヤ舉レヨ光榮ノ王入ラントス 此ノ光榮ノ王ハ誰
 ゾ萬軍ノ主彼ハ光榮ノ王ナリ

光榮讚詞

第四「カイズマ」

第廿四聖詠

ダウドノ詠

一 主ヤ爾ニ我ガ靈ヲ舉グニ 吾ガ神ヤ爾ヲ恃ム我ニ世々愧
 ナカラシメヨ我ガ敵ヲ我ニ勝テテ喜バシムル母レ 三 凡ソ
 爾ヲ恃ム者ニモ愧ナカラシメ給ヘ 妄ニ法ヲ犯ス者ハ願ハ
 愧ヲ得ン 四 主ヤ我ニ爾ノ道ヲ示シ我ニ爾ノ路ヲ訓ヘヨ 五
 我ヲ爾ノ眞理ニ導テ我ヲ訓ヘ給ヘ 蓋爾ハ我ガ救ノ神ナリ
 我日々ニ爾ヲ恃メリ 六 主ヤ爾ノ鴻恩ト爾ノ慈憐ヲ記憶セ
 ヨ 蓋是レ永遠ヨリアルナリ 七 我ガ少キ時ノ罪ト過ヲ記憶
 スル母レ主ヤ爾ノ仁慈ニ依リ爾ノ慈憐ヲ以テ我ヲ記憶セ
 ヨ 八 主ハ仁ナリ義ナリ故ニ罪人ニ道ヲ訓示ス 九 謙遜ノ者
 ナ義ニ導キ謙遜ノ者ニ己ソ道ヲ教フ 十 凡ソ主ノ道ハ其約

十 其啓示ヲ守ル者ニ在テ慈憐ト眞實ナリ 十一 主ヤ爾ノ名ニ
 因テ我ガ罪ヲ赦シ給ヘ其大ナルヲ以テナリ 十二 誰カ主ヲ畏
 ル、ノ人タル主ハ之ニ擇ブベキ道ヲ示サン 十三 彼ノ靈ハ福
 ニ居リ彼ノ裔ハ地ヲ嗣ガン 十四 主ノ奧義ハ彼ヲ畏ル者ニ
 屬シ彼ハ其約ヲ以テ彼等ニ顯ス 十五 我ガ日常ニ主ヲ仰グ其
 我ガ足ヲ綱ヨリ出スニ因ル 十六 我ヲ顧ミ我ヲ憐メヨ我獨ニ
 シテ苦メラル、ニヨル 十七 我ガ心ノ憂益多シ我ガ苦難ヨリ
 我ヲ惹キ出セヨ 十八 我ガ困苦ト我ガ勞瘁ヲ顧ミ我ガ諸ノ罪
 ナ赦シ給ヘ 十九 我ガ敵ヲ觀ヨ何ソ多キヤ彼等ガ我ヲ怨ムカ
 恨ハ何ソ甚シキヤ 廿 我ガ靈ヲ護リテ我ヲ救ヒ我ガ爾ニ於

ル恃ニ愧ナカラシメ給ヘ 願ハ無玷ト義トハ我ヲ護ラシ
蓋我爾ヲ恃メバナリ 神ヤイブライリヲ其諸ノ憂ヨリ救
ヒ給ヘ

第廿五聖詠

ダウトノ詠

一 主ヤ我ヲ判ケヨ蓋我玷ナクシテ行ケリ我主ヲ恃ミテ搖
動カザラン 二 主ヤ我ヲ試ミ我ヲ驗セヨ我ガ腹ト我心ヲ融
カシ給ヘ 三 蓋爾ノ憐ハ我ガ目ノ前ニ在リ我爾ノ眞實ニ行
ケリ 四 我曾テ僞ナル者ト偕ニ坐セズ邪ナル者ト偕ニ行カ
ザラン 五 我惡ヲ謀ルノ黨ヲ疾ク不虔ノ者ト偕ニ坐セズ

六 主ヤ我無罪ヲ以テ我ガ手ヲ盥セ爾祭壇ヲ周リテ 七 讚
揚ノ聲ヲ宣ヘ爾ガ悉ク奇迹ヲ傳ヘシ 八 主ヤ我爾ガ居所
ノ室ト爾ガ光榮ノ住所ト處テ愛セリ 九 我ガ靈ヲ罪人ト偕
ニ我ガ生命ヲ血ヲ流ス者ト偕ニ亡ス母レ 十 彼等ノ手ニ惡
業アリ其右ノ手ハ賄賂ヲ充ツ 十一 唯我玷ナクシテ行ク主ヤ
我ヲ救ヒ我ヲ憐ミ給ヘ 十二 我ガ足ハ直キ道ニ立ツ我諸會ノ
中ニ於テ主ヲ崇讚メン

第廿六聖詠

ダウトノ詠(傳聖膏ノ前)

一 主ハ我ガ光ト我ガ救ナリ我誰ヲカ恐シシヤ主ハ我が生

命ノ防固ナリ我誰ヲカ懼レンヤ 若惡者我ノ仇我ノ敵ハ
 我ヲ攻メテ我が軀ヲ食ハント欲セバ彼等自蹟テ仆レンニ
 軍隊陣ヲ列テ我ニ敵スルモ我が心懼レザラン軍起リテ
 我ヲ攻ルモ我尙恃アリ 我一事ヲ主ニ願ヘリ我唯之ヲ求
 ム即我生涯主ノ室ニ居リ主ノ美ナルヲ仰ギ其聖堂ニ升ル
 ナ得ン 蓋彼ハ我が患難ノ時ニ於テ或ハ我ヲ其幕ノ中ニ
 隠シ我ヲ其住所ノ秘處ニ匿シ我ヲ磐ノ上ニ舉ゲン 其時
 我が首ハ我ヲ環ルノ敵ヨリ昂カラシ我其幕ノ中ニ讚榮ノ
 祭ヲ捧ゲテ主ノ前ニ歌ヒ歌ハン 主ヤ我が呼ノ聲ヲ聞ケ
 ヨ我ヲ憐ミ我ニ耳ヲ傾ケ給ヘ 我ガ心ハ爾ノ言ヲ云フ爾

等我が顔ヲ尋テヨト主ヤ我爾ノ顔ヲ尋テシ 爾ノ顔ヲ我
 ヨリ隠ス母レ怒テ爾ノ僕ヲ棄ル母レ爾曾テ我ヲ佑ル者タ
 リ神我が救主ヤ我ヲ棄ル母レ我ヲ遺ス母レ 蓋我が父我
 ガ母ハ我ヲ遺セリ唯主ハ我ヲ納レン 主ヤ我ニ爾ノ途ヲ
 訓ヘヨ我ガ敵ノ故ニ我ヲ義ノ路ニ導キ給ヘ 我ヲ我ガ敵
 ニ付シテ其意ニ任ス母レ蓋妄証者ハ起テ我ヲ攻メテ惡氣
 ナ吐ク 然レモ我信ズ我主ノ仁慈ヲ生命ノ地ニ見ルヲ得
 ン 主ヲ恃メヨ勇メヨ願ハ爾ノ心ハ固クナラン主ヲ恃メ
 ヨ

光榮讚詞

第廿七聖詠

ダウトノ詠

一 主ヤ我爾ニ呼ブ我ノ防固ヤ我が爲ニ默然タル勿レ恐ク
 ハ爾默然タラバ我ハ墓ニ下ル者ノ如クナラン 二 我爾ニ呼
 ビ我が手ヲ舉ゲテ爾ノ聖堂ニ向フ時我が禱ノ聲ヲ聆キ給
 ヘ 三 我ヲ惡者ト不義ヲ行フ者即其隣ト和平ヲ語り其心ニ
 惡ヲ懷ク者ト借ニ亡ス母レ 四 彼等ノ爲ス所彼等ノ惡キ行
 ニ循テ之ニ報イ彼等ガ手ヲ作ス所ニ循テ之ニ報イ彼等ノ
 受クベキ所ヲ以テ之ニ與ヘヨ 五 彼等ハ主ノ行フ所ト主ノ
 手ノ爲ス所ヲ顧ザルニヨリ主ハ彼等ヲ敗リテ之ヲ建テガ

ラン 六 主ハ崇讚メラル彼已ニ我が禱ノ聲ヲ聽ケバナナリ
 主ハ我が力ト我が盾ナリ我が心彼ヲ頼ムニ彼我ヲ佑ケタ
 リ我が心ハ歡ベリ我歌ヲ以テ彼ヲ讚揚ゲン 八 主ハ其民ノ
 カト其油傳ケラレン者ノ救ノ衛ナリ 九 爾ノ民ヲ救ヒ爾ノ
 業ニ福ヲ降シ之ヲ牧シ之ヲ世々ニ舉ゲ給ヘ

第廿八聖詠

ダウトノ詠幕ノ瞻禮ノ終ル時

一 神ノ子ヤ主ニ獻ゼヨ光榮ト尊敬ヲ主ニ獻ゼヨ 二 主ニ其
 名ノ光榮ヲ獻ゼヨ主ニ其美ナル聖所ニ伏拜セヨ 三 主ノ聲
 ハ水ノ上ニ在リ光榮ノ神ハ轟ケリ主ハ多水ノ上ニ在リ 四

主ノ聲ハ強ク主ノ聲ハ嚴ナリ 主ノ聲ハ栢香木ヲ摧キ主
 ハリワシノ栢香木ヲ摧キ之ヲ憤ノ如ク躍ラシリワシト
 シリヲシテ稚兕ノ如ク躍ラス 主ノ聲ハ火ノ焰ヲ擊出ス
 主ノ聲ハ曠野ヲ震ハシ主ハカデスノ曠野ヲ震ハス 主
 ノ聲ハ鹿ニ子ヲ生マシメ又林ヲ露ハス主ノ堂ノ内ニハ其
 光榮ヲ傳ヘザル者ナシ 主ハ洪水ノ上ニ坐セリ主ハ坐シ
 テ世々ニ王タラントス 主ハ其民ニ力ヲ賜ヒ主ハ其民ニ
 平安ノ福ヲ降サシ

第廿九聖詠

一 ダワイドノ詠宮殿ヲ改造セシ時ノ歌

ニ 主ヤ我爾ヲ尊崇メン爾我ヲ舉ゲ我が敵ニ我ニ勝テ喜ブ
 ナ容サレバナリ 主我が神ヤ我爾ニ呼ビシニ爾我ヲ療
 セリ 主ヤ爾我が靈ヲ地獄ヨリ出シ我ヲ生カシテ我ヲ墓
 ニ降ラザラシメリ 主ノ諸聖人ヤ主ニ歌ヘヨ其聖ヲ記念
 シテ讚榮セヨ 蓋其怒ハ瞬ノ間ニ其惠ハ一生ニアリ暮
 ニ涕泣來レ 朝ニハ喜至ル 我安寧ノ時自謂ヘリ永ク搖
 撼カザラン 主ヤ爾惠ヲ以テ我が山ヲ堅固ニセリ惟爾顔
 ナ隠セバ我惶擾ヘリ 主ヤ其時我爾ニ呼ベリ我主ニ祈リ
 テ曰ヘリ 我墓ニ降ラバ我が血ヲ流スハ何ノ益アラシヤ
 塵豈ニ爾ヲ讚榮センヤ豈ニ爾ノ眞實ヲ述ベンヤ 主ヤ聆

テ我ヲ憐ミ給ヘ主ヤ我ノ佑助トナリ給ヘト 爾ハ我が歎
 ナ易ヘテ喜トナシ我が麻衣ヲ解テ我ニ樂ヲ佩バシメ給ヘ
 リ願ハ我が靈ハ爾ヲ讚榮シテ默サラン主我が神ヤ我
 永ク爾ヲ讚榮セン

光榮讚詞

第三聖詠

一 ダウイドノ詠伶長ニ之ヲ歌ハシム(擾亂ノ時)

ニ主ヤ爾ヲ恃ム我ニ世々ニ愧ナカラシメヨ 爾ノ義ヲ以テ
 我ヲ免レンシメ給ヘ 爾ノ耳ヲ我ニ傾ケ速ニ我ヲ免シメヨ
 我が爲ニ磐石トナリ 隱家トナリテ我ヲ救ヒ給ヘ 蓋爾ハ

我が石山ト我が石垣ナリ 爾ノ名ニ依テ我ヲ導キ我ヲ治メ
 給ヘ 竊ニ我が爲ニ設ケタル網ヨリ我ヲ引キ出シ給ヘ 蓋
 爾ハ我ノ固ナリ 我が靈ヲ爾ノ手ニ渡ス 主眞理ノ神ヤ爾
 曾テ我ヲ救ヘリ 我虚シキ偶像ヲ尊ブ者ヲ疾ミ 唯主ヲ恃
 ム 我爾ノ憐ヲ歡ビ 樂マン 蓋爾ハ我が禍ヲ顧ミ 我靈ノ憂
 ヲ知リ 我ヲ敵ノ手ニ渡サズ 我が足ヲ廣キ處ニ立テシニ
 由ル 主ヤ我ヲ憐ミ 給ヘ 我狹ニ居レバナリ 我が目ハ憂ニ
 縁テ枯レタリ 我が靈ト我が腹モ亦然リ 我が生命ハ悲ノ
 中ニ盡キ 我が年ハ嘆ノ中ニ盡キ 我が力ハ罪ニ依テ弱リ 我
 ガ骨ハ枯レタリ 我ハ諸敵ニ因テ 鄰ニモ辱メラレ 又知人

ノ懼トナレリ我ヲ衝ニ見ル者ハ我ヲ避ク我ハ死者ノ如ク
 人ノ心ニ忘レラレタリ我ハ壞ラレシ器ノ如シ蓋我ハ
 多人ノ誹ヲ聞ク彼等ガ相議シテ我ヲ攻メ我ガ靈ヲ抜カン
 我ノ神ナリ我ガ日ハ爾ノ手ニ在リ我ヲ我ガ敵ノ手ト我
 ナ攻ル者ヨリ免レシメ給ヘ爾ノ光ル顔ヲ爾ノ僕ニ顯シ
 爾ノ憐ヲ以テ我ヲ救ヒ給ヘ主ヤ我爾ニ呼ブニ由テ羞ヲ
 得セシムル勿レ願ハ無道ノ者ハ羞ヲ蒙リテ地獄ニ沈黙セ
 シ願ハ傲ト侮ヲ以テ義人ニ向フテ惡ヲ言フ謊ノ口ハ啞
 トナラン大ナル哉爾ノ恩爾ヲ畏ル者ノ爲ニ蓄ヘ爾ヲ

恃ム者ノ爲ニ人ノ子ノ前ニ備ヘシ所ノ者ヤ爾ハ彼等ヲ
 人ノ亂ヨリ爾ガ顔ノ覆ノ下ニ匿シ彼等ヲ舌ノ争ヨリ幕ノ
 中ニ隱ス主ハ崇讚メラル彼ハ己ノ妙ナル憐ヲ我ニ堅固
 ナル城邑ノ中ニ顯セバナリ我が惑ヒシ時我爾ノ目ヨリ
 絶レシト思ヘリ然レモ我爾ニ呼ブ時爾ハ我が祈ノ聲ヲ聽
 キ給ヘリ主ノ悉ノ義人ハ主ヲ愛セヨ主ハ忠信ノ者ヲ護
 リ傲慢ノ者ニハ嚴ク報ユ凡ソ主ヲ頼ム者ハ勇メヨ爾等
 ノ心ハ固クナルベシ

第卅一聖詠

ダヴドノ教訓ノ詠

一 不法ヲ赦サレ罪ヲ蔽ハル、人ハ福ナリ 主ニ罪セラレ
 ズ其靈ニ譎ナキ人ハ福ナリ 我默セシキ我ガ終日ノ呻吟
 ニ因テ我ガ骨古タリ 盖爾ノ手ハ晝夜重ク我ニ加ハリ我
 ガ潤澤ノ消エシヲ夏ノ旱ニ於ルガ如シ 然レモ我我ガ罪
 ナ爾ノ前ニ承認メ我ガ不法ヲ隠サベリキ我謂ヘリ我ガ罪
 ナ主ニ痛告スト爾乃我ガ罪ノ咎ヲ我ヨリ除ケリ 此ニ縁
 テ諸ノ義人ハ宜キ時ニ於テ爾ニ禱ラントス其時洪水ノ溢
 ハ彼ニ及バザラン 爾ハ我ノ所望ナリ爾ハ我ヲ憂ヨリ護
 リ我ヲ救ノ喜ニテ環ル 我爾ヲ教ヘン爾ニ行クベキ路
 ナ示サン爾ヲ導カン我ガ目爾ヲ顧ミントス 爾等ハ轡ト

鑣ヲ以テ口ヲ束テ爾ニ從ハシムル無智ナル馬ト驢ノ如
 クナル母レ 〇 惡者ハ憂多シ主ヲ恃ム者ハ憐之ヲ環ル
 義人ヤ主ノ爲ニ喜ビ樂メヨ心ノ直キ者ヤ皆祝ヘヨ

光榮讚詞

第五「カフィズマ」

第卅二聖詠

(ダウイドノ詠)

一 義人ヤ主ノ爲ニ喜ベヨ讚榮スルハ義者ニ適フニ瑟ヲ以
 テ主ヲ崇讚メヨ十絃ノ琴ヲ以テ彼ニ歌ヘヨ 新ナル歌ヲ
 彼ニ歌ヘヨ聲ヲ揃ヘ歡ビ呼デ彼ニ歌ヘヨ 盖主ノ言ハ正

直ニシテ其悉ク行フ所ハ眞實ナリ 五 彼ハ義ト審判ヲ好ミ
 主ノ慈憐ハ地ニ滿テリ 六 天ハ主ノ言ニテ造ラレ天ノ全軍
 ハ其口ノ氣ニテ造ラレタリ 七 彼ハ海ノ水ヲ聚ムルト壘ノ
 如ク淵ヲ庫ニ藏メタリ 八 全地ハ主ヲ畏ルベシ凡世界ニ居
 ル者ハ彼ノ前ニ戰クベシ 九 蓋彼言ヘバ則成リ命ズレバ則
 顯レタリ 十 主ハ異邦人ノ議スル所ヲ廢シ諸民ノ謀ル所ヲ
 破リ牧伯ノ議スル所ヲ破ル 十一 惟主ノ議スル所ハ永ク立テ
 其心ノ意ハ世々ニ立タン 十二 主ヲ以テ神トナスノ民ハ福ナ
 リ主ノ選ンデ己ノ嗣業トナスノ族ハ福ナリ 十三 主ハ天ヨリ
 鑒ミテ悉ク人ノ子ヲ視 十四 彼ハ坐スル所ノ寶座ヨリ悉ク地

ニ居ル者ヲ顧ル 十五 彼ハ衆人ノ心ヲ造リ凡ソ彼等ノ行フ所
 ナ念フ 十六 王ハ大軍ニ依テ救ハレズ勇士ハ大力ニ依テ衛ラ
 レズ 十七 馬ハ救ノ爲ニ虛シ其大力ヲ以テ援クル能ハズ 十八 夫
 レ主ノ目ハ彼ヲ畏ル者ト彼ノ憐ヲ恃ム者ヲ顧ミ 十九 主ハ
 彼等ノ靈ヲ死ヨリ救ヒ饑饉ノ時ニ彼等ヲ養ハン 廿 我等ノ
 靈ハ主ヲ恃ム彼ハ我ガ助ナリ我ガ衛ナリ 廿一 我ガ心ハ彼ノ
 爲ニ樂ム我等嘗テ其聖ナル名ヲ頼メバナリ 廿二 主ヤ我等爾
 ナ頼ムガ如ク爾ノ憐ヲ我等ニ垂レ給ヘ

第卅三聖詠
 ダavidノ詠ダavidアワイメレフノ前ニ在テ伴

狂シ彼ニ逐ハレテ去リ乃此ヲ作ル
 我何ノ時ニモ主ヲ讚揚ゲン彼ヲ讚ルハ恒ニ我が口ニ在
 リ我ガ靈ハ主ヲ以テ誇ラン溫柔ナル者ハ聞テ樂マント
 ス我ト偕ニ主ヲ尊メヨ偕ニ彼ノ名ヲ崇讚メン我曾テ
 主ヲ尋テシニ彼ハ我ニ聆納レテ我ガ都ノ危ヨリ我ヲ免レ
 シメ給ヘリ目ヲ擧ゲテ彼ヲ仰グ者ハ照サレタリ彼等ノ
 面ハ愧ヲ受ケザラン此ノ貧キ者呼ビシニ主ハ聆納レテ
 之ヲ其悉ノ艱難ヨリ救ヘリ主ノ使ハ主ヲ畏ル、者ヲ環
 衛リテ彼等ヲ援ク味ヘヨ主ノ如何ニ仁慈ナルヲ見シ彼
 ナ恃ム人ハ福ナリ凡ソ主ノ聖人ヤ主ヲ畏レヨ蓋彼ヲ畏

ル、者ハ乏キナシ少キ獅ハ乏クシテ餓エ唯主ヲ尋ル
 者ハ何ノ幸福ニモ缺ルナシ小子ヤ來テ我ニ聽ケヨ主ヲ
 畏ル、ノ畏ヲ爾等ニ訓ヘン人生ルヲ望ミ又長命ヘテ幸
 福ヲ見シテ欲スルカ爾ノ舌ヲ惡ヨリ爾ノ口ヲ譎ノ言
 ヨリ止メヨ惡ヲ避ケテ善ヲ行ヒ和平ヲ尋テ之ニ從ヘヨ
 主ノ目ハ義人ヲ顧ミ其耳ハ彼等ノ呼テ聆ク唯主ノ面
 ハ惡ヲ爲ス者ニ對ヒ其名ヲ地ヨリ亡サントス義人ハ呼
 ブニ主ハ之ヲ聽キ彼等ヲ悉ノ憂ヨリ免シム主ハ心ノ傷
 メル者ニ近シ靈ノ謙ル者ヲ救ハントス義人ニハ憂多シ
 然レモ主ハ之ヲ悉ク免シメン主ハ彼ガ悉ノ骨ヲ護リ其

一モ折ザラシ 惡ハ罪人ヲ殺シ義人ヲ憎ム者ハ亡ビシ
主ハ其僕ノ靈ヲ救ヒ彼ヲ頼ム者ハ一人モ亡ビザラン

光榮讚詞

第卅四聖詠

ダウイドノ詠

一主ヤ我ヲ訟フル者ヲ判キ我ト戰フ者ヲ撃テヨニ盾ト甲
ト執リ起テ我ヲ助ケ給ヘ三劍ヲ拔テ我ヲ逐フ者ノ途ヲ
遮リ我が靈ニ向テ曰ヘ我ハ爾ノ救ナリ四我が靈ヲ求ル者
ハ願ハ恥ヲ得テ辱ヲ受ケン我ヲ害セント謀ル者ハ願ハ退
ケラレテ辱メラレン五願ハ彼等ハ風前ノ塵ノ如クナリ主

ノ使彼等ヲ拂ハン 願ハ彼等ノ途ハ暗クシテ滑ニナリ主
ノ使彼等ヲ追ハン 蓋彼等ハ故ナクシテ隠ニ我が爲ニ其
網ナル阱ヲ設ケ故ナクシテ之ヲ我が靈ノ爲ニ穿テリ 願
ハ滅ハ猝ニ彼ニ至リ其隠ニ我が爲ニ設ケシ網ハ彼ヲ掩ヒ
彼自之ニ陥リテ亡ビシ 唯我が靈ハ主ノ爲ニ喜バン彼ガ
施セル救ノ爲ニ樂マン 十我が悉ノ骨曰ハン主ヤ誰カ爾ニ
似テ弱キ者ヲ強キ者ヨリ救ヒ貧キ者ト乏キ者ヲ掠ル者ヨ
リ救フヤ 十一不義ナル證者ハ起テ我ヲ責メ我が知ラザル事
ヲ我ニ問フ 十二彼等ハ惡ヲ以テ我が善ニ報イ我が靈ノ獨ナ
ルヲ致ス 十三彼等ノ病ノ時我麻衣ヲ着齋ヲ以テ我が靈ヲ卑

ウシ我ノ祈禱ハ我が懐ニ歸レリ 十四
 我曾テ之ヲ待テ我ガ友
 我が兄弟ノ如シ我憂テ行キ首ヲ垂ル、
 母ヲ喪スルガ如シ
 十五
 唯我蹟ケバ彼等ハ喜ビテ集リ誹謗スル者ハ集テ我ヲ
 攻メリ我何ノ所以ヲ知ラズ我ヲ謗テ息マザリキ 十六
 偽ナル
 嘲人ト借ニ我ニ切齒セリ 十七
 主ヤ之ヲ觀ル、
 何ノ時ニ至ル
 ヤ我ガ靈ヲ彼等ノ惡事ヨリ脱レシメ我ガ獨ナル者ヲ獅ヨ
 リ脱レシメ給ヘ 十八
 我爾ヲ大會ノ中ニ讚榮シ爾ヲ衆民ノ間
 ニ讚揚ゲテ 十九
 故ナク我ヲ仇スル者我ニ勝テ喜バズ我ガ咎
 ナクシテ我ヲ惡ム者互ニ胸セザルヲ致サン 二十
 蓋彼等ノ言
 フ所ハ和平ニ非ズ乃地上ノ和平ヲ好ム者ニ向テ詐ノ謀ヲ

設ク 廿一
 其口ヲ開テ我ニ向テ曰ク嘻々我ガ目已ニ見ダリ 廿二
 主ヤ爾已ニ見テ黙スル母レ主ヤ我ニ離ル、
 母レ 廿三
 我ガ神
 我が主ヤ起テ寤テ我ガ爲ニ判テ行ヒ我ガ訟ヲ理メヨ 廿四
 主
 我が神ヤ爾ノ義ニ依テ我ヲ判キ彼等ニ我ニ勝テ喜バシム
 ル母レ 廿五
 其心ノ中ニ嘻々我等ノ望ノ如シト謂ハシムル母
 レ其ニ我等已ニ之ヲ吞メリト謂ハシムル母レ 廿六
 凡ソ我ガ
 災ヲ喜ブ者ハ願ハ耻ヲ得テ辱ヲ受ケン我ニ向フテ高ブル
 者ハ願ハ耻ト侮ヲ被ラン 廿七
 我ガ義トセラレン、
 主ハ尊讚
 ハ願ハ喜ビ樂ミテ恒ニ云ハン其僕ノ平安ヲ望ノ主ハ尊讚
 メラルベシ 廿八
 我ガ舌モ爾ノ義ヲ傳ヘ日々ニ爾ヲ讚揚ゲン

第卅五聖詠

一 主ノ僕ダビドノ詠伶長ニ之ヲ歌ハシム
 二 惡者ノ不法ハ我ガ心中ニ謂フ其目前ニ神ヲ畏ル、ノ畏
 レナシ 三 蓋彼自己ノ目前ニ謬ヒ其不法ヲ糺シテ之ヲ疾マ
 ント謂フ 四 其口ノ言ハ不實ニシテ譌ナリ彼ハ悟テ善ヲ行
 フヲ望マズ 五 彼其榻ニ在テ不法ヲ謀リ自不善ノ途ニ立テ
 惡ヲ憎マズ 六 主ヤ爾ノ憐ハ天ニ戻リ爾ノ眞實ハ雲ニ戻ル
 七 爾ノ義ハ神ノ山ノ如ク爾ノ判ハ大ナル淵ノ如シ主ヤ爾
 ハ人ト獸トヲ守ル 八 神ヤ爾ノ憐ハ何ゾ寶ナル人ノ子ハ爾
 ガ翼ノ蔭ニ安ンジ 九 爾ガ家ノ映ニ飲ク爾ハ爾ノ甘味ノ流

ヨリ彼等ニ飲マシム 十 蓋生命ノ源ハ爾ニ在リ我等爾ノ光
 ニ於テ光ヲ見ル 十一 爾ノ憐ヲ爾ヲ知ル者ニ爾ノ義ヲ心ノ直
 キ者ニ恒ニ垂レ給ヘ 十二 願ハ驕ノ足ハ我ヲ蹠マズ罪人ノ手
 ハ我ヲ逐ハザラン 十三 不法ヲ行フ者ハ彼處ニ仆レ隕サレテ
 起ツ能ハズ

光榮讚詞

第卅六聖詠

ダビドノ詠

一 惡者ヲ妬ム母レ不法ヲ行フ者ヲ猜ム母レ 二 蓋彼等ハ草
 ノ如ク早ク刈ラレ青草ノ如ク萎マシ 三 主ヲ恃ミテ善ヲ行

ヒ地ニ住ミテ眞實ヲ守レヨ 主ヲ以テ慰トセヨ 彼ハ爾ガ
 心ノ望ヲ適ヘン 爾ノ途ヲ主ニ託シテ彼ヲ恃メヨ 彼ハ之
 ナ成シ 爾ノ義ヲ光ク如ク 爾ノ正ヲ晝ノ如ク 著ハサン
 爾主ニ順フテ彼ヲ頼メヨ 其道ニ利達ヲ得ルノ譎ナル人ヲ
 妬ム 母レ 怒ヲ息メ恨ヲ離レヨ 妬テ惡ヲ爲ス 母レ 蓋惡
 ナ爲ス者ハ絶タレン 唯主ヲ恃ム者ハ地ヲ嗣ガン 久カラ
 ズシテ惡者ハ無ニ歸セシ 爾其處ヲ見レバ有ルナシ 唯溫
 柔ナル者ハ地ヲ嗣ギ平安ノ多キヲ樂マン 惡者ハ謀テ義
 人ヲ攻メ之ニ向テ切齒ス 然レモ主ハ之ヲ哂フ 其日ノ至
 ルヲ見レバナリ 惡者ハ劔ヲ拔キ弓ヲ張り 乏キ者ト貧キ

者ヲ仆シ正キ道ヲ行ク者ヲ刺サシト欲ス 其劔ハ反テ其
 心ヲ貫キ其弓ハ折ラレン 義人ノ有スル所ハ少シト雖モ
 多ノ惡者ノ富ニ勝ル 蓋惡者ノ臂ハ折ラレン 唯義人ハ主
 之ヲ扶ク 主ハ玷ナキ者ノ日ヲ知ル 彼等ノ嗣業ハ永ク存
 セシ 彼等ハ患難ノ時ニ羞テ被ラズ 饑饉ノ日ニ飮クヲ得
 シ 但惡者ハ滅ビ主ノ敵ハ羔ノ脂ノ如ク消エ 烟ノ中ニ消
 エシ 惡者ハ借テ償ハズ 義人ハ憐ミテ予フ 蓋主ニ降福
 セラレシ者ハ地ヲ嗣ギ 彼ニ詛ハレシ者ハ絶タレン 主ハ
 義人ノ足ヲ固メ 其行ク途ヲ喜ブ 彼ハ躓ケモ仆レズ 主ハ
 其手ヲ執テ之ヲ扶クレバナリ 我幼ヨリ今老ルニ至ルマ

一 ダウ^ニ下^ノノ詠^スボタ^ノノ記念^ノ爲^ニ之^ヲ作^ル
 二 主^ヤ爾^ノ憤^ヲ以^テ我^ヲ責^ル母^レ爾^ノ怒^ヲ以^テ我^ヲ罰^ス
 三 爾^ノ蓋^ニ爾^ノ矢^ハ我^ニ刺^{サリ}爾^ノ手^ハ重^ク我^ニ加^{ハル}
 四 爾^ノ怒^ニ依^テ我^ガ肉^ニ傷^{マザル}所^{ナク}我^ノ罪^ニ因^テ我^ガ
 五 骨^ハ安^キヲ得^ズ蓋^我ガ不^法ハ我^ガ首^ニ溢^レ重^任ノ如^ク
 六 我^ヲ壓^ス我^ノ無^智ニ依^リ我^ガ傷^腐レテ且^ツ臭^シ我^レ
 七 屈^リテ仆^レントシ終^日憂^ヒテ行^ク蓋^我ガ腰^ハ熱^ニ腦^マ
 八 サレ我^ガ肉^ニ傷^{マザル}所^{ナシ}我^力衰^ヘテ痛^ク憊^レ我^ガ
 九 心^ノ裂^ルニヨリテ號^ブ主^ヤ我^ガ悉^ノ願^ハ爾^ノ前^ニ在^リ
 十 我^ガ歎^息ハ爾^ニ隱^ルナシ我^ガ心^ハ戰^栗キ我^ガ力^ハ我^レ

十一 ヨリ脱^ケ我^ガ目^ノ光^モ已^ニ我^ニア^ルナシ我^ガ朋^ト親^キ
 十二 者^トハ我^ガ傷^ヲ見^テ離^レ我^ガ親^戚ハ遠^ザカリテ立^ツ我^レ
 十三 ガ生^命ヲ覓^ル者^ハ網^ヲ設^ケ我^ヲ害^ハント欲^スル者^ハ我^ガ
 十四 亡^ノコトヲ言^フテ毎^日惡^キ謀^ヲ圖^ム然^レモ我^ハ聾^ノ如^ク
 十五 ク聽^{カズ}啞^ノ如^ク已^ノ口^ヲ啓^{カズ}是^ニ於^テ我^ハ聞^{ナク}
 十六 其^口答^{フル}所^{ナキ}人^ノ如^クナレリ蓋^主ヨ我^爾ヲ恃^ム主^レ
 十七 我^ガ神^ヤ爾^聽キ給^ハン我^曾テ言^ヘリ願^ハ敵^ハ我^ニ勝^タ
 十八 ザラン我^ガ足^ノ跌^カントスル時^彼等^ハ我^ニ向^フテ誇^リ高^ク
 十九 プル我^殆ト仆^レントス我^ノ憂^ハ常^ニ我^ガ前^ニ在^リ我^レ
 二十 ハ我^ガ不^法ヲ認^メ我^ガ罪^ヲ爲^ニ甚^哀ム我^ガ敵^ハ生^テ愈^ヒ

強ク故ナクシテ我ヲ疾ム者ハ益多シ惡ヲ以テ我ノ善ニ
 報ユル者ハ我ガ善ニ從フニ因テ我ノ敵トナシリ主我ガ
 神ヤ我ヲ遣ソル勿レ我ニ遠ザガル母レ主我ノ救主ヤ速
 ニ來リテ我ヲ救ヒ給ヘ

第卅八聖詠

一 ダウイドノ詠伶長 イギブムニ之ヲ歌ハシム

ニ 我言ヘリ我我ガ途ヲ慎ミ舌ヲ以テ罪ヲ犯スヲ免レ惡者
 ノ我ガ前ニ在ル我ガ口ヲ箝マン我啞ニシテ言ナク善
 事ト雖モ黙セリ我ガ憂ハ猶動ケリ我ガ心ハ我ノ中ニ焚
 ケ我ガ意ノ中ニ火焚エリ我舌ヲ以テ始テ云ケリ主ヤ我

ニ 我ガ終ト我ガ日ノ數ノ幾何ナルヲ告ゲテ我ニ我ガ代
 何如ヲ知ラシメヨ夫レ爾我ニ日ヲ界ヘシ口指尺ノ如ク
 我ガ代ハ爾ノ前ニ有ルナキガ如シ誠ニ凡ソ生ケル人ハ全
 ク虚シ誠ニ人ハ行ク口幻ノ如ク彼徒ニ煩劇ヲナシ貯ヘ
 テ誰ニ獲ラル、ヲ知ラズ主ヤ今我何ヲ俟ダンヤ我ガ望
 ハ爾ニ在リ我ヲ我ガ悉ノ不法ヨリ脱ガシ我ヲ愚人ノ辱
 ニ任ス母レ我啞トナリテ我ガ口ヲ啓カズ爾是ヲナセバ
 ナリ爾ノ罰ヲ我ヨリ去レヨ爾ガ擊ツノ手ニ因テ我幾ド
 消ユ 倘爾責ヲ以テ人ヲ其罪ノ爲ニ罰セハ其美麗ノ散ラ
 シテ蠹蝕ノ如シ誠ナル哉人皆虚シ主ヤ我ガ祈禱ヲ聆キ

我が呼ぶ聲ニ耳ヲ傾ケヨ 我が涙ニ黙スル母レ蓋我ハ爾ノ
前ニ旅客タリ寄寓者タリ 我が列祖ノ如シ 我ヨリ退キテ
我ニ世ヲ逝リテ没スルノ先キニ安ンズルヲ得セシメ給ヘ

第卅九聖詠

一 ダウトノ詠伶長ニ之ヲ歌ハシム
ニ 我切ニ主ヲ恃ムニ彼我ニ傾キテ我が籲ブ聲ヲ聆納レリ
三 我ヲ畏ルベキ阱ヨリ出シ泥ノ澤ヨリ出シテ我が足ヲ石
ニ立テ我が歩ヲ固メリ 我ガ口ニ新ナル歌ヲ納レテ我等
ノ神ヲ讚美セシメ給ヘリ多ノ者ハ之ヲ見テ畏レ且主ヲ恃
マントス 其恃ヲ主ニ負シメテ驕ル者ト譏ニ傾ク者ニ向

我ノ耳ハ爾
之ヲ啓ケリ
ハ七十八ノ
翻譯ニ我が
爲ニ肉跡ヲ
備ヘリニ作
ル

ハザル人ハ福ナリ 主我が神ヤ爾ガ行ヒシ事ハ多シ誰カ
爾ニ比ルヲ得ンヤ爾ノ奇迹ト爾ガ我等ヲ念フ事ハ我之ヲ
陳テ言ハント欲スレモ其數勝テ數フ可カラズ 祭ト禮物
ハ爾之ヲ欲セズ我ノ耳ハ爾之ヲ啓ケリ燔祭ト罪ヲ潔ムル
ノ祭ハ爾之ヲ促サズ 其時我言ヘリ視ヨ我往ク書卷ノ中
ニ我が事ヲ記セリ 神ヤ我爾ノ旨ヲ行フヲ望ム爾ノ法ハ
我が心ニ在リ 我爾ノ義ヲ大會ノ中ニ傳ヘリ我我ガ口ヲ
禁ゼズ主ヤ爾之ヲ知ル 我爾ノ義ヲ我ガ心ニ隠サズ我爾
ノ誠ト爾ノ救ヲ傳ヘリ爾ノ憐ト爾ノ眞實ヲ大會ノ前ニ秘
セズ 主ヤ爾ノ恩ヲ我ニ禁ズル母レ願ハ爾ノ憐ト爾ノ眞

實ハ常ニ我ヲ護ラシム蓋數ヘ厄キ禍ハ我ヲ環リ我ガ不法
 ハ我ニ及ビテ我ニ見ル能ハサラシム其數ハ我ガ首ノ髮ヨ
 リ多シ我ガ心ハ我ヲ離レタリ主ヤ我ヲ救ヒ給ヘ主ヤ速
 ニ我ヲ佑ケ給ヘ我ガ靈ヲ滅サンコトヲ求ル者ハ願ハ皆恥
 ナ得テ辱ヲ受ケン禍ヲ我ニ望ム者ハ願ハ退ケラレテ嘲ラ
 レシ我ニ向テ嘻々ト云フ者ハ願ハ其辱ニ縁テ擾サレン
 凡ソ爾ヲ求ル者ハ願ハ爾ソ爲ニ喜ビ樂マン爾ノ救ヲ愛
 スル者ハ願ハ常ニ主ハ大ナリト言ハシ我ハ貧クシテ乏
 シ然レモ主ハ我ヲ慮ル爾ハ我ノ助ナリ我ヲ救フ者ナリ我
 ガ神ヤ運ハル母レ

光榮讚詞

第四十聖詠

ダワドノ詠伶長ニ之ヲ歌ハシム
 貧キ者乏キ者ヲ願ル人ハ福ナリ患難ノ日主ハ彼ヲ救ハ
 シ主ハ彼ヲ護リテ其生命ヲ保タン彼ハ地ニ在テ福ヲ得
 シ爾彼ヲ其敵ノ望ニ任サラン其病ノ榻ニ於テ主ハ彼
 ヲ扶ケン其病ノ時爾全ク其床ヲ易ヘン我曾テ言ヘリ主
 ヤ我ヲ憐ミ我ガ靈ヲ愈シ給ヘ我罪ヲ爾ニ得レバナリ我
 ノ敵ハ我ガ事ヲ惡言シテ曰フ彼ハ何ノ時死シテ其名滅ブ
 ルヤ若人來テ我ヲ見レ其譎ヲ言ヒ其中心不義ヲ畜ヘ外

ニ出デ、之ヲ述ブ 我ヲ恨ム者ハ皆耳ヲ相接シテ我ヲ讒
 シ相謀テ我ヲ害セント欲ス「アリアル」ノ言ハ彼ニ至レリ
 彼已ニ臥シ復起ル能ハズ 我ト交親キ者我ガ倚恃ミシ者
 我ガ餅ヲ食ヒシ者モ亦我ニ向フテ踵ヲ擧ゲリ 主ヤ爾我
 ナ憐ミ我ヲ起シ給ヘ我彼等ニ報イン 若我ガ敵我ニ勝テ
 喜バズ 若爾我ヲ全シテ守リ爾ガ顔ノ前ニ永ク立ツレバ
 我此ヲ以テ爾ガ我ヲ悦ブヲ知ラン 主イズライリノ神ハ
 崇讚メラレテ永遠ヨリ永遠ニ至ラン「アミン」

第四十一聖詠

一 教訓ノ詠伶長ニ之ヲ歌ハシムコレイノ嗣ノ

用タリ

ニ 神ヤ我ガ靈爾ヲ慕フ 鹿ノ水ノ流ヲ慕フガ如シ 我ガ
 靈ハ勇毅生活ノ神ニ渴ク我何ノ時至リテ神ノ顔ノ前ニ出
 ルヤ 人毎日我ニ向テ爾ノ神ハ何處ニ在ルヤト言ヒシキ
 涙ハ晝夜我ノ食トナレリ 我此ヲ記憶シテ我ガ靈ヲ注グ
 盖我曾テ大衆ノ中ニ行キ彼等ト偕ニ慶賀ノ會ノ歡ト讚榮
 トノ聲ヲ以テ神ノ室ニ升レリ 我ガ靈ヤ爾何ゾ憂悶ヘ何
 ゾ惶擾ルヤ神ヲ恃メヨ 盖我仍彼我ガ救主我ガ神ヲ讚榮セ
 ン 我ガ靈我ノ衷ニ憂悶フ故ニ我イオルダンノ地ヨリエ
 ルモンツアルノ山ヨリ爾ヲ記憶ス 爾ガ瀑布ノ聲ヲ以テ

淵ハ淵ヲ呼ブ爾ノ悉ノ水爾ノ波ハ我ガ上ヲ度レリ
 主ハ其憐ヲ顯ハシ夜ニ我彼ニ歌ヒ我ガ生命ノ神ニ禱ラン
 我神我ヲ護ル者ニ告ゲントス爾何ゾ我ヲ忘レシヤ我何
 ゾ敵ノ侮ニ因テ憂テ行クヤ 我ガ敵ハ我ヲ辱ル 我ガ骨
 ナ撃ツガ如シ毎日我ニ向フテ曰フ爾ノ神ハ何處ニアルヤ
 我ガ靈ヤ何ゾ憂悶ヘ何ゾ惶擾ルヤ神ヲ恃メヨ 蓋我仍彼
 我ガ救主我ガ神ヲ讚榮セン

第四十二聖詠

一 神ヤ我ヲ判キ我ガ不善ノ民ニ於ル訟ヲ理メヨ我ヲ譌ニ
 シテ義ナラザル人ヨリ脱レシメ給ヘ 蓋爾ハ我ヲ固ムル

ノ神ナリ爾何ゾ我ヲ棄テシヤ我何ゾ敵ノ侮ニ因テ憂テ行
 クヤ 三 爾ノ光ト爾ノ眞實ヲ遣ハシ其ニ我ヲ導テ爾ノ聖山
 ト爾ノ住所ニ至ラシメ給ヘ 四 我神ノ祭壇ニ就キ我ガ歡
 樂ノ神ニ就カン神我ガ神ヤ我琴ヲ以テ爾ヲ讚榮セン 五 我
 ガ靈ヤ何ゾ憂悶ヘ何ゾ惶擾ルヤ神ヲ恃メヨ 蓋我仍彼我
 ガ救主我ガ神ヲ讚榮セン

光榮讚詞

第四十三聖詠

一 教訓ノ詠伶長ニ之ヲ歌ハシムコレイノ嗣ノ
 用タリ

神ヤ我等ハ己ノ耳ニテ聞ケリ我ガ列祖ハ爾ガ彼等ノ日
 即古ノ日ニ行ヒシコナ我等ニ述ベリ 爾ハ己ノ手ニテ諸
 民ヲ滅シ彼等ヲ植付ケ諸族ヲ撃テ之ヲ逐出セリ 盖彼等
 ハ己ノ劔ヲ以テ地ヲ得ルニ非ズ己ノ臂ヲ以テ自救ニ非ズ
 即爾ガ右ノ手爾ノ臂爾ガ顔ノ光ニ依ルナリ 盖爾ハ彼等ヲ
 愛セリ 五 神我が王ヤ爾ハ古ニ同シ願ハ救ヒナイヤコフニ
 賜ヘ 六 我等爾ト借ニ角ヲ以テ我が敵ヲ衝破ラン 爾ノ名ニ
 頼テ我等ヲ攻ル者ヲ踐シ 七 盖我ハ我が弓ヲ頼ムニ非ズ我
 ガ劔ハ我ヲ救フヘキニ非ズ 八 乃爾ハ我等ヲ我が敵ヨリ救
 ヒ 我等ヲ疾ム者ヲ辱シメシトズ 九 我等ハ日々神ヲ以テ己

ノ譽トナシ永ク爾ノ名ヲ讚榮セン 十 然レモ今爾ハ我等ヲ
 棄テ我等ヲ辱メ我が軍ト借ニ出デズ 十一 爾我等ガ敵ノ前ヨ
 リ遁グルヲ致セリ我等ヲ疾ム者ハ我等ヲ掠ム 十二 爾我等ヲ
 羊ノ如ク食ハルニ任セ我等ヲ諸民ノ間ニ散セリ 十三 爾ハ
 利ナクシテ爾ノ民ヲ賣リ其價ヲ高ウセズ 十四 爾我等ヲ鄰ノ
 辱ニ任セ我等ヲ環ル者ノ嘲ト戯ニ任セリ 十五 爾我等ヲ諸民
 ノ諺トナシ異邦民ハ我等ヲ見テ首ヲ搖ス 十六 我が辱ハ毎日
 我ノ前ニ在リ 十七 我ヲ侮リ我ヲ嘗ル者ノ聲ニ因リ我ニ敵シ
 我ニ仇スル者ノ目ニ因テ愧ハ我が面ヲ蔽フ 十八 是皆我等ニ
 臨メリ然レモ我等爾ヲ忘レズ 爾ノ約ヲ破ラズ 十九 我が心退

カズ我が足爾ノ途ヲ離レズ 是爾ガ我等ヲ龍ノ地ニ傷
 我等ヲ死ノ陰ニテ蔽ヒシ時ナリ 我等若我神ノ名ヲ忘レ
 手ヲ伸シテ他ノ神ニ向ハズ 神豈ニ之ヲ糺サランヤ彼
 ハ心ノ密事ヲ知レバナリ 爾ノ爲ニ我等毎日殺サレ人ノ
 我等ヲ視ルヲ屠ニ定メラレシ羊ノ如シ 主ヤ起キヨ何ソ
 寢ルヤ覺メヨ永ク棄ル母レ 何爲ソ爾ノ顔ヲ隠シ我等ノ
 苦難ト我等ノ迫害ヲ忘ルヤ 蓋我が靈ハ塵ニ俯シ我が
 腹ハ地ニ貼ク 起キテ我等ヲ佑ケヨ爾ノ憐ニ因テ我等ヲ
 救ヒ給ヘ

第四十四聖詠

一 教訓ノ詠愛ノ歌伶長ニソサシノ樂器ヲ以テ
 之ヲ歌ハシムコレイノ嗣ノ用タリ

ニ 我ガ心善言ヲ湧出セリ我曰フ我ガ歌ハ王ノ事ナリ我ガ
 舌ハ疾書者ノ筆ナリ 爾ハ人ノ子ヨリ美ナリ恩寵ハ爾ノ
 口ヨリ湧出タリ故ニ神ハ爾ニ降福シテ世々ニ至ル 剛キ
 者ヤ爾ノ光榮ト爾ノ美麗タル爾ノ劔ヲ股ニ佩ビヨ 此ノ
 飾ニテ眞實ト溫柔ト義ノ爲ニ急デ車ニ乗レヨ爾ノ右ノ手
 ハ爾ニ奇妙ナルヲ顯ハサン 剛キ者ヤ爾ノ箭ハ銛シ諸
 民爾ノ前ニ仆レン此ノ箭ハ王ノ敵ノ心ニ中ル 神ヤ爾ノ
 寶座ハ永遠ナリ正直ノ權柄ハ爾ノ國ノ權柄ナリ 爾ハ義

ナ愛シ不法ヲ惡メリ故ニ神ヤ爾ノ神ハ爾ニ歡ノ膏ヲ傳ケ
 シ一爾ノ侶ニ勝レリ九爾ノ衣ハ沒藥蘆薈肉桂ノ如シ象牙
 ノ殿ヨリ爾ヲ樂マシム十諸王ノ女ハ爾ノ尊者ノ中ニ在リ
 皇后ハ爾ノ右ニ立チ妝フニオ十一爾ノ金ヲ以テス十二女ヤ之
 ナ聽キ之ヲ觀爾ノ耳ヲ傾ケヨ爾ノ民ト爾ガ父ノ家ヲ忘レ
十三王ハ爾ノ美ヲ慕ハン蓋彼ハ爾ノ主ナリ爾彼ニ伏拜セ
十四爾ノ女ハ禮物ヲ携ヘ民中ノ富メル者ハ爾ノ顔ヲ拜
十五王ノ女ノ光榮ハ皆内ニアリ其衣ハ金ヲ繡トス十六彼
 ハ錦繡ヲ衣テ王ノ前ニ進メラレ彼ガ伴タルノ童女ハ彼ニ
 從フテ爾ノ前ニ進メラル十七彼等ハ樂ミ祝フテ導カレ王ノ

殿ニ入ル十七爾ノ列祖ニ代ヘテ爾ノ諸子アラシ十八爾之ヲ立テ
 全地ノ牧伯トセン十九我爾ノ名ヲ萬世ニ誌サシメン故ニ
 諸民爾ヲ讚榮シテ永遠ニ迄ラン

第四十五聖詠

一此歌伶長ニアラモ二ノ樂器ヲ以テ之ヲ歌ハ
三シムコレイノ嗣ノ用タリ
四神ハ我等ノ避所ト能力ナリ患難ノ時ニハ速ナル佑助ナ
五リ故ニ地ハ動キ山ハ海ノ心ニ移サルモ我等懼レザラ
六シ其水ハ怒號奔激クヘシ其濤タツニ依テ山ハ震フヘシ
七河ノ流ハ神ノ邑至上者ノ聖ナル住所ヲ樂マシム八神ハ

其中ニ在リ其ノ搖撼カザラン神ハ早朝ヨリ之ヲ佑ケン
 諸民ハ怒號リ諸國ハ搖撼キ至上者一タビ聲ヲ發スレバ地
 ハ融ケリ 萬軍ノ主ハ我等ト偕ニスイヤコフノ神ハ我等
 ナ護ル者ナリ 來テ主ノ爲セシ所其地ニ行ヒシ掃滅ヲ視
 ヲ 彼ハ地ノ極マデ戰ヲ息メテ弓ヲ折リ矛ヲ折キ火ヲ以
 テ車ヲ焚ケリ 爾等止リテ我が神ナルヲ識レヨ我諸民ノ
 中ニ尊崇メラレ地上ニ尊崇メラレン 萬軍ノ主ハ我等ト
 偕ニスイヤコフノ神ハ我等ヲ護ル者ナリ

光榮讚詞

第七「カイズマ」

第四十六聖詠

一 此詠伶長ニ之ヲ歌ハシムコレイノ嗣ノ用タ
 リ
 ニ 萬民ヤ手ヲ拍チ歡ノ聲ヲ以テ神ニ呼ベヨ 蓋至上ノ主
 ハ畏ルベクシテ全地ヲ治ルノ大王ナリ 四 彼ハ諸民ヲ我等
 ニ從ハセ諸族ヲ我等ノ足下ニ從ハセリ 五 彼ハ我等ノ爲ニ
 嗣業ヲ選ベリ即其愛スル所ノイヤコフノ榮ナリ 六 神ハ呼
 ブ聲ニ伴ハレテ上リ主ハ角ノ聲ニ伴ハレテ升レリ 七 我ガ
 神ニ歌ヒ歌ヘヨ我ガ王ニ歌ヒ歌ヘヨ 八 蓋神ハ全地ノ王ナ
 リ 皆智慧ヲ以テ歌ヘヨ 九 神ハ諸民ノ王トナリ神ハ其聖ナ

ル寶座ニ座セリ 諸民ノ牧伯ハアウラムノ神ノ民ニ聚
レリ 蓋地ノ盾ハ神ニアリ 彼ハ其上ニ高ク舉ゲラレタリ

第四十七聖詠

此歌此詠コレイノ嗣ノ用タリ

ニ主ハ大ニシテ我ガ神ノ城邑其聖山ニ讚揚セラル
シ 山ハ美ナル高處ニシテ全地ノ喜ナリ 其北方ニ大王ノ城
邑アリ 神ハ其住所ニ在テ護ル者タルヲ知ラル 視ヨ諸
王集リテ偕ニ過去レリ 彼等ハ見テ驚キ心擾テ遁レタリ
七 彼處ニハ恐懼ト産婦ノ如キ苦アリテ彼等ヲ圍メリ 爾
東風ヲ以テテズルシズノ舟ヲ壞レリ 我等曾テ聞クガ如ク

今萬軍ノ主ノ城邑我ガ神ノ城邑ニ見ルヲ得タリ 神ハ之ヲ
固メテ永遠ニ迄ラン 神ヤ我等爾ノ仁慈ヲ爾ノ堂ノ中ニ
思ヘリ 神ヤ爾ノ名ノ如ク爾ノ讚美モ地ノ極ニ至ル 爾ノ
右ノ手ハ義ヲ滿テリ 主ヤ爾ノ判ニ因テシオン山ハ樂ム
ベシ イウデヤノ女ハ歡ブベシ 爾等シオンヲ繞リ之ヲ環
リ 其成樓ヲ數ヘヨ 其城垣ニ心ヲ留メ 其宮室ヲ觀テ之ヲ
後世ニ述ルヲ致セ 蓋此神ハ我等ノ神ニシテ世々ニ至リ
彼ハ我等ヲ導テ死時ニ至ラン

第四十八聖詠

此詠伶長ニ之ヲ歌ハシムコレイノ嗣ノ用タ

萬民之ヲ聽ケヨ 三 全地ニ居ル者貴賤貧富ヲ論ゼズ皆之
 ニ耳ヲ傾ケヨ 四 我が口ハ睿智ヲ出シ我が心ノ思ハ智識ヲ
 出サントス 五 我耳ヲ傾ケテ比喻ヲ聽キ琴ヲ以テ我が隱語
 ナ解カントス 六 我が患難ノ日我ヲ迫害スル者ノ惡我ヲ環
 ル時我何ゾ懼レンヤ 七 己ノ力ヲ恃ミ其財ノ多キニ誇ル者
 ヤ 八 人敢テ其兄弟ヲ贖フ能ハズ彼ノ爲メ神ニ償ヲナス能
 ハズ 九 其靈ヲ贖フノ價ハ貴シ 十 人常ニ存シテ墓ヲ見ザル
 一 世々之ナカラシ 十一 人皆見ル智者モ死シ愚者モ無智者モ
 滅ビテ其財ヲ他人ニ遺ス 十二 彼以爲ク其家ハ永ク存シ其住

所ハ世々ニ存セン彼等己ノ名ヲ以テ其地ニ名ク 十三 但人ハ
 貴ニ止ルヲ得ズ彼ハ亡ル獸ノ如クナラン 十四 彼等ノ道ハ愚
 蒙ナリ然レモ其後ノ人ハ尙其意ヲ是トス 十五 彼等ハ羊ノ如
 ク地獄ニ閉ザレ死ハ彼等ヲ牧シ平旦ニ義人彼等ヲ制セ
 ン 彼等ノ力ハ竭キ墓ハ彼等ノ住所トナラン 十六 但神ハ我が
 靈ヲ地獄ノ權ヨリ脱レシメン我ヲ納レントスレバナリ 十七
 人富ヲ致シ其家倍榮ユル時爾懼ル、母レ 十八 蓋彼死シテ一
 切ヲ携ヘズ其榮ハ彼ニ伴ハザラン 十九 彼存命ノ時其靈ヲ樂
 マシ且ツ人爾ガ自満足スルヲ見テ爾ヲ讚レモ 廿 彼ハ其永
 光ヲ觀ザル列祖ノ處ニ往カントス 廿一 人ノ貴クシテ無智

ナルハ亡ル獸ノ如シ

光榮讚詞

第四十九聖詠

アサフノ詠

一 諸神ノ神主ハ言ヲ出シテ地ヲ召ス日ノ出ル處ヨリ日ノ
 入ル處ニ至ルニ神ハシオン即至テ美麗ナル處ヨリ顯ハル
 三 我ガ神來ル彼ハ默セズ其前ニ燬盡スノ火アリ其四周ニ
 烈キ風アリ 四 彼ハ上ヨリ天地ヲ呼ビテ其民ヲ判クヲ爲ス
 五 日フ我ノ聖者祭ヲ以テ我ト約ヲ結ビシ者ヲ我ガ前ニ集
 六 諸天ハ神ノ義ヲ唱ヘン蓋此裁判者ハ神ナリ 七 吾

民ヤ聽ケヨ我言ハントスイブライリヤ我證ヲ以テ爾ヲ責
 メン我ハ神爾ノ神ナリ 八 我爾ノ祭ノ爲ニ爾ヲ譴メントス
 ルニ非ズ爾ノ燔祭ハ常ニ我ガ前ニアリ 九 我憤ヲ爾ノ家ヨ
 リ或ハ山羊ヲ爾ノ牢ヨリ受ケザラシ 十 蓋林中ノ諸獸ト千
 山ノ諸畜ハ皆我ニ屬ス 十一 我山ノ悉ノ禽ヲ知ル野ノ獸モ我
 ガ前ニ在リ 十二 我若シ饑ルモ爾ニ告ゲザラン蓋世界ト之ニ
 滿ル者ハ皆我ニ屬ス 十三 我豈ニ牡牛ノ肉ヲ食ヒ或ハ山羊ノ
 血ヲ飲マンヤ 十四 讚美ヲ以テ神ニ獻ゼヨ爾ノ誓ヲ至上者ニ
 償ヘヨ 十五 憂ノ日我ヲ呼ベヨ我爾ヲ脱レシメン此ヲ以テ爾
 我ヲ讚榮セン 十六 神罪人ニ日フ爾何爲レゾ我ガ律ヲ傳ヘ我

ガ約カクヲ爾ニノ口クハニ置オケクモ 十七十七 自我ミカラレノ訓ナレヲ疾コミ我ワレノ言コトヲ爾ニノ後ノ後
 ニ棄スツルヤ 十八十八 爾ニ盜賊ヌスヲ見ミレバ之コトニ與クミシ姦淫カニ者ノニ遇アヘバ之コトト
 借トニス 十九十九 爾ノ口クハヲ惡言アクガシノ爲ガニ啓ヒラキ爾ノ舌シタハ譎イソヲ編アム 爾
 ハ坐マシテ爾ノ兄弟ケイテイヲ誹シリ爾ガ母ハハノ子コヲ讒シス 爾既ニ此コトヲ
 行カヒ我ワレ默モセリ爾ハ我モ亦モ爾ノ如ゴトシト思オモヘリ我ワレ爾ヲ譴セメ爾
 ノ罪ツミヲ爾ガ目メノ前マニ置オケカン 廿二廿二 神カミヲ忘ワスル者ノヤ此コトヲ悟サトレヨ
 否シレバ我ワレ奪ウバフテ援マスル者ノナカラシ 廿三廿三 讚美サンビヲ獻ウケズル者ノハ我ワレヲ
 恭ウヤフ己カノ道ミチヲ愼ツツム者ノハ我ワレ彼カニ神カミノ救スベテ顯アハサン

第五十聖詠

一 大ダイウウイイドドノ詠エイ伶レイ長チヤウニ之コレヲ歌カハシムニ大ダイウウイイドド

ルササウウイイヤヤニ入イテ後ノチ預ヨ言ゲン者ノナラズン彼カニ來キル乃ナ
 此コレヲ作ツクル

三 神カミヤ爾ニノ大オホナル憐アハレニ依ヨテ我ワレヲ憐アハレミ爾ガ惡アクシノ多オホキニ因ヨテ我
 ノ不フ法フヲ抹ヌグシ給タマヘ 四 屢シバシバ我ワレヲ我ワレガ不フ法フヨリ洗アラヒ我ワレヲ我ワレガ罪ツミ
 ヨリ清スメ給タマヘ 五 盖カサ我ハ我ワレガ不フ法フヲ知シル我ノ罪ツミハ常ツニ我ワレガ
 前マニ在アリ 六 我ハ爾ノ獨ドコ爾ニ罪ツミヲ犯カシ惡アクヲ爾ノ目メノ前マニ行カヘ
 七 爾ハ爾ノ審斷シンダンニ義ギニシテ爾ノ裁判サイパンニ公オホキナリ 夫ツレ我ハ
 八 不フ法フニ於キテ妊ニマレ我ガ母ハ罪ツミニ於キテ我ヲ生ウメリ 夫ツ爾ハ
 九 心ココロニ眞實シンジツノアルヲ愛アイシ我ガ衷ウラニ於キテ智チ慧エヲ我ニ顯アハセリ
 十 一イソソププヲ以モテ我ニ沃ソクゲヨ然シセバ我ワレ潔イサクナラン我ヲ滌アラヘ

然セバ我雪ヨリ白クナラン 我ニ喜ト樂トナ聞カシ給
 へヨ然セバ爾ニ折ラレシ骨ハ悦バン 爾ノ顔ヲ我が罪ヨ
 リ避ケ我が盡ノ不法ヲ抹シ給ヘ 神ヤ清潔キ心ヲ我ニ造
 リ正直キ靈ヲ我ノ衷ニ改メ給ヘ 我ヲ爾ノ顔ヨリ逐フ
 勿レ爾ノ聖神ヲ我ヨリ取上ルコ勿レ 爾ガ救ノ喜ヲ我ニ
 還シ主宰タルノ神ヲ以テ我ヲ固メ給ヘ 我不法ノ者ニ爾
 ノ道ヲ教ヘシ不虔ノ者ハ爾ニ歸ラントス 神ヤ我が救ノ
 神ヤ我ヲ血ヨリ救ヒ給ヘ然セバ我が舌ハ爾ノ義ヲ讚揚ゲ
 ン 主ヤ我が唇ヲ啓ケヨ然セバ我が口ハ爾ノ讚美ヲ揚ゲ
 ントス 蓋爾ハ祭ヲ欲セズ欲スレバ我之ヲ獻ラン 爾ハ燔

祭ヲ喜バズ 神ニ喜バル、ノ祭ハ痛悔ノ靈ナリ痛悔シテ
 謙遜ナルノ心ハ神ヤ爾輕ンシ給ハズ 主ヤ爾ノ惠ニ因テ
 恩ヲシオンニ垂レイエルサリムノ城垣ヲ建テ給ヘ 其時
 ニ爾義ノ祭獻物ト燔祭ヲ喜ビ饗ケン 其時ニ人々爾ノ祭壇
 ニ犠ヲ奠ヘントス

光榮讚詞

第五十一聖詠

一 ダワイドノ教訓伶長ニ之ヲ歌ハシム 二 イドメ
 ヤ人ドイグ來テサウルニ告テ云クダワイドア
 ワメレフノ家ニ至レリト 乃此ヲ作ル

三 剛キ者ヤ何爲ソ惡業ヲ以テ誇ルヤ神ノ惠ハ恒ニ我ト偕
 ニス 四 爾ノ舌ハ害ヲ計ル譎ナル者ヤ爾ノ舌ハ銳キ薙刀ノ
 如シ 五 爾惡ヲ好ムト善ニ逾エ謊ヲ好ムト眞實ヲ言ニ越ユ
 六 譎ノ舌ヤ爾ハ悉ノ害アル談ヲ好ム 七 此ヲ以テ神ハ爾ヲ
 壞テ殘スナク爾ヲ除キ爾ヲ爾ノ住所ヨリ拔キ爾ノ根ヲ生
 ケル者ノ地ヨリ拔カントス 八 義人ハ見テ懼レ之ヲ笑テ云
 ハン 九 視ヨ此人ハ神ヲ以テ己ノカトセズ己ガ財ノ多ヲ恃
 シテ其惡業ニ固マレリ 十 唯我ハ青キ橄欖ノ樹ノ神ノ家ニ
 在ルガ如シ神ノ恩ヲ恃ミテ永遠ニ迄ラン 十一 我爾ガ行ヒシ
 十二 緣テ永遠ニ爾ヲ讚榮シ爾ノ名ヲ恃マン其爾ノ聖人ノ

前ニ善ナ志願ヲ持テ 第五十一聖詠
 一 神ノ教訓伶長ニ 箴ヲ以テ之ヲ和シ之ヲ
 二 愚ナル者ハ其心ニ云ヘリ 神ナシト彼等ハ自壞シ憎ム
 三 キ惡ヲ行ヘリ善ヲナス者ナシ 神ハ天ヨリ人ノ子ヲ臨ミ
 四 或ハ智明ニシテ神ヲ求ル者アルヤ否ヲ見シト欲ス 皆迷
 五 ヒ均ク朽敗レタリ善ヲ行フ者ナシ一モ亦ナシ 不法ヲ行
 六 ヒ餅ヲ食フガ如ク我ガ民ヲ食ヒ及神ヲ呼バザル者豈ニ悟
 七 ラズヤ 六 彼等ハ懼レナキ處ニ懼レン蓋神ハ爾ヲ攻ル者ノ
 八 骨ヲ散サン爾彼等ヲ辱メン 神已ニ彼等ヲ棄レ 九 誰

ガシゴシヨリ救ヲイズライリニ與ヘシヤ神ガ其民ノ虜ヲ返ヘサンキイヤコフハ喜ビイズライリハ樂マシ

第五十三聖詠

一 ダウダノ教訓伶長ニ琴ヲ彈テ之ヲ歌ハシム
二 ジズエイ人來テサウルニ告テ云クダウダ我等ノ處ニ匿ル、ニ非ズヤト乃此ヲ作ル
三 神ヤ爾ノ名ヲ以テ我ヲ救ヒ爾ノ力ヲ以テ我ヲ判キ給ヘ
四 神ヤ我が禱ヲ聽キ我が口ノ言ヲ聆納レ給ヘ 蓋外人ハ起テ我ヲ攻メ強キ者ハ我が靈ヲ覓ム彼等ハ神ヲ己ノ前ニ置カズ 夫神ハ我ノ援助ナリ主ハ我が靈ヲ固ム 彼ハ我

ガ敵ニ其惡ヲ報イシ爾少眞實ヲ以テ彼等ヲ滅シ給ヘ 主ヤ我心ヲ盡シテ爾ニ祭ヲ獻ガ爾ノ名ヲ讚揚ゲシ其善ナルヲ以テナリ 蓋爾ハ我ヲ諸ノ艱難ヨリ救ヒ給ヘリ我が目ハ我ノ敵ヲ見ス

第五十四聖詠

一 ダウダノ教訓伶長ニ琴ヲ彈テ之ヲ歌ハシム
二 神ヤ我が禱ヲ聆キ我が願ヨリ匿ル、母レ 我ニ耳ヲ傾テ我ニ聽給ヘ我ハ悲ノ中ニ呻吟ヒ 敵ノ聲ト不虔者ノ責ニ由テ惶擾ヲ蓋彼等ハ不法ヲ以テ我ヲ誣ヒ怒ヲ以テ我ニ仇ス 我ガ心ハ我ノ衷ニ慄キ死ノ恐惶ハ我ニ及ベリ 驚

懼ト戰栗ハ我ニ臨ミ恐惶ハ我ヲ圍メ我言ハリ孰カ我
 ニ鴿ノ翼ヲ予ルヤ我飛去テ安ヲ獲ン遠ク離レテ野ニ居
 ラシ急テ旋風ト暴風トヲ避ケン主ヤ彼等ヲ乱シ其舌
 ナ分ケヨ蓋我ハ暴虐ト爭競ヲ城邑ノ中ニ見ル彼等ハ晝
 夜其城垣ノ上ヲ繞ル其中ニ毒惡ト患難アリ殘害ハ其中
 ニアリ詭詐ト誑騙ハ其衢ヲ離レズ蓋我ヲ誹ル者ハ敵ニ
 非テ敵ナラバ我之ヲ忍バン我ニ高ブル者ハ我ガ仇ニ非ズ
 仇ナラバ我之ヲ避ケシ乃爾曾テ我ト儔キ者我ノ友我ノ
 近キ者ナリ我ト親キ談ヲナセシ者ナリ偕ニ神之宮ニ行
 シ者ナリ願ハ死ハ彼等ニ至ラシ願ハ彼等ハ生ナラ地

獄ニ降ラシ蓋惡事ハ其住所ニ其間ニ在シバナ唯我神
 ニ籲ン主ハ則我ヲ救ハントス晚ト朝ト午ニ我祈リテ
 呼バン彼乃我ノ聲ヲ聞カントス我ガ靈ヲ我ヲ攻ル者ヨ
 リ平安ニ脱レシメン蓋彼等ハ夥ケレバナリ神ハ聽カン
 世ノ前ヨリ在ス者ハ彼等ヲ卑ウセントス蓋彼等ニ改メリナ
 シ彼等ハ神ヲ畏レズ己ノ手ヲ彼等ト和睦スルモノニ伸
 バシ己ハ約ニ背ケリ其口ハ膏ヨリ滑ニシテ其心ニ仇ヲ
 懷キ其言ハ油ヨリ柔ニシテ是白刃ナリ爾ノ重任ヲ主ニ
 負ハシメヨ彼ハ爾ヲ扶ケン彼ハ何時モ義人ニ搖撼ヲ容サ
 シラン神ヤ爾ハ彼等ヲ滅ノ阱ニ陷レン血ヲ流シ貳ヲ行

フ者ハ存命テ其生命ノ半ニモ至テ得ズ主ヤ唯我爾ヲ頼ム

光榮讚詞

第八「カイズマ」

第五十五聖詠

ダワイドノ作ル所伶長ニ之ヲ歌ハシム無聲シ

鴿遠方ニ在ルニ倣フダワイドスリスティヤ人ニ

ゲフニ執ヘラル乃此ヲ著ス

ニ神ヤ我ヲ憐メヨ蓋人我ヲ吞マント欲シ毎日我ヲ攻メテ

我ニ逼ル至止者ヤ我ガ敵ハ毎日我ヲ吞マシヨヲ覓ム蓋

起テ我ヲ攻ル者多シ我懼ル時唯爾ヲ恃ム五我神ノ故ヲ

以テ其言ヲ讚揚ゲン我神ヲ恃ミテ懼レズ肉軀我ニ何法カ

ナサンヤ彼等毎日我ガ言ヲ曲ゲ其思フ所ハ皆我ヲ害ス

七彼等ハ聚集リ潜伏ミテ我ガ踵ヲ伺ヒ我ガ靈ヲ捉ヘント

欲ス彼等豈ニ其不義ノ報ヲ脱レンヤ神ヤ爾ノ怒ヲ以テ

諸民ヲ仆セヨ我ノ流離ハ爾曾テ之ヲ數ヘリ我ガ涙ヲ爾

ノ器ニ納レヨ此爾ノ書ニ録スニ非ズヤ我爾ニ籲ブ時我

ガ敵ハ退ク此ヲ以テ我神ガ我ヲ助クルヲ知ル我神ノ故

ヲ以テ其言ヲ讚揚ゲン我主ノ故ヲ以テ其言ヲ讚揚ゲン

我神ヲ恃ミテ懼レズ人我ニ何ヲカナサンヤ神ヤ爾ニ發

セン誓ハ我ニアリ我讚美ヲ以テ爾ニ償ハン蓋爾曾テ我

が靈ヲ死ヨリ我が目ヲ涙ヨリ我が足ヲ蹟ヨリ救フテ我ヲ
 神ノ顔ニ前生ケル者ハ光ノ内ニ行カシメ給フ。神ノ
 第五十六聖詠
 新ダワドノ作ル所伶長ニ聖之ヲ歌ハシム滅ス母
 神レリ調ニ循フダワドサウルヲ避ケテ洞ニ匿
 潜ル乃此ヲ著ス。神ノ靈ハ神ノ靈ニ
 神ヤ我ヲ憐ミ我ヲ憐ミ給ヘ蓋我が靈爾ヲ恃ム我爾ガ翼
 ノ蔭ニ蔽ハレテ患難ノ過ルヲ待タシ。我至上ノ神恩ヲ我
 ニ施スノ神ニ呼ボシ。彼ハ天ヨリ遣ヒテ我ヲ救ハシ我
 以吞マシヨトク覓ル者ヲ辱シ。神ニ其憐由其實以遣ハ

五 我ガ靈ハ獅ノ中ニ在リ我ハ焰ヲ噴ク者ノ中ニ臥シ
 人ノ子ノ中ニ臥ス其齒ハ槍ト矢ナリ其舌ハ利キ劍ナリ
 神ヤ願ハ爾ハ天ノ上ニ舉ゲラレ爾ノ光榮ハ全地ヲ蔽ハン
 七 彼等ハ我が足ノ爲ニ網ヲ設ケリ我が靈ハ弱リタリ彼等
 ハ我が前ニ阱ヲ掘リテ自其中ニ陷レリ。我が心備レリ神
 ヤ我が心備レリ我歌フテ讚榮セン。我が讚榮興キヨ我が
 琴瑟興キヨ我夙ク興キントス。主ヤ我爾ヲ諸民ノ中ニ讚
 榮シ爾ヲ諸族ノ中ニ讚頌セン。蓋爾ノ憐ハ大ナル。天ニ
 戻リ爾ノ眞實ハ雲ニ戻ル。神ヤ願ハ爾ハ天ノ上ニ舉ゲラ
 レ爾ノ光榮ハ全地ヲ蔽ハン。

第五十七聖詠

一 ダウドノ作ル所伶長ニ之ヲ歌ハシム滅ス母
レノ調ニ循フ

ニ 裁判者ヤ爾等誠ニ義ヲ言フカ人ノ子ヤ爾等正ク裁判ス
ルカ 爾等ハ心ノ中ニ不法ヲ設ケ爾等ガ手ノ地ニ行ヒシ
惡業ヲ權衡ニ置ク 惡人ハ生ル、時ヨリ道ヲ離レ母ノ腹
ヨリ迷フテ謊ヲ言フ 彼等ノ毒ハ蛇ノ毒ノ如ク聾ノ腹ガ
耳ヲ塞デ 妙術ニ尤モ巧ナル妙術者ノ聲ヲ聽ガザルガ如
シ 神ヤ其口ノ齒ヲ折ケ主ヤ獅ノ頤ヲ壞リ給ヘ 願ハ彼
等ハ流水ノ如ク消エ弓ヲ張り矢ヲ發ツキ其自折ル、ガ如

クナラン 願ハ彼等ハ化スル蝸牛ノ如ク消エ墮胎ノ兒ノ
如ク日ヲ見ザラン 爾等ノ釜未ダ棘ノ熱ヲ覺エザル先ニ
願ハ大風燃ルト燃エ付カザルヲ合セテ之ヲ散ラサン 義
者ハ報ヲ見テ喜ビ惡者ノ血ヲ以テ其足ヲ濯ハン 時ニ人
云ハン義者ハ誠ニ果報アリ故ニ審判ヲ地ニ行フノ神アリ

光榮讚詞

第五十八聖詠

一 ダウドノ作ル所伶長ニ之ヲ歌ハシム滅ス母
レノ調ニ循フサウル人ヲ遣シテダウドノ宅
ヲ守リ之ヲ殺サント欲ス乃此ヲ作ル

二 我ガ神ヤ我ヲ我ガ敵ヨリ援ケ我ヲ攻ル者ヨリ護リ給ヘ
 三 我ヲ不法ヲ行フ者ヨリ援ケ血ヲ流ス者ヨリ救ヒ給ヘ
 蓋彼等ハ我ガ靈ヲ窺フ主ヤ強悍キ者聚テ我ヲ攻ム我ガ愆
 二 緣ルニ非ズ我ガ罪ニ緣ルニ非ズ 我尤ナシト雖モ彼等
 趨集テ武具ヲ備フ祈ル我ヲ佑ケンガ爲ニ起テ之ヲ觀ヨ 六
 主萬軍ノ神イズライリノ神ヤ起テ萬民ニ臨ミ惡逆ナル不
 法者ノ一ヲモ恕ス母レ 彼等ハ暮ニ歸リ犬ノ如ク哀號シ
 テ城邑ヲ環ル 視ヨ彼等ハ舌ヲ以テ謗ヲ吐ク其口ニ劍ア
 リ蓋自思フ誰カ之ヲ聽カンヤ 主ヤ唯爾彼等ヲ晒ハン爾
 萬民ヲ辱メン 力ハ彼等ニアリ唯我爾ニ趨付ク蓋神ハ我

ナ護ル者ナリ 十一 我ガ神我ヲ憐ム者我ニ先タン神ハ我ニ
 我ガ敵ヲ見ルヲ得セシメン 十二 主我等ノ盾ヤ彼等ヲ殺ス母
 レ恐ハ我民忘レン 爾ノ權能ヲ以テ彼等ヲ散ラシ彼等ヲ卑
 ウセヨ 十三 其舌ノ言ハ其口ノ罪ナリ願ハ彼等ハ發スル所ノ
 詛ト謊ニ因テ其誇ヲ以テ自拘ハレン 十四 怒ヲ以テ彼等ヲ散
 シ之ヲ散シテ其無ニ至レ人ニ神ガイヤコフヲ宰リテ地ノ
 極ニ及ブヲ知ラシメヨ 十五 彼等暮ニ歸リ犬ノ如ク哀號シテ
 城邑ヲ環ルベシ 十六 徘徊シテ食ヲ求メ枵腹ニシテ夜ヲ終フ
 ベシ 十七 唯我爾ノ能力ヲ歌ヒ早朝ヨリ爾ノ慈憐ヲ述ベン蓋
 爾曾テ我ガ患難ノ日ニ於テ我ノ護佑ト避所タリ 十八 我ガ能

カヤ我爾ヲ歌ハシ蓋神ハ我ヲ護ル者ナリ我ガ神ハ我ヲ憐ム者ナリ

第五十九聖詠

一 ダワドノ作ル所伶長ニスサン、エドムラノ樂器ヲ以テ之ヲ歌ハシム人ノ之ヲ學ブヲ致スニ
ダワドメソポタミヤノシリヤ及ツォワンノシリヤヲ征スル時イオアフ歸リテイドメヤ人
一萬二千ヲ鹽谷ニ敗ル乃此ヲ著ス
三 神ヤ爾我等ヲ棄テ爾我等ヲ敗リ爾怒ヲ發セリ祈ル我等
ニ向ヒ給ヘ爾地ヲ震ハシテ之ヲ裂ケリ祈ル其破ヲ補ヒ

給ヘ蓋彼搖動ケルナリ爾ハ爾ノ民ニ苦ヲ嘗メシメ我等
ニ驚惶ノ酒ヲ飲マシメリ祈ル爾ヲ畏ル者ニ旗ヲ賜フ
テ彼等ニ眞實ノ爲ニ之ヲ颯ゲシメ爾ノ愛スル者ニ援テ
獲セシメ給ヘ爾ガ右ノ手ニテ救フテ我ニ聽キ給ヘ神ハ
其聖所ニ於テ曰ヘリ我勝タンシヘムヲ分クソクホフノ谷
ヲ量ランガラアドハ我ニ屬シマナシヤハ我ニ屬シエフ
レムハ我が首ノ防固イウダハ我ノ權柄ナリモアフハ我
ノ盤ナリエドムニ我が鞞ヲ舒ベントスフリスティヤノ地ヤ
我ニ凱ヲ舉ゲヨ孰カ我ヲ引テ堅固ナル城邑ニ入レン孰
カ我ヲ導テエドムニ至ラン神ヤ豈ニ爾ニ非ズヤ神ヤ我

等ヲ棄テ、我が軍ト共ニ出デザル者ヤ十三 祈ル狹難ニ於テ
 我等ニ助ケテ昇ヘ給ヘ人ノ護佑ハ虚シケレバナリ十四 神ト
 借ニシテ我等力ヲ顯ハサシ彼ハ我が敵ヲ降サン

第六十聖詠

一 ダウドノ詠伶長ニ琴ヲ彈テ之ヲ歌ハシム

ニ 神ヤ我が籲ブヲ聽キ我が祈ヲ聽納レ給ヘ 我心ノ憂悶
 ナ以テ地ノ極ヨリ爾ニ呼ブ我ヲ引テ我が至ル能ハザル磐
 ニ升シ給ヘ 蓋爾ハ我ノ避所ナリ爾ハ敵ヲ防グ堅固ナル
 盾ナリ 願ハ我永ク爾ノ住所ニ居リ爾ガ翼ノ蔭ニ安ンゼ
 ン 神ヤ蓋爾ハ我が誓ヲ聞テ我ニ爾ノ名ヲ懼ル者ノ業

ヲ賜ヘリ 祈ル王ノ日ニ日ヲ加ヘ其年ヲ世々ニ延ベヨ 八
 願ハ彼永ク神以前ニ居ラシ憐ト眞實ニ戒メテ彼ヲ護ラシ
 メヨ 然ラバ我毎日我が誓ヲ償フテ世々爾ノ名ニ歌ハシ
 光榮讚詞

第六十六聖詠

一 ダウドノ詠イダフムノ伶長ニ之ヲ歌ハシム

ニ 我が靈唯神ニ在テ安シ我が救ハ彼ニ由ル 唯彼ハ我が
 防固我が救我が避所ナリ我復動搖カザラン 爾等人ニ逼
 ル何シ時ニ至ラントスルヤ爾等仆サレシ爾等皆傾ケル
 牆シ如ク搖ケル籬シ如ク仆サレトス 彼等ハ高ヨリ彼

ナ落サン^六ヲ謀リ詭ヲ用ヒ口ニハ降福シ心ノ中ニハ詛フ
 我ガ靈ヤ唯神ニ在テ安カレ我ガ望ハ彼ニ在レバナリ
 唯彼ハ我ガ防固我ガ救我ガ避所ナリ我動搖カザラン
 ガ救ト我ガ榮ハ神ニアリ我ガ力ノ防固ト我ガ恃ハ神ニア
 リ民ヤ常ニ彼ヲ恃メヨ爾ノ心ヲ彼ノ前ニ注ゲヨ神ハ我
 等ノ避所ナリ人ノ子ハ惟虚シ壯夫ノ子ハ譎ナリ彼等ヲ
 權衡ニ置ケバ皆共ニ空虚ヨリ輕シ強奪ヲ恃ム母レ強掠
 ニ誇ル母レ貨ノ増スキ之ニ心ヲ貼ル母レ神一次言フテ
 我二次能力ノ神ニ在リ憐ノ爾主ニ在ルヲ聽ケリ蓋爾ハ
 各人ノ行フ所ニ依テ之ニ報ユ

第六十二聖詠

一 ダウ^一ドノ詠其イウ^二デヤノ野ニ在リ乃此ヲ作^三ル

二 神ヤ爾ハ我ノ神ナリ我曉ヨリ爾ヲ尋ヌ我ガ靈ハ渴キテ
 爾ヲ望ミ我ガ身ハ痛ク爾ヲ慕ヒ空クシテ燥ケル水ナキノ
 地ニアリ爾ノ能力ト爾ノ光榮ヲ見ルハ我曾テ爾ヲ聖所
 ニ觀シガ如クナランヲ願フ蓋爾ノ憐ハ生命ニ愈ル我ガ
 口爾ヲ讚美セントス是ノ如ク我生ケル時爾ヲ崇讚メ爾
 ノ名ニ依テ我ガ手ヲ揚ゲン我ガ靈ノ飽サル、^六脂油ヲ
 以テスルガ如ク我ガ口歡ノ聲ニテ爾ヲ讚美ス^七楊ニテ爾

夫記憶シ夜更ニ爾ヲ思フ時ニ於テ不^八蓋爾ハ我以扶^九テ爾
 爾ガ翼ノ蔭ニテ我欣^十ントス我ガ靈^{十一}公親ク爾ニ附^{十二}キ爾
 ノ右ノ手ハ我ヲ扶ク彼ノ我ガ靈ヲ害ハシ^{十三}テ謀^{十四}ル者公
 地ノ深キ處ニ降^{十五}ラン彼必^{十六}双ニ攫^{十七}リテ狐ノ獲物トナ^{十八}ラン
 惟王ハ神ノ爲ニ樂マシ凡^{十九}ソ彼ヲ以テ誓フ者ハ譽ヲ
 得^{二十}シ蓋^{二十一}謊^{二十二}ヲ言フ者ノ口ハ塞^{二十三}レントス
 第六十三聖詠
 ダワドノ詠伶長ニ之ヲ歌ハシム
 神ヤ我が禱^一ノ時我ガ聲ヲ聽^二キ我ガ生命ヲ敵^三ヲ畏^四ルハ功
 畏^五ヨリ護^六リ給ヘ我ヲ詭^七者ノ謀^八ヨリ惡^九者ノ乱^十ヨリ匿^{十一}シ給

彼等^一公其舌ヲ劍^二ノ如ク礪^三ギ其毒言ヲ弓^四ノ如ク張^五リ
 五^六隱^七ニ無^八玷^九之者ヲ射^十シト欲^{十一}ス彼等^{十二}ハ忽^{十三}之ヲ射^{十四}テ懼^{十五}レ
 彼等^{十六}ハ惡^{十七}意ヲ定^{十八}メ隱^{十九}ニ網^{二十}ヲ設^{二十一}ケンテ謀^{二十二}テ謂^{二十三}ヘリ誰^{二十四}カ之
 ナ見^{二十五}ンヤ彼等^{二十六}ハ不^{二十七}義ヲ尋^{二十八}テ屢^{二十九}探^{三十}テ人ノ中^{三十一}情^{三十二}ト心^{三十三}ノ深^{三十四}キ
 處^{三十五}ニ至^{三十六}ル然^{三十七}レ^{三十八}神^{三十九}ハ矢^{四十}ヲ以^{四十一}テ彼等^{四十二}ヲ射^{四十三}シ彼等^{四十四}忽^{四十五}傷^{四十六}ケラ
 レントス彼等^{四十七}其舌ヲ以^{四十八}テ己^{四十九}ヲ傷^{五十}メシ彼等^{五十一}ヲ見^{五十二}ル者^{五十三}ハ皆^{五十四}
 避^{五十五}テシ衆^{五十六}人懼^{五十七}レテ神^{五十八}ノ功^{五十九}ヲ傳^{六十}ベ其彼^{六十一}ノ爲^{六十二}ス所^{六十三}タルヲ知
 ラン義^{六十四}人ハ主^{六十五}ノ爲^{六十六}ニ樂^{六十七}ミテ彼^{六十八}ヲ恃^{六十九}マシ心^{七十}正^{七十一}キ者^{七十二}ハ皆^{七十三}彼
 ナ以^{七十四}テ榮^{七十五}トセシ

光榮讚詞

第九「カネズマ」

第六十四聖詠

一 ダワイドノ詠ナリ歌ナリ伶長ニ之ヲ歌ハシム
 ニ 神ヤ讚頌ハシオンニ於テ爾ニ屬シ盟ハイエルサリムニ
 於テ爾ニ償ハレン 三 爾ハ祈禱ヲ聽ク凡ソ肉身ハ爾ニ趨附
 ク 四 不法ノ行ハ我ニ勝チ爾ハ我等ノ罪ヲ淨メントス 五 爾
 ガ選ミ近ヅケテ爾ノ庭ニ居ラシムル者ハ福ナリ我等ハ爾
 ノ家爾ガ聖堂ノ福ニ鑿足ラン 六 義判ニ於テ恐ル可キ者ヤ
 神我ガ救世主地ノ四極ト遠ク海ニ居ル者トノ恃ヤ 七 其力
 ニテ山ヲ建テ權能ヲ帶ル者ヤ 八 海ノ騒ギ其波ノ聲及諸民

ノ乱ヲ鎮ムル者ヤ我等ニ聞キ給ヘ 九 地ノ極ニ居ル者ハ爾
 リ休徵ヲ畏レシ爾ハ朝夕ヲ起シテ爾ヲ讚榮セシメントス
 十 爾地ニ臨ミテ其渴ヲ止メ豊ニ之ヲ富マシム神ノ流ハ水
 ニ盈テ爾穀物ヲ備フ盖此ノ如ク之ヲ作レリ 十一 爾其吠ニ飲
 マセ其塊ヲ平ゲ雨ノ滴ヲ以テ之ヲ柔ラゲ降福シテ芽ヲ出
 サシム 十二 爾ノ恩澤ヲ以テ年ニ冠ラシ爾ノ歩ハ膏滴ル 十三 爾ハ
 郊邊ノ牧場ニ滴リ丘ハ喜ヲ帶ブ 十四 草原ハ獸ノ群ヲ衣谷ハ
 穀物ニテ蔽ハレ歡ビ呼デ歌フ

第六十五聖詠
 歌ナリ伶長ニ之ヲ歌ハシム

一 全地ヤ神ニ歡テ呼ビニ其名ノ光榮ヲ歌ヒ光榮ト讚美ヲ
 彼ニ歸セヨ 神曰フニ爾ハ爾ノ行事ニ於テ何ゾ恐ル
 ンキヤ爾ガ力ノ多キニ由テ爾ノ敵ハ爾ニ降ラン 至上者
 ヤ願ハ全地ハ爾ニ叩拜シ爾ヲ歌ヒ爾ノ名ニ歌ハシテ來テ
 人ノ子ニ行フ所ニ於テ畏ルベキ神ノ行事ヲ視ヨ 彼ハ海
 ナ變シテ陸トナセリ人歩ミテ河ヲ渉ルアリ我等ハ彼處ニ
 在テ彼ノ爲ニ樂メリ 彼ハ己ノ能力ヲ以テ永ク宰リ其目
 ハ諸民ヲ鑿ミ叛逆ノ者ニ自詡ルナカラシム 諸民ヤ我が
 神ヲ讚揚シ其讚美ヲ傳ヘヨ 彼曾テ我等ガ靈ノ生命ヲ守
 リ我等ノ足ニ蹟クテ免ルガズ 神ヤ爾曾テ我等ヲ試ミ我

等ヲ鍊ルル銀ヲ鍊ルルガ如シ 爾我等ヲ網ニ引入レ鎖ヲ以
 テ我等ノ腰ニ繫ギ 人ヲ我等ノ首ノ上ニ置キ我等ハ曾テ
 火ト水ノ中ニ入ル唯爾我等ヲ引出シテ自由ヲ賜ヘリ 我
 燔祭ヲ以テ爾ノ家ニ入り我ノ盟ヲ爾ニ償ン 乃我が憂ノ
 時我が口ノ出セシ所我が舌ノ言ヒシ所ノ者ナリ 我肥タ
 ル燔祭ヲ牡羊ノ脂ノ煙ニ併セテ爾ニ奉リ牡牛ト山羊トヲ
 祭ニ獻ゲントス 凡ソ神ヲ畏ル、者來テ聞ケヨ 我爾等ニ
 其我が靈ノ爲ニ行ヒシ所ヲ述ントス 我曾テ我が口ヲ以
 テ彼ニ呼ビ我が舌ヲ以テ彼ヲ讚揚セリ 若我が心ニ不
 法ノアルヲ見バ主ハ我ニ聽カザラン 然レモ神ハ已ニ聽

キ我ガ祈禱ノ聲ヲ聽納レ給ヘリ 廿 崇讚メラル、哉神ハ我
ガ祈禱ヲ却ケズ其憐ヲ我ヨリ離サズ

第六十六聖詠

一 此詠此歌伶長ニ琴ヲ彈テ之ヲ歌ハシム
ニ 神ヤ我等ヲ憐ミ我等ニ福ヲ降シ爾ノ顔ヲ以テ我等ヲ照
シ 三 爾ノ途ヲ地ニ爾ノ救ヲ萬民ノ中ニ知ラシメ給ヘ 四 神
ヤ願ハ諸民爾ヲ讚揚シ諸民悉ク爾ヲ讚揚セン 五 願ハ諸族
樂ニ歡バン蓋シ爾義ヲ以テ諸民ヲ審判シ地上ノ諸族ヲ治
ムレバナナリ 六 神ヤ願ハ諸民爾ヲ讚揚シ諸民悉ク爾ヲ讚揚
セン 七 地ハ已ニ其果ヲ出セリ願ハ神我ガ神ハ我等ニ福ヲ

降サシ 八 願ハ神ハ我等ニ福ヲ降シ地ノ極ハ悉ク彼ヲ畏レ
ン

光榮讚詞

第六十七聖詠

一 ダavidノ詠ナリ歌ナリ伶長ニ之ヲ歌ハシム
ニ 神ハ興キ其仇ハ散ルベシ彼ヲ惡ム者ハ其顔ヨリ逃グベ
シ 三 煙ノ散ルガ如ク爾彼等ヲ散ラシ給ヘ蠟ノ火ニ融クル
ガ如ク惡人等ハ神ノ顔ニ亡ブベシ 四 唯義人等ハ樂ミ神ノ
前ニ欣ビ且欣ンデ祝フベシ 五 我等ノ神ニ歌ヒ其名ニ歌ヒ
天ヲ行ク者ヲ崇讚メヨ其名ヲ主ト曰フ彼ノ顔ノ前ニ欣ベ

六 孤子ノ父寡婦ノ審判者ナル神ハ其聖ナル住居ニ在リ
 七 神ハ獨身ノ者ヲ家ニ入レ囚者ノ鎖ヲ釋ク唯逆フ者ハ炎
 野ニ遺テラル 八 神ヤ爾ガ爾ノ民ニ先テ出テ野ニ行ノ時
 九 地ハ震ヒ天モ神ノ顔ニ融ケ此シナイモ神イズライリノ神
 ノ顔ニ融ケリ 十 神ヤ爾ハ甘霖ヲ爾ノ業ニ注ギ其勞ニ依テ
 弱ル時爾之ヲ固メリ 十一 爾ノ民ハ彼處ニ居レリ神ヤ爾ハ仁
 慈ニ依テ貧キ者ノ爲ニ備ヲナセリ 十二 主ハ言ヲ賜ハン之ヲ
 傳ルノ女甚ダ多シ 十三 軍旅ノ諸王ハ走り走ル只家ニ坐スル
 ノ婦ハ獲物ヲ分ツ 十四 爾等各其疆ニ安ズルヲ得テ恰モ鴿ノ
 翼ヲ銀ニテ蔽ハレ羽ヲ純金ニテ蔽ハレタルガ如クナレリ

十五 全能者此地ニ諸王ヲ散ゼシニ其白マリシヲセルモンノ
 雪ノ如シ 十六 ワサンノ山ハ神ノ山ワサンノ山ハ高キ山ナリ
 十七 諸ノ高キ山ヨ爾等何爲ゾ神ガ居ランヲ欲シ主ガ永ク住
 シトスルノ山ヲ嫉ミ視ルヤ 十八 神ノ車ハ萬々千々主ハ其中
 ニ在リシナイノ聖所ニ在リ 十九 爾ハ高二登リ擄テ擄ニシ人
 々ノ爲ニ獻物ヲ享ケ逆フ者ニモ主神ニ居ルベキヲ得セシ
 ム 廿 主ハ日々ニ崇讚メラル神ハ我等ニ重荷ヲ負ハスレド
 モ亦我等ヲ救ヒ給フ 廿一 神ハ我等ノ爲ニ救ノ神ナリ死ノ門
 ハ主全能者ノ權ニ在リ 廿二 神ハ其敵ノ首己ノ不法ニ溺ル者
 ノ髮ノ項ヲ擗カン 廿三 主言ヘリワサンヨリ回ヘシ海ノ深水

ヨリ引出シ廿四爾ニ爾ノ足ヲ爾ノ犬ニ其舌ヲ敵ノ血ニ浸サ
 シ廿五神ヤ爾ノ行ク我神我王ノ聖所ニ行クヲ見タリ
 歌フ者ハ前シシ樂器ヲ鳴ス者ハ後ニ從ヒ童女ハ鼓ヲ持テ
 其間ニ在リ廿七爾等イブライリノ種ヨリ出ル者ヤ教會ニ於
 テ主神ヲ崇讚メヨ廿八彼處ニハ小ナルワニアミン廿九彼等ノ侯
 タルアリイウダノ諸侯彼等ノ主宰タルアリ又ザウロンノ
 諸侯チフリムノ諸侯アリ廿九爾ノ神ハ爾ニ力ヲ賜フヲ預定
 セリ神ヤ爾我等ノ爲ニ行ヒシ事ヲ固メヨ三十爾ガイエルサ
 リムニ在ルノ堂ノ爲ニ諸王ハ獻物ヲ爾ニ奉ラシトス卅一爾
 葦ノ間ノ猛獸及ビ銀塊ヲ以テ伐レル諸民ノ憤ノ中ノ牡牛

ノ群ヲ制シ戰ヲ好メル諸民ヲ散ラシ給ヘ卅二公卿ハエギヘ
 トヨリ來リエヌ卅三チビヤハ其手ヲ揚ゲテ神ニ向ハントス
 地上ノ諸國ヤ神ニ歌ヒ卅四世々天ノ天ヲ行クノ主ヲ讚歌
 ヘヨ夫レ彼ハ其聲ニ力ノ聲ヲ與フ卅五光榮ヲ神ニ歸セヨ其
 威嚴ハイズライリノ上ニ在リ其能力ハ雲ニ在リ卅六神ヤ爾
 ハ爾ノ聖所ニ於テ嚴ナリイブライリノ神ハ其民ニ能ト固
 ナ賜フ神ハ崇讚メラル

光榮讚詞

第六十八聖詠

一 ダウドノ詠伶長ニソサンニムノ樂器ヲ以テ

之ヲ歌ハシム

二 神ヤ我ヲ救ヘ蓋水ハ我が靈ニ至レリ
 三 我深キ沼ニ溺レ
 四 我テ立ツ處ナシ我深キ水ニ入リテ其ノ急瀨ハ我ヲ流ス
 五 我ハ籲テ倦ミ我が喉ハ枯レ我が目ハ我が神ヲ望ミテ疲レタ
 六 故ナクシテ我ヲ疾ム者ハ我が首ノ髮ヨリ多ク我が敵
 七 不義ヲ以テ我ヲ窘迫ル者益強ク我が奪ハザル所ノ者ハ我
 八 二之ヲ償ハシム 六 神ヤ爾ハ我が無智ナルヲ知ル我ノ罪ハ
 九 爾ニ隱ル、ナシ 七 主萬軍ノ神ヤ願ハ凡爾ヲ恃ム者我ニ因
 十 テ羞ヲ承ケザラン イズライリノ神ヤ願ハ爾ヲ尋ル者我
 十一 二因テ辱ヲ承ケザラン 八 蓋我爾ノ爲ニ侮ヲ負ヒ我が面ハ

一 辱ニテ蔽ハル 九 我ハ我が兄弟ニ疎キ者トナリ我が母ノ子
 二 ノ知ラザル者トナレリ 十 蓋爾ガ家ニ於ルノ熱心ハ我ヲ蝕
 三 ミ爾ヲ謗ルノ謗ハ我ニ墜ツ 十一 我靈ニ齋シテ泣ク彼等
 四 是以テ我ノ辱トナス 十二 我麻衣ヲ着テ衣服ニ易ヘ彼等ノ諺ト
 五 ナル 十三 門ノ傍ニ坐スル者ハ我ヲ評シ酒ヲ飲ム者ハ歌ヲ以
 六 テ我ヲ歌フ 十四 主ヤ惟我祈禱ヲ以テ爾ニ赴ク神ヤ爾ガ喜ブ
 七 時ニ於テ爾ノ大仁慈ニ依リ爾ガ救ノ誠ヲ以テ我ニ聞キ給
 八 へ 十五 我ヲ泥中ヨリ引出シテ我ノ溺ルヲ容ルス母レ我ヲ疾
 九 ム者ト深キ水ヨリ免ル、ヲ得セシメヨ 十六 急瀨ニ我ヲ流サ
 十七 シムル母レ淵ニ我ヲ吞マシムル母レ大壑ニ其口ヲ我が上

二閉サシムル母レ十七主ヤ我ニ聆ケヨ爾ノ憐ハ善ナレバナ
 リ爾ガ惠ノ多キニ因テ我ヲ顧ミ給ヘ十八爾ノ顔ヲ爾ノ僕ニ
 匿ス母レ我哀メバナリ速ニ我ニ聽キ給ヘ十九我が靈ニ近キ
 テ之ヲ援ケヨ我が敵ニ縁テ我ヲ救ヒ給ヘ廿爾ハ我が受ル
 所ノ侮ト恥ト辱ヲ知レリ我ノ敵ハ悉ク爾ノ前ニ在リ廿一侮
 ハ我ノ心ヲ裂キ我が疲極レリ我憐憫ヲ望メモ無シ慰安者
 ナ望ムモ之ヲ得ズ廿二彼等膽ヲ以テ我ニ食マシ我が渴ケル
 時醴ヲ以テ我ニ飲マシメリ廿三願ハ彼等ノ筵ハ其綱トナリ
 彼等ガ平安ノ席ハ其機檻トナラン廿四願ハ彼等ノ目ハ昏ミ
 テ見ルヲ得ザラン彼等ノ腰ヲ永ク癱セヨ廿五爾ノ怒ヲ彼等

二注ギ爾ガ怒ノ焰ニ彼等ヲ圍マシメヨ廿六願ハ彼等ノ住所
 ハ空クナリ彼等ノ幕ニ居ル者ナカラシ廿七蓋爾ガ撃チシ者
 ハ彼等之ヲ窘迫シ爾ガ傷メシ者ノ苦ハ彼等之ヲ益ス廿八彼
 等ノ不法ニ不法ヲ加ヘ彼等ヲ爾ノ義ニ入ラザラシメヨ廿九
 願ハ彼等ハ生命ノ記録ヨリ抹サレ義人ト共ニ記サレザラ
 シ卅我貧クシテ且苦メリ神ヤ願ハ爾ノ助ハ我ヲ起サン卅一
 我歌ヲ以テ我が神ノ名ヲ讚榮シ頌ヲ以テ彼ヲ讚揚セン卅二
 此レ主ノ悦ブ所トナルハ角ト蹄トアルノ牛及犢ニ逾ラン卅三
 苦ム者ハ之ヲ見テ悦バン神ヲ尋ル者ヤ爾等ノ心ハ活潑
 ナルヲ得ン卅四蓋主ハ貧キ者ニ聽キ其囚人ヲ輕ンシ給ハズ

世五願ハ天地及ビ海ト凡ソ其中ニ動ク者ハ彼ヲ讚美セン 卅六
卅七蓋神ハシオンヲ救ヒイウダノ諸邑ヲ建テシ其民ハ彼處ニ
 住フテ之ヲ嗣ガン 彼ガ諸僕ノ裔ハ彼處ニ居ヲ定メ彼ノ
 名ヲ愛スル者ハ其中ニ住ハン

第六十九聖詠

一 ダワイドノ詠伶長ニ之ヲ歌ハシム記念ノ爲ニ
 作ル所

ニ神ヤ速ニ我ヲ救ヘ主ヤ速ニ我ヲ助ケ給ヘ 三我が靈ヲ求
 ル者ハ願ハ耻ヲ得テ辱ヲ受ケン禍ヲ我ニ望ム者ハ願ハ退
 ケラレテ嘲ケラレンシ 四我ニ向テ嘻々ト云フ者ハ其我ヲ辱

シムルニ因テ願ハ退ケラレンシ 五凡ソ爾ヲ求ル者ハ願ハ爾
 ノ爲ニ喜ビ樂マン爾ノ救ヲ愛スル者ハ願ハ常ニ神ハ大ナ
 リト云ハン 六我ハ貧クシテ乏シ神ヤ速ニ我ニ格リ給ヘ爾
 ハ我ノ助ナリ我ヲ救フ者ナリ主ヤ運ハル勿レ

光榮讚詞

第十「カズマ」

第七十聖詠

一主ヤ我爾ヲ恃ム願ハ我世々羞ヲ承ケザラシ 二爾ノ義ニ
 縁テ我ヲ援ケ我ヲ脱ガシ爾ノ耳ヲ我ニ傾ケテ我ヲ救ヒ給
三ヘ 我ガ爲ニ堅固ナル避所トナリテ我ニ常ニ隠ルヲ得

セシメヨ爾命ヲ降シテ我ヲ救ヘリ蓋爾ハ我が防固ト我が
 能力ナリ我ガ神ヤ我ヲ惡者ノ手ヨリ不法者ト迫害者ノ
 手ヨリ救ヒ給ヘ五 主神ヤ蓋爾ハ我ノ望ナリ我ガ幼キヨリ
 我ノ恃ナリ六 我振マル、時ヨリ爾ニ扶ケラレ爾我ヲ母ノ
 腹ヨリ出セリ我爾ヲ讚揚ゲテ息メザラン七 多ノ者ノ爲ニ
 我奇異ナル者トナレリ然レモ爾ハ我が堅キ望ナリ八 願ハ
 我が口ハ讚美ニ滿テラレ我ニ爾ノ光榮ヲ歌ヒ日々ニ爾ノ
 威嚴ヲ歌ハシメン九 我ガ老ル時我ヲ棄ル母レ我ガ力衰ル
 時我ヲ遺ス母レ十 蓋我が敵ハ我ヲ論シ我ガ靈ヲ伺フ者ハ
 相謀テ十一 云フ神ハ彼ヲ棄テリ追テ彼ヲ拘フベシ救フ者ヲ

ケレバナリ十二 神ヤ遠ク我ニ離ル、母レ我ガ神ヤ速ニ我ヲ
 佑ケ給ヘ我ガ靈ニ仇スル者ハ十三 願ハ辱シメラレテ消エン
 我ヲ害セント謀ル者ハ願ハ辱ト侮ヲ被ラン十四 唯我常ニ爾
 ナ恃ミ倍爾ヲ讚揚ゲン十五 我ガ口ハ爾ノ義ヲ傳ヘ日々ニ爾
 ノ恩ヲ傳ヘン蓋我其數ヲ知ラズ十六 我主神ノ能力ヲ思ヒ爾
 ノ義獨爾ノ義ヲ記憶セン十七 神ヤ爾ハ我が幼キヨリ我ヲ誨
 ヘ給ヘリ我今ニ至ルマデ爾ノ奇跡ヲ傳フ十八 神ヤ歳老イ髮
 白キマデ我ヲ棄ル母レ我ガ爾ノ能力ヲ此世ニ爾ノ權能ヲ
 凡ソ將來ノ者ニ傳ルニ迨レ十九 神ヤ爾ノ義ハ極テ高シ爾大
 事ヲ行ヘリ神ヤ孰カ爾ニ比ブルヲ得ン廿 爾ハ多クシテ勵

シキ苦難ヲ我ニ遣セリ然レモ復我ヲ生カシ復我ヲ地ノ淵ヨリ引出セリ
 ヨリ引出セリ爾我ヲ舉ゲ我ヲ慰メ我ヲ地ノ淵ヨリ引出セリ
 我ガ神ヤ我琴ヲ以テ爾ト爾ノ眞實ヲ讚榮センイブ
 ライリノ聖ナル者ヤ我瑟ヲ以テ爾ヲ讚頌セシ我爾ニ歌
 フキ我ガ口ハ喜ビ爾ガ救ヒシ我ガ靈モ喜ブ我ガ舌ハ日
 々爾ノ義ヲ傳ヘン蓋我ヲ害セント謀ル者ハ恥ヲ受ケ辱ヲ被
 レリ

第七十一聖詠

ソロモンノ事ナリ(ダビドノ詠)

神ヤ爾ノ裁判ヲ王ニ賜ヒ爾ノ義ヲ王ノ子ニ賜ヘニ裁判

河ハエフラ
ト河チ云フ

ノ時彼ニ義ヲ以テ爾ノ民ト爾ノ貧キ者ヲ判カシメヨ願
 ハ山ハ民ニ平安ヲ施シ邱ハ義ヲ施サシ願ハ彼ハ民ノ貧
 キ者ヲ判キ乏キ者ノ子ヲ救ヒ暴虐者ヲ抑ヘン日月ノ在
 ル時人爾ヲ世々ニ畏レン彼ハ降ル草ヲ芟タル地ニ降
 ル雨ノ如ク土ヲ潤ス雨滴ノ如クナラン彼ノ日ニハ義人
 榮エ多ノ平安アリテ月ノ畢ルニ至ラン彼ハ宰制ル海
 ヨリ海ニ至リ河ヨリ地ノ極ニ至ラン曠野ニ居ル者ハ彼
 ノ前ニ俯伏シ彼ノ敵ハ塵ヲ話メントス予ルシスト島國
 ノ諸王ハ貢ヲ彼ニ獻ゲアラビヤトサワノ諸王ハ禮物ヲ奉
 ラン列王彼ニ伏拜シ萬民彼ニ奉事セン蓋彼ハ貧キ者

ト呼ブ者ト苦メラレテ助ナキ者ヲ援ケン 彼ハ貧キ者ト
 乏キ者ヲ憐ミ乏シキ者ノ靈ヲ救ハシ 其靈ヲ詭詐ト暴虐
 ヨリ援ケン其血ハ彼ノ目ノ前ニ寶トナラシ 彼ハ生活セ
 シ人アラビヤノ金ヲ以テ彼ニ饋リ恒ニ彼ノ爲ニ祈禱シ日
 々ニ彼ヲ崇讚メン 地ニハ穀物豊ナラン山ノ巔ニハ其穂
 ノ搖クコリウシノ林ノ如ク城邑ニハ人ノ殖ユルコト地ノ草
 ノ如クナラン 彼ノ名ハ崇讚メラレテ世々ニ至ラン日
 在ル間ハ彼ノ名傳ラン地上ノ萬族ハ彼ニ縁テ福ヲ獲萬民
 ハ彼ヲ稱讚セン 主神イブライリノ神獨奇跡ヲ行フ者ハ
 崇讚メラル 彼ノ光榮ノ名モ世々ニ崇讚メラル 全地ハ彼

ノ光榮ニ滿テラレシニ「アミン」ニ「アミン」

光榮讚詞

イエセイノ子ダウイドノ祈禱畢レリ

第七十二聖詠

アサフノ詠

一 神ハ何ゾイブライリ人心淨キ者ニ仁慈ナルヤ 唯我ハ
 我が足幾ンド蹶キ我が足ノ歩殆ンド失ヘリ 我惡者ノ安
 樂ヲ見テ無智ノ者ヲ嫉メリ 盖彼等ハ死ニ至ルマデ苦ナ
 ク其力モ健ナリ 彼等ハ人ノ苦勞ニ與ラズ人ト偕ニ撃タ
 レズ 故ニ驕謾ハ彼等ヲ環ルコト首飾ノ如ク強暴ハ彼等ヲ

纏フ衣ノ如シ 其目ハ其肥タルニ因テ出テ其思ハ心ノ
 中ニ徘徊フ 嘲リテ息メズ惡ヲ懷テ讒言ヲ敷キ高ブリテ
 言フ 其口ヲ天ニ騰ゲ其舌ハ地ニ往來ス 故ニ主ノ民モ
 彼處ニ向ヒ滿タル器ヨリ水ヲ飲ミテ 云フ神ハ如何シテ
 知ランヤ至上者ニ知ルヲアルヤ 視ヨ此ノ惡者ハ斯世ニ
 安樂シテ其財ヲ増ス 我謂ヘリ我豈ニ徒ニ我ガ心ヲ淨メ
 我が手ヲ罪ナキニ盥ヒ 毎日傷ヲ受ケ毎朝責ヲ被リシニ
 非ズヤ 然レモ我若此ノ如ク計ラント云ヘバ我爾ノ子ノ
 族ノ前ニ罪ヲ得ン 我思ヘリ如何シテ之ヲ悟ランヤ唯是
 我が目ノ前ニ難シトシ 我ガ神ノ聖所ニ入リテ彼等ノ終

ナ悟ルニ及ベリ 然リ爾彼等ヲ滑ナル途ニ立テ、彼等ヲ
 淵ニ陷ル 彼等ハ何ゾ遠ニ壞レ消エ懼ニ依テ滅ビシヤ
 主ヤ夢ノ覺ルガ如ク爾彼等ヲ覺マシテ彼等ノ想像ヲ消サ
 シ 我ガ心沸キ我ガ中情ノ裂ルモ 我無智ニシテ悟ルナ
 シ畜類ノ爾ノ前ニ在ルガ如シ 然レモ我ハ常ニ爾ト偕ニ
 シ爾ハ我ガ右ノ手ヲ執ル 爾ハ爾ノ謀ニテ我ヲ導キ後我
 ナ光榮ニ納レン 天ニ在テハ誰カ我ガ爲ニス地ニ在テ爾
 ト偕ニセバ別ニ願フ所ナシ 我ガ躰ト我ガ心ハ弱レリ神
 ハ我ガ心ノ固ナリ世々我ガ分ナリ 盖夫ノ爾ニ遠カル者
 ハ亡ビ凡ソ爾ニ離ル者ハ爾之ヲ滅ス 唯我神ニ近ヅク

ナ以テ善トス我我ガ恃テ主神ニ負ハセ凡ソ爾ノ行フ所ヲ
シオンノ女ノ門ノ内ニ傳フルヲ致サン

第七十三聖詠

一 神ヤ何爲レゾ永ク我等ヲ棄テ爾ノ怒ハ爾ガ草苑ノ羊ニ
燃エシヤ 爾ガ古ヨリ獲タル爾ノ會贖フテ爾ガ嗣業ノ柄
トナセシ者即爾ガ居ル處ノ此ノシオン山ヲ記憶セヨ 爾
ノ足ヲ歷代ノ廢址ニ動かセヨ 敵ハ聖所ニ於テ悉ク毀テリ
四 爾ノ敵ハ爾ノ會中ニ吼エ我ガ幟ノ代ニ己ノ記號ヲ樹テ
五 己ヲ顯ハス 高ク斧ヲ舉ゲテ交リタル樹ノ枝ヲ伐ラ
六 今彼等ハ斧ヲ以テ鉞ヲ以テ一時
七 爾ノ聖所ヲ火ニ付シ全ク爾ノ名
八 其心ニ謂ヘリ全ク彼等ヲ壞ラント遂ニ
九 我等ハ我ガ幟ヲ見
十 神ヤ敵ノ謗ルハ何ノ時ニ至ラ
十一 爾胡爲レゾ
十二 神我ガ古世ヨリノ王救テ地ノ中ニ作ス者ヤ 爾ハ已
十三 爾ハ已
十四 爾ハ
十五 爾ハ泉

ニ其悉ク彫刻ヲ毀テリ 爾ノ聖所ヲ火ニ付シ全ク爾ノ名
ノ住所ヲ汚セリ 其心ニ謂ヘリ全ク彼等ヲ壞ラント遂ニ
地上ニアル神ノ會ノ處ヲ盡ク焚ケリ 我等ハ我ガ幟ヲ見
ズ預言者己ニナシ我等ノ中誰モ此ノ如キ 何ノ時ニ至
ラントスルヲ知ル者ナシ 神ヤ敵ノ謗ルハ何ノ時ニ至ラ
ントスルヤ豈ニ仇ハ永ク爾ノ名ヲ侮ランヤ 爾胡爲レゾ
爾ノ手爾ガ右ノ手ヲ避クルヤ爾ガ懷ノ中ヨリ彼等ヲ擊テ
ヨ 神我ガ古世ヨリノ王救テ地ノ中ニ作ス者ヤ 爾ハ已
ノ力ヲ以テ海ヲ裂キ爾ハ蛇ノ首ヲ水ノ中ニ碎ケリ 爾ハ
鱈ノ首ヲ碎キ之ヲ曠野ノ人ニ予ヘテ食トナヒリ 爾ハ泉

下流ヲ截出シ爾ハ大河ヲ涸セリ 十六
 屬ス爾ハ諸ノ光ト日ヲ備ヘリ 十七
 爾ハ地ノ悉ノ界ヲ立テ爾
 ハ夏ト冬ヲ設ケリ 十八
 記憶セヨ敵ハ主ヲ謗リ無智ノ民ハ爾
 ノ名ヲ侮ル 十九
 爾ガ班鳩ノ靈ヲ野獸ニ投ズル母レ永ク爾ガ
 貧キ者ノ會ヲ忘ル、母レ爾ノ約ヲ顧ミヨ蓋凡ソ地ノ暗
 キ處ハ強暴ノ住所ニ充テラレタリ 廿一
 迫害セラレシ者ニ羞
 ヲ承テ歸ラシムル母レ願ハ貧者ト乏者ハ爾ノ名ヲ讚揚ゲ
 シ 廿二
 神ヤ起キテ爾ノ事ヲ衛レヨ無智ノ者ガ日々ニ爾ヲ謗
 ルヲ記憶セヨ 廿三
 爾ガ敵ノ聲ヲ忘ル、母レ爾ニ逆フ者ノ譁
 擾ハ起テ息マズ

光榮讚詞

第七十四聖詠

アサフノ詠ナリ歌ナリ伶長ニ之ヲ歌ハシム
 滅ス母レノ調ニ循フ
 神ヤ我等爾ヲ讚榮シ讚榮ス蓋爾ノ名ハ近シ爾ノ奇迹ハ
 之ヲ示ス 三
 ○我時ヲ擇ビ義ヲ以テ審判ヲ行ハン 四
 地ト此
 ニ居ル者皆搖撼ク我其柱ヲ堅固ニセン 五
 ○我無智ノ者ニ
 謂フ無智ヲ行フ母レ惡者ニ謂フ角ヲ舉ル母レ 六
 高ク爾ノ
 角ヲ舉ル母レ頑ニ神ノ事ヲ謂フ母レ 七
 蓋高ウスルハ東ニ
 ヨルニ非ズ西ニヨルニ非ズ曠野ニヨルニ非ズ 八
 乃神ハ審

判者ニシテ彼ヲ卑ウシ此ヲ升ス 蓋爵ハ主ノ手ニ在リ混
 リアルノ酒ハ其内ニ沸キ彼ハ之ヨリ斟ム地ノ悉ノ惡者ハ
 其滓ヲモ榨リテ之ヲ飲マン 唯我永ク傳ヘテイヤコフノ
 神ヲ歌頌メン 惡者ノ角ハ我悉ク之ヲ折ラン義者ノ角ハ
 舉ゲラレン

第七十五聖詠

一 アサフノ詠ナリ歌ナリ伶長ニ琴ヲ彈テ之ヲ
 歌ハシム

ニ 神ハイウデヤニ知ラレ其名ハイズライリニ大ナリニ其
 住所ハサリムニ在リ其居所ハシオンニ在リ 四 彼ハ彼處ニ

於テ弓ノ矢ト盾ト劔ト戰ヲ壞レリ 爾ハ光榮ナリ爾ノ能
 カハ掠者ノ山ニ勝ル 六 心ノ剛キ者ハ獲物トナリ其寢ヲ以
 テ寢タリ力ノ壯ナル人ハ皆其手ヲ尋テ得ズ 七 イヤコ
 フノ神ヤ爾ノ恐嚇ニ因テ車モ馬モ眠ニ就ケリ 爾ハ畏ル
 ベシ爾ガ怒ノ時孰カ爾ガ顔ノ前ニ立ンヤ 九 爾ハ天ヨリ審
 判ヲ知ラセリ 十 神ガ審判ノ爲ニ起キテ凡ソ地ニ窘迫ラル
 、者ヲ救ハントスル時地ハ懼レテ鎮レリ 十一 人ノ怒モ爾ノ
 光榮ニ歸セン怒ノ餘ハ爾之ヲ止メントス 十二 主爾等ノ神ニ
 誓ヲナシテ償ヘヨ凡ソ彼ヲ繞ル人ハ畏ベキ者ニ禮物ヲ獻
 グベシ 十三 彼ハ牧伯ノ氣ヲ抑フ彼ハ地ノ諸王ノ爲ニ畏ベシ

第七十六聖詠

アサフノ詠イダフムノ伶長ニ之ヲ歌ハシム
 一 我ガ聲神ニ向フ我彼ニ呼バン我ガ聲神ニ向フ彼我ニ聆
 ニ カシ 我憂ノ日主ヲ尋ヌ我ガ手ハ夜中伸ビテ下ラズ我ガ
 三 靈ハ慰ヲ推辞ム 我神ヲ記憶シテ戰キ我之ヲ想フテ我ガ
 四 靈弱ル 爾我ニ目ヲ閉ヅルヲ許サズ我顫動キテ言フ能ハ
 五 六 我古ノ日過去リシ世ノ年ヲ思ヒ 我ガ夜間ノ歌ヲ記
 憶シ我ガ心ト謀ル我ガ靈ハ尋ヌ 豈ニ主ハ永ク棄テ、復
 思ヲ加ヘザルヤ 九 豈ニ其憐ハ永ク息ミテ其言世々ニ絶エ
 シヤ 十 豈ニ神ハ憐ムヲ忘レシヤ 豈ニ怒ヲ以テ其仁慈ヲ塞

ギシヤ 十二 我謂ヘリ是レ我ノ憂ナリ至上者ノ右ノ手ノ變易
 ナリ 十二 我主ノ所爲ヲ記憶シ爾ガ古ノ奇迹ヲ記憶セン 十三 我
 爾ガ悉ノ所爲ヲ思ヒ爾ノ大ナル行ヲ考ヘン 十四 神ヤ爾ノ途
 ハ聖ナリ何ノ神カ我ガ神ノ如ク大ナラン 十五 爾ハ奇迹ヲ行
 フノ神ナリ爾ハ己ノ能力ヲ諸民ノ中ニ顯セリ 十六 爾ハ臂ヲ
 以テ爾ノ民イヤコフトイオシフノ子ヲ援ケ給ヘリ 十七 神ヤ
 水ハ爾ヲ見水ハ爾ヲ見テ懼レ淵ハ戰ケリ 十八 雲ハ水ヲ注ギ
 雨雲ハ雷ヲ出シ爾ノ矢ハ飛ベリ 十九 爾ノ雷ノ聲ハ穹蒼ニア
 リ電ハ世界ニ閃キ地ハ動テ震ヘリ 二十 爾ノ途ハ海ニアリ爾
 ノ徑ハ大水ニアリ爾ノ蹟ハ測リ厄シ 廿一 爾ハモイセイトア

、ロ^ンノ手^ヲ以^テ爾^ノ民^ヲ羊^ノ群^ノ如^ク導^キ給^{ヘリ}

光榮讚詞

第十一「カイズマ」

第七十七聖詠

アサフノ教訓

一 我^ガ民^ヤ我^ガ法^ヲ聽^キ爾^ノ耳^ヲ我^ガ口^ノ言^ニ傾^ケヨ
二 我^ノ口^ヲ啓^キテ譬^ヲ言^ヒ古^{ヨリ}ノ隱^語ヲ述^ベシ 我^等曾^テ
聞^ク所^知ル所^我ガ列^祖ガ我^等ニ傳^ヘシ所^ヲ 其^子孫^ニ隱^シ
サズシテ主^ノ光^榮ト其^權能^ト其^行ヒシ所^ノ奇^迹ヲ後^世ニ
宣^ベシ 彼^ハ誠^命ヲイ^ヤコフニ立^テ法^律ヲイ^ズライリニ

置^キ我^ガ列^祖ニ命^ジテ之^ヲ其^子孫^ニ傳^ヘシメ 將^來ノ世^ニ
即^生レントスル子^孫ニ此^ヲ識^リ其^時ニ及^テ之^ヲ其^子孫^ニ
ニ傳^ヘシメテ 彼^等ガ已^ノ望^ヲ神^ニ負^ハセ神^ノ所^爲ヲ忘^ル
レズ彼^ノ誠^ヲ守^リテ 其^列祖^即頑^固叛^逆ノ世^ノ其^心修^ラ
ズ其^靈神^ニ忠^ナラザル者^ニ效^ハザルヲ致^ス エ^フレムノ
子^武具^ヲ備^ヘ弓^ヲ挽^ク者^ハ戰^ノ日^ニ退^ケリ 彼^等ハ神^ノ
約^ヲ守^ラズ彼^ノ法^ヲ行^フヲ推^辞ミ 彼^ガ所^爲ト彼^ガ顯^ハ
セシ奇^迹ヲ忘^レタリ 彼^ハ奇^迹ヲ彼^等ガ列^祖ノ目^ノ前^ニ
エ^ギベトノ地^ニツ^アンノ野^ニ行^{ヘリ} 海^ヲ分^テ彼^等ニ
此^ヲ通^ラシメ水^ヲ壁^ノ如^ク立^テリ 晝^ハ雲^ヲ以^テ彼^等ヲ

導^ミキ終^ヒ夜^ノ火^ノ光^ヲ以^テ彼^等ヲ導^ケリ石^ヲ野^ニ裂^キ彼^等
 ニ飲^マシムル^ヲ大^{ナル}淵^ヨリスル^ガ如^シ磐^ヨリ流^チ出^ス
 シ水^ハ河^ノ如^ク流^レタリ然^レモ彼^等ハ仍^モ彼^ノ前^ニ罪^ヲ
 行^ヒ至^シ上^者ヲ野^ニ愠^ラセリ心^ノ中^ニ神^ヲ試^ミ己^ノ意^ニ
 適^スル^ノ食^ヲ求^メ神^ヲ侮^テ曰^ヘリ神^豈ニ筵^ヲ野^ニ設^ク
 ル^ヲ得^ンヤ祝^ヨ彼^石ヲ擊^ツバ水^出テ川^流レリ彼^猶能^ク
 餅^ヲ與^フル^ヤ能^ク己^ノ民^ニ肉^ヲ備^フル^ヤ主^ハ之^ヲ聞^テ
 怒^ヲ發^シ火^ハイ^ヤコ^フニ燃^エ怒^ハイ^ズライ^リニ動^ケリ
 其^神ヲ信^ゼズ彼^ノ救^ヲ恃^マザル^ニ緣^ル彼^ハ上^ヨリ雲^ニ
 命^シ天^ノ門^ヲ開^キ「マ^シナ」^ヲ雨^ヲシ^テ彼^等ノ食^トナ^シ天^ノ

ノ糧^ヲ彼^等ニ予^ヘリ人^ハ神^使フ糧^ヲ食^ヘリ彼^ハ食^ヲ遣^ハ
 ハシ^テ彼^等ニ飽^カシメリ彼^ハ東^風ヲ天^ニ起^シ己^ノ能^力
 ナ^ヲ以^テ南^風ヲ引^キ至^ラシメ彼^等ニ肉^ヲ雨^ヲス^テ塵^ノ如^ク
 シ飛^鳥ヲ雨^ヲス^テ海^ノ砂^ノ如^シ之^ヲ彼^等ノ營^中ニ彼^等
 ノ住^所ノ四^周ニ墜^セリ彼^等ハ食^ヲ饜^足レ^リ神^ハ彼^等
 ガ願^フ所^ヲ以^テ彼^等ニ予^ヘリ唯^彼等^ノ慾^ハ未^ダ去^ラズ
 食^尙彼^等ノ口^ニアル^ル神^ノ怒^彼等^ニ臨^ミ彼^等ノ肥^{タル}
 者^ヲ戮^シイ^ズライ^リノ少^キ者^ヲ仆^セリ然^レモ彼^等仍^モ罪^ヲ
 ナ犯^シ其^奇迹^ヲ信^ゼズ故^ニ神^ハ彼^等ノ日^ヲ空^虚キ^ニ彼^等
 等^ノ歲^ヲ惶^擾ニ終^ヘシメ^リ神^ガ彼^等ヲ戮^スモ彼^等神^ヲ

尋^三子^テ彼^ニ向^ヒ早^朝ヨリ彼^ニ趨^附キ^五神^ハ彼^等ノ避^所至^シ
 上^ノ神^ハ彼^等ヲ援^クル者^{ナル}ヲ記^憶シ^六其^口ヲ以^テ彼^ニ
 誦^ヒ其^舌ヲ以^テ彼^ノ前^ニ譎^ハレリ^七唯^其心^彼ノ前^ニ正^カ
 ラズ彼^等ハ彼^ノ約^ニ誠^ナラズ^八然^レモ彼^慈憐^{ナル}者^ハ罪^ヲ
 ナ^救シテ彼^等ヲ滅^サズ屢^其怒^ヲ轉^シテ其^悉ノ憤^ヲ起^サズ^九
 彼^ハ彼^等ガ肉^身ニシテ去^テ返^ラザルノ氣^{ナル}ヲ忘^レズ^十
 彼^等ハ幾^度カ彼^ヲ曠^野ニ愠^ラセ彼^ヲ荒地^ニ愠^ラセリ^{四一}
 復^新ニ神^ヲ試^イズ^ライリ^ノ聖^{ナル}者^ヲ干^犯セリ^{四二}彼^等ハ
 其^手其^彼等^ヲ苦^難ヨリ救^ヒシ日^ヲ憶^ハズ^{四三}即^神ガ其^休徵^ヲ
 ナ^エギ^ベト^ニ其^奇迹^ヲツ^アシ^ノ野^ニ行^ヒシ日^ナリ^{四四}彼^等

ノ河^ト流^ヲ變^ジテ血^トナシ彼^等ニ飲^ム能^ハザ^ラシメ^{四五}蟲^ヲ
 ナ^遣ハシテ彼^等ヲ螫^サシメ蛙^ヲ遣^ハシテ彼^等ヲ害^セシメ^{四六}
 彼^等ガ地^ノ産^スル所^ヲ螟^蛉ニ與^ヘ彼^等ノ苦^勞ヲ蝗^ニ與^ヘ
 へ^{四七}霰^ヲ以^テ彼^等ノ葡^萄ヲ壞^リ雹^ヲ以^テ彼^等ノ無^花果^ヲ
 壞^リ彼^等ノ家^畜ヲ霰^ニ付^シ彼^等ノ牧^群ヲ電^ニ付^セリ^{四八}
 彼^等ニ其^怒ノ焰^其憤^ト恨^ト禍^惡使^者ノ使^ヲ遣^セリ^{四九}其^怒
 ノ爲^ニ途^ヲ平^ニシ^{五〇}彼^等ノ靈^ヲ死^ヨリ護^ラズ彼^等ノ家^畜ヲ
 疫^病ニ付^シ凡^ソエ^ギベ^トノ首^生ノ者^ハム^ノ幕^ノ力^ノ始^メ
 ナ^ル者^ヲ擊^テリ^{五一}是^ニ於^テ其^民ヲ羊^ノ如^ク引^キ之^ヲ牧^群
 ノ如^ク野^ニテ引^ケリ^{五二}安^然彼^等ヲ引^テ彼^等懼^ルナシ^{五三}彼^等

ノ敵ハ海之ヲ覆ヘリ 彼等ヲ引テ其聖ナル界即其右ノ手
 ノ獲シ所ノ此山ニ至レリ 諸民ヲ彼等ノ面ヨリ逐キ其地
 ナ分テ彼等ノ業トナシイズライリノ支派ヲ其幕ニ置ケリ
 然レモ 彼等ハ猶至上ノ神ヲ試ミテ憂ヘシメ其律ヲ守ラ
 ズ 彼等ガ先祖ノ如ク離レ叛キ正カラザル弓ノ如ク翻ヘ
 レリ 崇邱ヲ以テ彼ヲ憂ヘシメ偶像ヲ以テ彼ノ憾ヲ起セ
 リ 神聞テ怒ヲ發シ大ニイズライリヲ憤レリ 其所即彼ガ人間ニ駐ル所ノ幕ヲ棄テ 其力ヲ俘ニセシメ
 其光榮ヲ敵ノ手ニ與ヘ 其民ヲ劔ニ付シ怒ヲ其業ニ發セ
 リ 彼等ノ少者ハ火之ヲ嚙ミ 彼等ノ處女ハ人其爲ニ婚姻

ノ歌ヲ歌ハズ 彼等ノ司祭ハ劔ニ仆レ 彼等ノ寡婦ハ泣カ
 ズ 然レモ 主ハ寢ル者ノ覺ルガ如ク英雄ノ酒ニ勵マサル
 、ガ如ク 彼等ノ敵ヲ後ヨリ撃テ永ク之ヲ辱メリ 又
 イオシフノ幕ヲ棄テエフレムノ支派ヲ選バズ 乃イウダ
 ノ支派其愛スル所ノシオン山ヲ擇ベリ 其聖所ヲ建テシ
 天ノ如ク永ク此ヲ固メシテ地ノ如シ 其僕ダダトヲ選
 ビテ之ヲ羊牢ヨリ取り 母羊ヨリ牽來リテ其民イヤコフ
 其業イズライリヲ牧セシメリ 彼ハ淨キ心ヲ以テ彼等ヲ
 牧シ智慧ナル手ヲ以テ彼等ヲ導ケリ

光榮讚詞

第七十八聖詠

アサフノ詠

一 神ヤ異邦人爾ノ業ニ入り爾ノ聖堂ヲ汚シイエルサリム
 二 廢址トナシ 爾ガ僕ノ尸ヲ天ノ鳥ニ昇ヘテ食トナシ爾
 三 ガ聖者ノ肉ヲ地ノ獸ニ昇ヘ 彼等ノ血ヲ水ノ如クイエル
 四 サリムノ四周ニ流セリ人ノ彼等ヲ葬ルナシ 我等ハ我ガ
 五 鄰ノ笑フ所トナリ我等ヲ環ル者ノ侮ル所辱ル所トナレリ
 六 主ヤ爾常ニ怒リ爾ガ憾ノ火ノ如ク燃ルハ何ノ時ニ至ル
 七 爾ノ怒ヲ爾ヲ識ラザルノ諸民爾ノ名ヲ呼バザルノ諸
 八 國ニ注ギ給ヘ 蓋彼等ハエヤコフヲ喰ヒ其住所ヲ荒セリ

一 我等ノ爲ニ我ガ先祖ノ罪ヲ憶フ母レ願ハ爾ノ慈憐ハ速
 二 我等ヲ迎ヘン我等甚衰ヘダレバナリ 神我等ヲ救フ者
 三 ヤ爾ノ名ノ光榮ニ因テ我等ヲ助ケ給ヘ爾ノ名ニ因テ我等
 四 ナ救ヒ我等ノ罪ヲ赦シ給ヘ 何爲ゾ異邦人が彼等ノ神ハ
 五 安ニ在ルト云フヲ須タンヤ願ハ爾ノ僕ノ流サレシ血ニ報
 六 ムルハ異邦人我が目ノ前ニ於テ之ヲ識ラン 願ハ囚人ノ
 七 嘆ハ爾ガ顔ノ前ニ至ラン爾ガ臂ノ力ニテ死ニ定メラレシ
 八 者ヲ護リ給ヘ 主ヤ我が鄰ガ爾ヲ謗ルノ謗ヲ以テ七倍シ
 九 テ之ヲ其懷ニ返ヘセヨ 唯我等爾ノ民爾ガ草苑ノ羊ハ永
 十 ク爾ヲ讚榮シ世々ニ爾ノ讚美ヲ宣ヘン

第七十九聖詠

アサフノ詠伶長ニソサンニム、エドゥブノ樂器
 ナ以テ之ヲ歌ハシム
 ニ
 イブライリノ牧者ヤ耳ヲ傾ヨイオシフヲ羊ノ如ク導ク
 者ヤヘルワムニ坐スル者ヤ已ヲ顯セヨ 三
 エフレムトワニ
 アミントマナシヤノ前ニ爾ノ力ヲ奮ヒ來リテ我等ヲ救ヒ
 給ヘ 四 神ヤ我等ヲ起セヨ願ハ爾ノ顔ハ光リ我等ハ救ハレ
 ン 五 主萬軍ノ神ヤ爾ノ民ノ禱ヲ怒レハ何ノ時ニ至ルヤ 六
 爾彼等ニ涙ノ餅ヲ食ハシメ彼等ニ涙ヲ飲マシメシ 七 孔
 多シ 七 爾我等ヲ鄰ヲ争ソ端トナシ我が敵ハ我等ヲ嘲ル 八

萬軍ノ神ヤ我等ヲ起セヨ願ハ爾ノ顔ハ光リ我等ハ救ハレ
 ン 九 爾ハエギベトヨリ葡萄ノ樹ヲ移シ諸民ヲ逐出シテ之
 ナ植付ケリ 十 爾ハ之ガ爲ニ土ヲ闢キ其根ヲ固ム彼ハ地ニ
 蔓レリ 十一 山ハ其蔭ニ蔽ハレ其枝ハ神ノ栢香木ノ如シ 十二 彼
 ハ其枝ヲ海マデ展シ其芽ヲ河マデ展セリ 十三 爾ハ何爲レゾ
 其藩ヲ毀テ凡ソ路ヲ過ル者ニ之ヲ摘マシムルヤ 十四 林ノ豕
 ハ之ヲ掘リ野ノ獸ハ之ヲ食ム 十五 萬軍ノ神ヤ面ヲ返シ天ヨ
 リ臨ミ觀テ斯ノ葡萄園ニ降り 十六 爾ガ右ノ手ノ植付ケシ所
 ノ者ト爾ガ己ノ爲ニ定メシ所ノ芽ヲ護リ給ヘ 十七 彼ハ己ニ
 火ニ焚カレ已ニ伐ラレタリ爾ガ顔ノ恐嚇ニ因テ亡ビン 十八

願ハ爾ノ手ハ爾ガ右ノ手ノ人ノ上爾ガ己ノ爲ニ定メシ所
 ノ人ノ子ノ上ニ在ラン 我等モ爾ヨリ離レザラン我等ヲ
 生カシ給ヘ然セバ我等爾ノ名ヲ呼バン 主萬軍ノ神ヤ我
 等ヲ起セヨ願ハ爾ノ顔ハ光リ我等ハ救ハレン

第八十聖詠

アサフノ詠伶長ニゲフノ樂器ヲ以テ之ヲ歌
 ハシム

歡デ神我等ノ防固ニ歌ヒイヤコフノ神ニ呼ベヨ 歌ヲ
 執リ鼓ト佳琴ト瑟ヲ與ヘヨ 角ヲ新月即定マレル時我ガ
 祭ノ日ニ吹ケヨ 盖是イズライリノ法ナリイヤコフノ神

ノ律ナリ 是其イオシフガエギベトノ地ヨリ出ルキ彼
 爲ニ證據トシテ立テシ所ナリ彼ハ彼處ニ在テ未ダ知ラザ
 ル舌ノ聲ヲ聽ケリ 云ク我其肩ヨリ重荷ヲ卸シ其手ヲ筐
 筥ヨリ免レシメリ 患難ノ時爾我ヲ呼ビシニ我爾ヲ救ヘ
 リ我雷ノ中ヨリ爾ニ聆キメリ 水ノ傍ニ爾ヲ試ミタリ
 我が民ヤ聽ケヨ我爾ニ證セン 嗚呼イズライリヤ願ハ爾
 我ニ聽カン 爾ニ他神アルベカラズ 爾異邦ノ神ヲ拜ム 母
 レ 我ハ主爾ノ神爾ヲエギベトノ地ヨリ引出セシ者ナリ
 爾ノ口ヲ閉ケヨ我之ヲ滿テン 然レモ我が民ハ我が聲ヲ
 聽カズイズライリハ我ニ從ハズ 故ニ我彼等ヲ其心ノ剛

復ニ任セ其謀ニ循フテ行クヲ免ルセリ十四 嗚乎若我が民我
十五 則我速ニ彼等ノ敵ヲ
十六 主ヲ疾ム者ハ彼等
十七 我嘉麥ヲ以テ彼等ヲ
十八 育ヒ蜜ヲ磐ヨリ出シテ彼等ヲ飽ガシメン

光榮讚詞

第八十一聖詠

アサフノ詠

一 神ハ諸神ノ會ニ立チ諸神ノ中ニ裁判ヲ行ヘリ
二 爾等義
三 以テ裁判セズ惡者ノ意ヲ邀フルコト何レ時ニ至ルヤ
四 貧

五 彼等ハ知ラズ悟ラズ闇冥ヲ行ク地ノ基皆震フ
六 我
七 然レモ爾等死
八 神ヤ起キテ
九 地ヲ裁判セヨ爾萬民ヲ繼ガントスレバナリ

第八十二聖詠

アサフノ詠ナリ歌ナリ

一 神ヤ默ス母レ口ヲ閉ヅル母レ神ヤ靜ナル母レ
二 蓋シ爾
三 敵ハ騒ギ爾ヲ疾ム者ハ首ヲ昂グ
四 彼等ハ爾ノ民ニ向フ

テ奸ナル謀ヲ設ケ爾ニ護ラル、者ニ向フテ謀ル 五 彼等言
 ヘリ往テ之ヲ諸民ノ中ニ滅シイズライリノ名復記憶セラ
 レザルヲ致サン 六 彼等心ヲ一ニシテ相謀リ爾ニ向フテ約
 ナ結ベリ 七 即エドムノ住所トイブマイル人モアフトアガ
 リ人ニゲワルトアモントアマリクイリスライヤ人トテ
 民是ナリ 九 アツスルモ彼等ニ會セリ彼等ロトノ子孫ノ臂
 トナレリ 十 求ム彼等ニ行フ昔マアムトシサラトイア
 ワインニキツソシノ流ノ傍ニ行フガ如クモヨ 十一 此輩アエン
 ドルニ滅サレテ地ノ糞土トナレリ 十二 彼等ノ牧伯ヲ待ツ
 昔オリフトジフヲ待ツガ如クモヨ 彼等ノ悉ク將帥ヲ待ツ

昔ゼゾイトサルマシナ待ツガ如クモヨ 十三 此輩曾テ云ヘ
 リ我等神ノ住所ヲ奪フテ領セント 十四 我ガ神ヤ願ハ彼等ハ
 塵ノ施風ニ於ケルガ如ク藁ノ風前ニ於ケルガ如クナラン
 十五 火ノ林ヲ焚クガ如ク燄ノ山ヲ焦スガ如ク 十六 爾ノ暴風ヲ
 以テ之ヲ逐ヒ爾ノ旋風ヲ以テ之ヲ亂シ給ヘ 十七 主ヤ羞テ彼
 等ノ面ニ盈テ、彼等ガ爾ノ名ヲ求ルヲ致セ 十八 願ハ彼等永
 ク羞テ承ケテ乱サレン辱メラレテ滅ビン 十九 願ハ爾獨主ト
 稱セラル、者ハ全地ノ至上者ナルヲ知ラン

第八十三聖詠

此詠伶長ニゲフノ樂器ヲ以テ之ヲ歌ハシム

コレイノ嗣ノ用タリ

一 萬軍ノ主ヤ爾ノ住所ハ何ゾ其レ愛スベキヤ 三 我ガ靈ハ
 厚ク慕フテ主ノ庭ヲ望ミ我ガ心ト我ガ身ハ生活ノ神ニ馳
 ス 四 萬軍ノ主吾ガ王吾ガ神ヤ雀モ己ノ宿ヲ獲燕モ己ノ巢
 ナ獲テ雛ヲ爾ガ祭壇ノ傍ニ置ク 五 爾ノ家ニ住ム者ハ福ナ
 リ彼等ハ常ニ爾ヲ讚揚ゲントス 六 カナ爾ニ恃ミ心ノ路ヲ
 爾ニ向ル人ハ福ナリ 七 彼等ハ涙ノ谷ヲ通リテ其中ニ泉ヲ
 得雨ハ降福ニテ之ヲ覆フ 八 カヨリ力ニ進ミシオンニ於テ
 神ハ前ニ顯ル 九 主萬軍ノ神ヤ我ガ禱ヲ聽ケヨイヤコフノ
 神ヤ聽納レ給ヘ 十 神我ヲ衛ル主ヤ俯テ爾ガ膏傅ケラレシ

者ノ面ヲ視ヨ 十一 蓋一日爾ノ庭ニ在ルハ千日ニ勝レリ我惡
 者ノ慕ニ住マンヨリハ寧神ノ家ノ闕ノ側ニ居ラシ 十二 蓋主
 神ハ日ナリ盾ナリ主ハ恩寵ト光榮ヲ賜ヒ行ノ玷ナキ者ヨ
 リ幸福ヲ奪ハズ 十三 萬軍ノ主ヤ爾ヲ恃ム人ハ福ナリ

第八十四聖詠

此詠伶長ニ之ヲ歌ハシムコレイノ嗣ノ用タリ

一 主ヤ爾ハ已ニ憐ヲ爾ノ地ニ施シイヤコフノ俘ヲ歸セリ
 三 爾ノ民ノ不法ヲ赦シ其總ノ罪ヲ掩セ 四 爾ガ悉ノ忿ヲ罷
 メ爾ガ怒ノ烈ヲ除キ給ヘリ 五 我ガ救ノ神ヤ我等ヲ起シ爾

ガ我等ニ於ルノ憤ヲ釋キ給ヘ六 豈永ク我等ヲ忍リ爾ノ怒
 ナ世々ニ伸ベントスルヤ七 豈ニ新ニ我等ヲ活シテ爾ノ民
 ニ爾ノ事ヲ悅バサントスルヤ八 主ヤ爾ノ憐ヲ我等ニ
 顯シ爾ノ救ヲ我等ニ施シ給ヘ九 我ハ主神ノ言ハントスル
 所ヲ聽カン彼ハ平安ヲ其民ト其選ビシ者ニ謂ハントス唯
 願ハ彼等ハ再無智ニ陷ラザラン 此ノ如ク彼ノ救ハ彼ヲ
 畏ル、者ニ邇シ光榮ノ我が地ニ居ルヲ致ス 十一 慈憐ト眞實
 ト相交リ義ト和平ト相接吻セン 十二 眞實ハ地ヨリ出テ義ハ
 天ヨリ臨マン 十三 主ハ幸福ヲ與ヘ我が地ハ其果ヲ與ヘン 十四
 義ハ彼ノ前ニ行キ其足ヲ路ニ立テントス

光榮讚詞

第十二「カフイズマ」

第八十五聖詠

ダダドノ祈禱

一 主ヤ爾ノ耳ヲ傾ケテ我ニ聽ケヨ我乏クシテ貧ケレバナ
 リニ 我ガ靈ヲ護レヨ我爾ノ前ニ慎メバナリ吾ガ神ヤ爾ヲ
 恃メル爾ノ僕ヲ救ヒ給ヘ 三 主ヤ我ヲ憐メヨ我日々ニ爾ニ
 呼ベバナリ 四 爾ノ僕ノ靈ヲ樂マシメヨ主ヤ我が靈ヲ爾ニ
 舉グレバナリ 五 蓋主ヤ爾ハ仁慈ト慈憐ニシテ凡ソ爾ヲ呼
 ブ者ニ洪恩ナリ 六 主ヤ我が禱ヲ聽キ我が願ノ聲ヲ聆納レ

給へ 我ガ憂ノ日爾ニ呼ブ蓋爾ハ我ニ聽カントス 主ヤ
 諸ノ神ノ中爾ニ如ク者ナク爾ノ作爲ニ如クハナシ 主ヤ
 爾ニ造ラレシ萬民ハ來テ爾ノ前ニ伏拜シ爾ノ名ヲ讚榮セ
 シ 蓋爾ハ大ニシテ奇蹟ヲ行フ爾神ヤ爾獨ナリ 主ヤ我
 ナ爾ノ路ニ導ケヨ然セバ我爾ノ眞理ニ行カン我心ヲ爾ノ
 名ヲ畏ル、ノ畏ニ固メ給ヘ 主吾ガ神ヤ我心ヲ傾ケテ爾
 ナ讚美シ永ク爾ノ名ヲ讚榮セン 蓋我ニ於ル爾ノ憐ハ大
 ナリ爾ハ我ガ靈ヲ甚ト深キ地獄ヨリ援ケ給ヘリ 神ヤ誇
 ル者ハ起テ我ヲ攻メ暴虐者ノ黨ハ我ガ靈ヲ尋ヌ彼等ハ爾
 ナ己ノ前ニ置カズ 然レモ爾主宏慈ニシテ矜恤寛忍ニシ

彼ハイエル
 サリムチニ
 フ
 ラアフハニ
 ギベトチニ
 フ

テ洪恩眞實ナル神ヤ 我ヲ顧ミ我ヲ憐ミ爾ノ力ヲ爾ノ僕
 ニ賜ヒ爾ノ婢ノ子ヲ救ヒ給ヘ 恩ノ徴ヲ我ニ顯シ給ヘ我
 ナ疾ム者ハ之ヲ見テ爲ニ愧テ得ン爾主ヤ我ヲ助ケ我ヲ慰
 メ給ヘバナナリ

第八十六聖詠

此詠此歌コレイノ嗣ノ用タリ

ニ 彼ノ基ハ聖山ニ在リ主ハシオンノ門ヲ愛スルヲ悉クイ
 ヤコフノ住所ニ愈レリ 神ノ城邑ヤ光榮ノ事ハ爾ニ於テ
 傳ヘラル 我ヲ知ル者ニハ我ヲアフトロワロンノヲ示
 サン視ヨズリスティヤ人及ティルドエソオビヤ此處ニアリ人

云ハシ 某彼處ニ生レタリ 五 シオンニ至テハ云ハン此人彼
人其中ニ生レタリ 至上者親彼ヲ堅固ニセリ 六 主ハ諸民ノ
記録ニ記サン此人其中ニ生レタリ 七 歌フ者モ樂ヲナス者
モ凡我ガ泉ハ皆爾ニアリ

第八十七聖詠

一 此詠此歌コレイノ嗣ノ用タリ 伶長ニマハラ
二 乙ヲ以テ之ヲ歌ハシムエズラノ裔エマンノ
三 教訓ナリ

ニ 主吾ガ救ノ神ヤ我晝夜爾ノ前ニ呼ブ 三 願ハ我ガ禱ハ爾
ガ顔ノ前ニ至リ爾ノ耳ヲ我ガ願ニ傾ケヨ 四 蓋我ガ靈ハ苦

難ニ滿タサレ我ガ生命ハ地獄ニ近ヅケリ 五 我ハ墓ニ入ル
者ト等クナリ力ナキ人ノ如クナレリ 六 死人ノ中ニ投ゲラ
レ猶殺サレテ柩ニ臥シ爾ニ復記憶セラレズ爾ノ手ヨリ絶
レシ者ノ如シ 七 爾曾テ我ヲ深坎ト闇冥ト淵ニ置ケリ 八 爾
ノ憤ハ重ク我ニ加ハリ爾ノ波ヲ傾ケテ我ヲ擊テリ 九 爾我
ガ識ル所ノ者ヲ我ヨリ遠ケ我ヲ彼ニ惡マル、者トナセリ
我閉サレテ出ルヲ得ズ 十 我ガ目ハ愁苦ニ因テ痛ク疲ル主
ヤ我終日爾ヲ呼ビ手ヲ伸ベテ爾ニ向ヘリ 十一 爾豈ニ死セシ
者ニ奇跡ヲ施サンヤ死セシ者豈ニ能ク起テ爾ヲ讚揚セン
ヤ 十二 爾ノ憐ハ墓ノ中ニ爾ノ眞ハ腐ル、ノ地ニ豈ニ知ラサ

ル、ヲ得ンヤ十三 爾ノ奇跡ハ闇冥ニ爾ノ義ハ忘ル、ノ地ニ
 何ゾ識ラル、ヲ得ンヤ十四 主ヤ我爾ニ呼ブ我ノ禱ハ晨ニ爾
 ノ前ニ在リ十五 主ヨ爾ハ何爲ゾ我が靈ヲ棄テ爾ノ顔ヲ我ニ
 隠シ給フヤ十六 我少キヨリ禍ニ遭ヒ幾ド消亡セントシ爾ノ
 恐嚇ヲ受ケテ我が疲ハ極レリ十七 爾ノ憤ハ已ニ我ヲ度リ爾
 ノ恐嚇ハ已ニ我ヲ碎ケリ十八 毎日我ヲ環ル一水ノ如ク齊ク
 集テ我ヲ圍ム十九 爾我が友ト親キ者トヲ我ヨリ遠ザケ我が
 識ル所ノ者ハ見エズ

光榮讚詞

第八十八聖詠

一 エズラノ裔エフムノ教訓ナリ

主ヤ我永ク爾ノ憐ヲ歌ヒ我ガ口ヲ以テ世々ニ爾ノ眞實
 ナ傳ヘン三 蓋我言フ憐ハ永ク建テラレタリ爾ハ爾ノ眞實
 ナ天ニ固メリ四 曰ク我ハ我が選ビシ者ト約ヲ立テ我僕ダ
 フトニ誓ヲ發セリ五 我永ク爾ノ裔ヲ固メ世々ニ爾ノ寶座
 ナ建テント六 主ヤ諸天ハ爾ノ奇跡ト爾ノ眞實ヲ聖者ノ會
 ニ讚榮セン七 蓋諸天ニ於テ孰カ主ニ並ブヲ得ン神ノ子ノ
 中孰カ主ニ較ブルヲ得ン八 神ハ聖者ノ大會ニ於テ畏ルベ
 ク凡ソ彼ヲ環ル者ノ爲ニ畏ルベシ九 主萬軍ノ神ヤ孰カ爾
 主ノ如ク有力ナルヤ爾ノ眞實ハ爾ヲ環ル十 爾ハ海ノ激怒

ナ治メ其波ノ騰ルキ爾之ヲ鎮ム 爾ハラフナ仆セシコ
 傷ツケラレシ者ノ如ク爾ガ有能ノ臂ニテ爾ノ諸敵ヲ散ラ
 セリ 天ハ爾ニ屬シ地モ爾ニ屬ス世界ト其中ニ滿ル者ハ
 爾之ヲ建テ 南北ハ爾之ヲ造レリネ オルトエルモンハ爾
 ノ名ニ因テ欣ブ 爾ノ臂ハ有能ナリ爾ノ手ハ有力ナリ爾
 ガ右ノ手ハ高シ 公平ト公義ハ爾ガ寶座ノ基ナリ 憐ト眞
 實ハ爾ガ顔ノ前ニ行ク 角ノ呼聲ヲ識ルノ民ハ福ナリ主
 ヤ彼等ハ爾ガ顔ノ光ノ中ニ行キ 終日爾ノ名ニ因テ歡ビ
 爾ノ義ヲ以テ舉ル 蓋爾ハ其力ノ榮ナリ我等ノ角ハ爾ノ
 惠ニ縁テ舉ゲラル 我ガ盾ハ主ヨリシ 我ガ王ハイズライ

川ノ聖ナル者ヨリス 昔爾異象ノ中ニ於テ爾ノ聖者ニ云
 へリ我勇者ニ助テ顯シ民ヨリ選バレシ者ヲ舉ゲタリ 我
 我ガ僕メヲドテ獲我ガ聖膏ヲ以テ之ニ膏セリ 我ガ手恒
 ニ彼ト偕ニシ我ガ臂彼ヲ固メン 敵ハ彼ニ勝タズ不法ノ
 子ハ彼ヲ窘迫ザラン 我彼ノ前ニ於テ彼ノ敵ヲ破リ彼ヲ
 疾ム者ヲ撃タン 我ガ眞實ト我ガ憐ハ彼ト偕ニシ其角ハ
 我ガ名ニ縁テ舉ラン 我其手ヲ海ニ置キ其右ノ手ヲ河ニ
 置カン 彼我ヲ呼デ云ハン爾ハ我ガ父我ガ神我ガ救ノ防
 固ナリ 我彼ヲ長子トナシ地ノ諸王ヨリ高ウセン 我彼
 ノ爲ニ永ク我ガ憐ヲ護リ我ガ彼ト結ビシ約ハ眞ナラン

我永ク其裔ヲ存シ天ノ日ノ如ク其寶座ヲ存セン 其子若
 我が法ヲ棄テ我が誠ヲ行ハズ 我ガ律ヲ犯シ我ガ命ヲ守
 ラザレバ 我即杖ヲ以テ彼等ノ不法ヲ撃チ鞭ヲ以テ彼等
 ノ不義ヲ撃タシ 然レドモ我ガ憐ミヲ彼ヨリ離サズ我ガ
 眞實ヲ廢セズ 我ガ約ニ違ハズ我ガ口ヨリ出シ者ヲ易ヘ
 ザラン 我一次我ガ聖ヲ以テ誓ヘリ我豈ニダワドヲ欺カ
 ンヤ 其裔ハ永ク存シ其寶座ハ日ノ如ク我ガ前ニ存セン
 永ク堅固ナル月ノ如ク天ニ在ル正キ證者ノ如クナラ
 ント 然レモ今爾棄テ輕シテ爾ノ膏ツケラレシ者ヲ怒リ
 爾ノ僕ト結ビシ約ヲ廢シテ其冠ヲ地ニ擲チ 其悉ノ藩

ヲ毀テ其城ヲ廢址トナセリ 路ヲ行ク者ハ皆彼ヲ掠ム彼
 ハ其鄰ノ笑トナレリ 爾ハ其仇ノ右ノ手ヲ高ウシ其悉ノ
 敵ヲ欣バシメリ 爾ハ彼ガ劍ノ刃ヲ轉シ彼ヲ戰ニ立タザ
 ラシメ 其光ヲ視ヒ其寶座ヲ地ニ倒シ 其少壯ノ日ヲ短
 ウシ羞ヲ以テ之ヲ覆ヘリ 主ヤ爾恒ニ隠ル、何ノ時ニ
 至ルヤ爾ガ怒ノ火ノ如ク燃ルハ何ノ時ニ至ルヤ 我ガ生
 クルキノ如何ナルヲ記憶セヨ 爾如何ナル空虚ノ爲ニ悉ノ
 人ノ子ヲ造リシヤ 人ノ中誰カ生キテ死ヲ見ズ己ノ靈ヲ
 地獄ノ手ヨリ脱ガセシヤ 主ヤ爾ガ往時ノ憐ハ安ニアル
 ヤ 爾ハ爾ノ眞實ヲ以テダワドニ誓ヘリ 主ヤ爾ガ諸僕ノ

蒙^カレ^ル 謗^シ我^ガ 悉^クノ 強^キ民^ヨリ 受^ケテ 我^ガ 懷^ニ 置^ク者^ヲ 記^ス
 憶^セ ヨ 主^ヤ 爾^ノ 敵^ガ 如^クニ 謗^リ 如^クニ 爾^ノ 膏^ツケラレ
 シ者^ノ 跡^ヲ 辱^ルヲ 記^ス 憶^セ ヨ 主^ハ 世^々ニ 崇^メ 讚^ムラ^ル アミ
 ン アミン

光榮讚詞

第八十九聖詠

神ノ人モイセイノ祈禱

主^ヤ 爾^ハ 世^々 我^等ノ 避^所タリ 山^未ダ 生^ゼズ 爾^未ダ 地
 ト 全^世界^ヲ 造^ラザ^ルノ 先^且 世^ヨリ 世^マデ モ 爾^ハ 神^ヲ 頌^ス
 爾^人ヲ 塵^ニ 歸^ラシ^メ 乃^曰フ 人^ノ 子^ヤ 歸^レヨ ト 蓋^爾ガ 目

ノ 前^ニ 千^年ハ 過^シ 昨^日ノ 如^ク 夜^間ノ 更^ノ 如^シ 爾^ハ 大^水
 ノ 如^ク 彼^等ヲ 流^ス 彼^等ハ 夢^ノ 如^ク 朝^ニ 生^{フル} 草^ノ 如^シ 朝
 ニハ 花^サキテ 青^ク 暮^ニハ 刈^ラレテ 稿^ル 蓋^我等^ハ 爾^ノ 怒^リ
 ニ 因^テ 消^エ 爾^ノ 憤^ニ 因^テ 驚^惶ル 爾^ハ 我^等ノ 不^法ヲ 爾^ノ
 前^ニ 置^キ 我^等ノ 隱^レタル 事^ヲ 爾^ガ 顔^ノ 光^ノ 前^ニ 置^ケリ
 我^等ガ 悉^クノ 日^ハ 爾^ガ 怒^ノ 中^ニ 逝^キ 我^等ハ 我^ガ 歳^ヲ 失^フト
 音^ノ 如^シ 我^ガ 歳^ノ 數^ハ 七^十年 或^ハ 健^カナレバ 八^十年 十
 リ 其^間 壯^{ナル} 時^モ 劬^勞ト 疾^病アリ 蓋^其過^ルト 速^ニシテ 我^レ
 等^乃 飛^去ル 誰^カ 爾^ガ 怒^ノ 力^ヲ 知^リ 又^爾ヲ 畏^ルノ 度^ニ
 依^テ 爾^ノ 憤^ヲ 識^ラシヤ 願^ハ 我^等ニ 我^ガ 日^ヲ 計^ルト 教^ヲ